

五 日ソ漁業取極問題

188 昭和7年1月20日 在ソ連邦広田大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

ソ連側より提出の漁業問題調整に関する基本
原則をめぐるカラハンとの応酬について

別 電 一月二十日発在ソ連邦広田大使より芳沢外務

大臣宛第三七号

右基本原則

付記一 昭和六年九月二十六日着在ソ連邦広田大使よ

り幣原外務大臣宛電報第四三一号

満州問題の経過説明並びに漁業問題に関する
諸懸案解決に協力方リトヴィノフに申入れに
ついて

二 昭和六年十一月十三日発在ソ連邦広田大使よ

り幣原外務大臣宛電報第五二〇号

漁業問題に関するカラハンおよびトロヤノフ
スキーの談話について

三 昭和六年十二月二十六日発在ソ連邦広田大使

より犬養外務大臣宛電報第六一八号

漁区安定問題、十二海里問題につきカラハン
との折衝振り報告並びに領海協定に関する新
政府の方針回電方稟請

モスクワ 1月20日後発

本 省 1月20日後着

第三六號

十九日⁽¹⁾「カラハン」ノ求メニ依リ往訪シタルニ「カ」ハ其
ノ後漁業問題ニ關シ日本政府ヨリ何等訓令アリシヤト言ヘ
ルニ付未タ來ラスト答ヘタルニ「カ」ハ之レ迄貴方ニ表明
セル蘇側ノ漁業問題調整ニ關スル基本原則ヲ書上ケタルニ
付之ヲ御渡シスヘシトテ別電第三七號ノ如キ書付ケヲ本使
ニ手交シツツ右ハ從來蘇側ノ提案ヲ簡明ニ記載セルモノニ
シテ詳細ノ事項ニ付テハ貴方ノ提案ヲ待ツテ協議致スヘシ
ト言ヘルニ付本使ハ其ノ内容ヲ聴取シタル後日本側ノ主張

五 日ソ漁業取極問題

ハ現有漁區全部ノ安定ニシテ本案ハ以前ノ分ト同様ナルカ
唯參考迄承知致シタシトテ第一項ノ標準高割合ハ現有標準
高ヲ規準トスルモノナリヤト反問セルニ然リト答ヘタリ次
ニ競賣ニ付セラルル二十五「パーセント」ノ漁區ハ如何ニ
割振ラルル考ヘナリヤ例ヘハ本年三「パーセント」、明年
十三「パーセント」、明後年九「パーセント」競賣ニ付ス
トセハ其ノ後ハ競賣ニ付セサル意カ或ハ又條約滿期迄ニ毎
年例ヘハ五「パーセント」宛競賣ニ付スルコトトスルモ可
ナルヤト問ヒタルニ「カ」ハ如何ナル[?]「パーセント」ナリ
トモ貴方ニ都合良キ案ヲ提示セラルレハ其ノ案ニ付出來得
ル丈ケ好意的ニ研究致スヘシト答ヘタリ更ニ第二項ノ國營
カ總標準高ノ四十「パーセント」ヲ我方ニ無協議留保方ニ
付テハ全体ノ標準高不明ナレハ其ノ算出方ニ付キ貴我ノ間
ニ紛争ヲ生スル虞無キヤ例ヘハ日本側ノ分ハ判明シ居ルモ
蘇側ノ分ハ不明ナリ現ニ國營留保高ヲ二百萬「ブード」ト
セハ問題ナキモ貴方ニ於テ總高二割ト主張セラルルカ故ニ
從來モ問題起リシニアラスヤ又右四十「パーセント」迄國
營留保ノ増加ハ條約トノ關係ハ如何ト問ヒタルニ「カ」ハ
前者ニ付テハ目下蘇側ノ標準高表作成中ナレハ追テ明示ス

ヘキニ付心配御無用ナリ又後者ニ付テハ極秘ニ規定アリ日
蘇双方ニ於テ商議セハ條約ニ抵觸セスト言ヘリ
更ニ⁽²⁾本使ハ蘇側ニ於テ飽ク迄競賣ヲ主張セラルルトセハ個
人ノ不當進出「コ」組合ノ不當經營ニ付テハ將來問題ヲ起
ササル様努力セラルル考ナリヤ將又日本側ハ現有漁區安定
ニ付テハ現在ノ標準高ヲ基礎トシ其ノ中或漁區ニ付テハ多
少標準高ノ増加ヲ希望シ既ニ田中丸ヨリ交渉中ナリ而シテ
借區料其他ノ件ニ付テモ現状維持ヲ主張シ居ル次第ヲ述ヘ
タルニ「カ」ハ個人及「コ」組合問題ニ付テ將來紛争無キ
様此際一掃シ度キ考ナリ又借區料標準高等ノ部分的問題ニ
付テハ追テ安定案ノ大綱協定ノ後ニ譲リテハ如何ト答ヘタ
ルニ付本使ハ是等ノ事項ニ對スル貴方ノ意嚮モ此際同時ニ
判明シ置ク方問題ノ進行ニ好都合ナルヘシト語リタルニ
「カ」ハ根本原則サヘ決定セハ他ノ部分的問題ノ如キハ自
然協定セラルルニ至ルヘシト云ヘルニ付本使ハ日本政府ニ
於テハ餘程有利ナル材料ヲ貴方ヨリ與ヘラルルニ非サレハ
恐ラク貴方提案ノ根本原則ニハ同意シ得サルヘシト云ヘル
ニ「カ」ハ日本側現有漁區ノ七十五「パーセント」ノ安定
ハ蘇側トシテハ日本側ニ與ヘタル最モ有利ナル材料ニ非ス

ヤ又日本當業者カ競賣ヲ大ニ恐レ居ル事ヲ承知シ居ルカ故ニ蘇側ニ於テハ此點ヲ充分考慮ノ上七十五「パーセント」迄ノ漁區安定案ニ讓歩シタル次第ナリト答ヘタルニ付本使ハ其七十五「パーセント」ノ中ニハ特別契約ニ依ル約二百五十萬布度モ含マレ居リ事實安定セラルハ約三百十萬布度ニ過キス而シテ蘇側國營四十「パーセント」留保ニ依リ現在ヨリ三百萬布度ヲ安定セントセラル譯ニテ何等日本側ニ對スル讓歩ト言フヲ得ス又日本側ハ毫モ競賣ヲ恐レス唯々恐ルルハ貴方ノ不正競争、不當規則ノミナリト云ヘルニ「カ」ハ日本側ノ希望ニ依リ競賣ヲ行ハス安定ヲ承諾シタルハ蘇側ノ讓歩ナリ又蘇側ノ競賣モ規則モ皆何レモ正當ナリ忌憚無ク言ヘハ予ハ日本當業者ハ第一漁業條約ノ存在ヲ好マサルヲ知ル然レトモ條約ハ動カシ難シ兎ニ角貴方ニ於テ蘇側提案ノ根本原則ニ同意セラルレハ日本側現有漁區ノ七十五「パーセント」ハ殆ト安定スルニ非スヤト繰返シ述ヘタルヲ以テ

本使ハ貴方ニ於テ飽ク迄スル主張ヲ繼續セラルレハ當方ヨリモ之ヲ反駁シ結局水掛ケ論ニ終リ終局ノ目的ヲ達スル事不可能ナリ日本政府ノ訓令カ未タニ來ラサルハ大ニ事情ア

モスクワ 1月20日後発
本 省 1月20日後着

第三七號

一、蘇政府ハ漁業條約期間中日本漁業者ニ對シ漁區漁獲標準總高ノ七十五「パーセント」ニ相當スル經營中ノ漁區ヲ保障スヘキコトニ同意ス前記漁區ノ二十五「パーセント」ハ一般的手續ニ依リ競賣ニ附セラルヘキモノトス
二、國營企業ノ標準高ハ「協議」ヲナスコトナク四十「パーセント」迄増加ス國營企業ニ對シテハ新ニ開設セラルル漁區一九三一年ニ於テ蘇側個人又ハ團體ニ依リ經營セラレタル漁區及以前ノ年ニ於テ競落セラレタルコト無キ漁區中ヨリ留保スヘシ
三、十八漁區、七漁區、個人、「コ」組合ノ諸問題及此種日本側要求ハ商議事項中ヨリ之ヲ削除シ解決セラレタルモノト看做ス
四、同時ニ十二海里水帶ニ關スル取極ヲ締結ス

(付記一)

ル事ニテ相當強力ナル反對論アルモノト思ハルト酬ヒタルニ「カ」ハ兎ニ角此際前述ノ蘇側根本原則ヲ電報アラハ間モ無ク何等カノ訓令來ルヘシト述ヘタリ
次テ天羽「カズ」間ノ商議ニ關シ「カ」ハ若シ安定問題決定セハ右商議事項ノ中數點ノ問題ハ自然消滅スルコトナルヲ以テ下記事項即チ(一)最低價值(二)無稅輸入品目(三)過去ノ追徵金及社會保險金ノ徵收(四)勞働時間(脫?)外新法例ノ通知(四)借區條件記載以外ノ魚類ノ課稅(五)船舶出入取扱ノ諸問題ニ付商議セハ可ナリト思考スト言ヘルニ付本使ハ競賣ハ來ル二月中ニ施行セラルル事トナリ居レハ速ニ協定スル必要アリト思考セラルルニ付此點ニ付貴方ノ注意ヲ喚起スト述ヘタルニ對シ「カ」ハ其點ハ全ク同感ナレハ右ハ特ニ考慮スルコトト致スヘシト言ヘリ
尙本使ハ我議會モ近ク開會ノ筈ナレハ當業者其他ニ於テモ是迄ノ商議經過ニ付承知シ度キ希望ヲ有スル者モアルヘケレハ必要ニ應シ右發表ニ關シ近ク打合致シ度シト傳ヘ置ケリ

(別電)

モスクワ 昭和6年9月26日後着
本 省

第四三一號(極秘)

貴電合第五九五號及第五九六號二十五日接到直ニ「リトヴィノフ」ヲ往訪シ今回ノ滿洲事件ハ殊更ニ誇大ニ吹聴セラレ居ルニ付只今政府ヨリ接到セル公報ニ依リ事實ヲ披露スヘシト斷ハリ日本政府ハ本事件突發スルヤ事態ヲ擴大セシメサル事ノ決定ヲ爲シ之ニ依リテ措置シ來レリ現在滿洲ニ於ケル兵力ハ大体一萬四千四百ニシテ條約所定ノ兵ノ限度一萬五千餘ニ及ハス吉林方面不安ノ爲同方面ヘ派遣セル軍隊モ事態ノ緩和ト共ニ小數ノ部隊ヲ除キ長春ニ歸還シタリ滿鐵沿線二、三ノ地點ニハ監視兵ヲ配置シタルモ右ハ支那軍ノ逆襲ニ備ウルノ意味ニテ他ハ全部鐵道附屬地及其附近ニ集中セラレツツアリ(寬城子ハ如何ト質問シタルニ依リ同地東支驛ハ滿鐵附屬地内ニハ非サルヘシト應酬シ置ケリ)奉天其他ニ於テ日本軍カ占領又ハ軍政ヲ布キタリトノ報傳ハリ居ル處事件勃發後支那當局分散ノ際一時奉天市政ニ關與シタルノミニテ其他ハ大体支那側在來ノ機關之ニ當リ居ル實情ナリ今後事態カ平常ニ復スルニ伴ヒ支那側ヨリ

殊更事ヲ釀ササル限リ漸次撤回ノ方針ナリ

尙哈爾賓方面ニ對シ出兵云々ノ風説ハ根據ナキコトニシテ
成程同地方面モ不安ノ事態認メラルルモ同方面居留民ノ保
護等ハ出兵スルコトナク警察力ヲ以テ之ニ充ツル方針ナリ
ト告ケ尙本使ハ事件勃發ノ當初ヨリ貴國ニ於テ何等心配サ
ルル理由ナシト思考シ其旨貴下及「カラハン」氏ニモ述ヘ
置キタルカ事實ハ其通りニシテ又本事件ニ關聯シ何等兩國
間ニ問題ヲ生セサリシハ本使トシテ幸トスル處ナリト附言
シタルニ「リ」ハ右通報ヲ謝スル旨挨拶シタル後歐洲方面
ニ於テハ英國ノ金ノ輸出禁止等ノ大問題アルニ拘ラス滿洲
問題ヲ非常ニ重大視シ居ル様ニテ外國新聞等ヨリ自分ニ對
シ意見ノ發表ヲ求メ來リ居ルカ Less spoken is better
ト考ヘ居レリト語レリ

依テ本使ハ歐洲方面ニ於テハ今回ノ滿洲事件ヲ以テ經濟危
機等ニ對スル民心轉換策ニ利用シ居ルモノト見受ケラレ滿
洲問題トカ對蘇聯邦關係等ヲ殊更大袈裟ニ取計フ傾向アリ
日本ノ新聞紙カ今回事件ニ關聯シ貴國トノ關係ニ於テ慎重
ナル態度ヲ執リ居ルコトハ喜フヘキ現象ト述ヘタル後
貴下トハ事務上ノ關係ニテ面會スルコトモ度々ナキニ付此

モスクワ 昭和6年11月13日後発
本省 昭和6年11月14日後着

第五二〇號

七日「カリーニン」招待ノ十月革命紀念ノ夜會ニ於テ「カ
ラハン」ト談合ノ機會ニ本日歸任ノ天羽參事官ヨリ漁業交
渉ニ關スル詳細ナル政府ノ訓令ヲ受取リタレハ何レ研究ノ
上根本問題ニ付會談致シ度キ處訓令ノ要旨ハ漁區ノ現狀維
持ヲ以テ條約期間中漁業ヲ安定シ且是レ迄懸案トナリ居ル
漁區ノ問題ヲ解決スルコトニ努力セヨト云フニ在ルカ右ニ
テ交渉無事進捗ノ見込アレハ結構ナルモ若シ然ラストセハ
現在北滿ニ於ケル事態ニモ鑑ミ此ノ際斯カル交渉ヲナスニ
適當ノ時機ナリヤ否ヤモ考ヘサルヘカラサル譯合ナリ尤モ
條約規則ニ關スル諸問題ハ自ラ別ニシテ著々商議ヲ進メ解
決ヲ計ルコト必要ト思考ス何レ是等ニ關シテハ先ツ非公式
ニ貴方ト懇談ヲ試ムルコトトシテハ如何ト考ヘ居ル次第ナ
リト述ヘタルニ「カ」ハ自分モ篤ト考究スヘシト答ヘタリ
越ヘテ十三日「トロヤノフスキー」大使十四日出發ノ暇乞
トシテ來訪ノ際先方ヨリ漁業問題ノ成行ヲ尋ネタルニ依リ
本使ハ大体以上「カ」ニ對スルト同様ノ話ヲナシタルニ

機會ニ申上クル次第ナルカ自分ハ當地在留中兩國關係ニ惡
影響ヲ及ホスコアルヘキ漁業問題ニ關スル諸種懸案ヲ解
決シ誤解ノ原因ヲ一掃シタキ考ナルカ折角貴下ノ御協力ヲ
得タキ希望ナリト語リタルニ「リ」ハ不意ヲ打タレタル体
ニテ蘇政府トシテハ一般ニ平和的意圖ヲ有シ各國ト平和關
係ヲ維持スルコトヲ希望スルモノナルカ殊ニ日本トノ友好
ナル關係ヲ増進セシメントスル熱望ヲ有ス漁業問題ニ付テ
ハ條約上ノ義務ト理由ノ存スル處ニ基キテ解決ノ方法ヲ求
ムヘキモノト思考ス唯一部日本當業者ノ要求ハ妥當ヲ缺ク
モノアリテ之ニ同意スルコト能ハサルモノアリ漁業問題ニ
付テハ折角交渉ヲ開始スル段取トナリ居ルカ今後交渉中困
難ニ逢着スルカ如キコトアル場合ハ微力ヲ盡スニ吝ナラサ
ルヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ漁業ハ營業ナレハ當業者ノ
希望モ充分之ヲ考慮スル必要アリ貴下御協力(脱)本使ハ
之ヲ多トスル旨述ヘ置キタリ
在歐米各大使及聯盟ヘ轉電セリ

(付記二)

「ト」ハ蘇側ニ於テハ十八漁區問題ハ既ニ存在セサルモノ
ト考ヘ居リ
又一一漁區問題ハ何トカ妥結ノ途モナキニ非サルヘキモ所
謂安定案ニ付テハ實ハ東京出發前幣原大臣及永井次官トモ
漁獲高ニ依ル五分五分說ニ付話ヲ爲シタルコトアルカ貴使
ノ言ハハルル現狀維持ハ蘇側ニモ適用セラルル趣旨ナリヤト
問ヒタルニ依リ然リト答ヘタルニ「ト」ハ蘇側ハ日本側ヨ
リ漁獲高少キ現狀ナレハ此現狀据置ニハ漁業カ蘇聯邦領内
ニ於テ行ハレ居ルニ鑑ミ輿論ニ對スル關係モアリ同意至難
ナルヘシト思料スル旨述ヘタルニ依リ本使ハ蟹ノ方ハ却テ
蘇側カ有勢ナルニ非スヤト言ヒタルニ「ト」ハ右ハ漁業條
約ノ關スル範圍内ニ於ケル狀態ナルヘク尙蟹ノ問題ニ付テ
ハ日本當業者ヨリ販賣協定ノ話モアリタリト言ヒタルニ依
リ本使ハ販賣協定等ハ當業者限リノ問題ナレハ其方ハ當業
者ト貴方關係機關トノ話合ニ任スヘキモノト思考ス尙本日
御話ノ事柄等ハ既ニ貴方政府ヘモ御報告アリタル次第ナリ
ヤト尋ネタルニ「ト」ハ然リト答ヘ尙安定案ニ付テハ法理
方面ト實質方面トアリ双方ノ主張ニ付實質的ニハ大ナル差
異ナカルヘキカ主義上幾多困難ナル問題アリト察セラル且

最近北滿ニ突發セル事態ニモ鑑ミ篤ト「カラハン」ト懇談セラルルコト然ルヘシト思考スト述ヘタルニ依リ本使ハ「カ」トハ何レ懇談スル積リナルカ本日ノ話ハ「カ」ヘモ傳言アリタシト希望シ置ケリ

(付記三)

モスクワ 昭和6年12月26日前発
本省 昭和6年12月27日後着

第六一八號

往電第六〇七號ニ關シ

緒方書記官ヲ伴ヒ二十五日「カラハン」ト會見、「カ」ハ此ノ前御話シタル借區期限滿了後競賣ニ附セラルヘキ日本人漁區ノ「パーセンテージ」ニハ多少相違シ居タリト斷ハリタル後此ノ前御尋ネノ右漁區中三二年三三年及三六年ノ各年度ノ分モ三四、三五年年度ノ分ト同様當業者力經營ヲ欲セサル漁區ト入替スル事差支ナシト言ヘルニ付本使ハ其旨ハ政府ニ報告スヘキカ本日ハ十八漁區、七漁區、法定距離ナキ四漁區及特別契約漁區ノ諸懸案ニ付御話シタシ十八漁區問題ニ付テハ貴下ハ嘗テ田中大使ニ漁區數ヶ所ハ日本側

ニ讓渡スルモ差支ナシト言ハレタルカ右ニ付如何ナル考ヲ有セラルルヤト問ヒタルニ「カ」ハ右諸問題ニ對スル蘇側ノ意向ハ既ニ或程度迄貴方ニ判明シ居ル筈ナレハ斯カル第二義の問題ハ安定案ヨリ切り離シ根本問題ニ付御協議シタク蘇側トシテハ日本側ノ漁區安定案提議ヲ快諾スルト共ニ之ニ付相當讓歩スル用意アル事ヲ表明セリト答ヘタリ本使ハ然ラハ安定問題解決セハ十八漁區問題其他ハ自然消失ストノ御話ナリヤ日本政府ハ是等諸懸案ニ付テモ相當重要視シ居ル次第ナリト言ヘルニ「カ」ハ根本問題ニ付蘇側ハ大ニ讓歩スルヲ以テ第二義の問題ハ消失スルモノト解スト答ヘタルニ依リ本使ハ日本政府ノ訓令ト貴下ノ御意向トノ間ニハ大ナル懸隔アレハ政府ニ報告スヘシト述ヘタルニ「カ」ハ十八漁區、法定距離ナキ四漁區ハ既ニ國營ニ留保濟ナレハ今更之ヲ放棄スル能ハスト言ヘルニ付本使ハ十八漁區其者ヲ云々スルモノニ非スシテ之カ代漁區ヲ幾^何カハ我當業者ニ讓渡スヘシト言フノミ又右四漁區ニ付テハ日本側ハ法定距離ナシト信シ居ルヲ以テ之カ國營留保ニ反對シ居レル次第ナリ依テ日本政府(脱)スル蘇側ノ考慮ヲ求ムルニアリ「カ」ハ之ニ對シ蘇側ニ於テ根本問題ニ付大ナル

讓歩ヲナス以上ハ右懸案漁區ニ付今更話ヲ繰リ返スノ要ナカル可ク

又田中大使ニ十八漁區ニ付數漁區ヲ日本當業者ニ讓渡スルモ差支ナシト申シタリトノコトニ付テハ當時ノ控等ニ付テ見タルモ左様ノコトナシト答ヘタルニ依リ本使ハ之等懸案漁區問題ニ付テハ何レ安定案ニ付政府ノ訓令ヲ得タル上更ニ申上クルコトトスヘシト述ヘタル處「カ」ハ貴使ハ今回ノ問題御提議ノ當初ニ於テ安定案ノ解決ヲ第一トシ諸懸案ノ解決ヲ第二トストノ話ナリシニ付只今御話ノ日本政府ヨリノ訓令アリタル上更ニ御意見ヲ伺フコトト致スヘシト答ヘタリ次テ本使ハ尙二三御尋ネシタキ件アリトテ過日御渡シノ蘇側國營漁區表ニハ鯨漁區ヲ除外シアル處同漁區ニ於テモ鮭鱒ヲ取りツツアレハ其漁獲高ヲ承知シタク又地方民ノ自營漁區ニ於ケル漁獲高ハ總標準高ニ算入セラルルコトトナリ居ルヤ爲念御尋ネシタシト述ヘタルニ「カ」ハ鯨漁區ニ付テハ承知セサルニ依リ追テ當該官憲ニ照會ノ上御答ヘスヘク地方民ノ漁獲高ハ勿論總標準高ニ算入セラルルモノト思考スト答ヘタリ、本使ハ鯨漁區ノ除外シアルコトニ付テハ(脱)「ゴロフスコイ」トノ調査ニ依ルモ事實ナリ

ト附言シ置ケリ

次ニ「カ」ヨリ田中丸ノ交渉ハ進捗シ居ルヤト言ヒタルニ付本使ハ協議ハ屢行ハレ居ルモ未タ一モ解決シタルモノナシトノコトナリト答ヘタリ

次ニ「カ」ハ十二海里問題ニ付貴使ハ本國政府ヨリ回訓ヲ受ケラレタリヤト尋ネタルニ付本使ハ右ニ關シテハ政府ニ報告シ置キタルカ元來十二海里領海說ニ付テハ日本政府ハ從來強硬ニ反對シ來リタル關係上本使一己ノ考ニ依レハ其解決ニハ多大ノ時日ヲ要スヘク加之本問題ニ付テハ當業者側ノミナラス法學者間ノ問題トモナリ居レハ誠ニ厄介ナル問題ト思考スト述ヘタルニ「カ」ハ本問題ノ解決カ同時ニ行ハレサレハ安定問題モ解決セサルコトトナルヘシト言ヒタリ本使ハ蘇側ニ於テハ領海ヲ如何ニ解シ居ラルルヤト問ヒタルニ「カ」ハ十二海里ヲ領海トスル建前ナリ然ルニ日本側ニ於テハ之ニ反對シ十二海里以內ニ於テ漁業ニ從事セント主張シ居ルカ故此際之ヲ何トカ雙方ニ於テ解決スルヲ要スト言ヒタリ依テ本使ハ蘇側ノ十二海里領海說ハ領土トシテノ意味ナリヤト問ヒタルニ「カ」ハ然リト答ヘタリ本使ハ右ハ帝政時代ノ主張ト同様ナリヤト問ヒタルニ「カ」

ハ帝政時代ノコトハ承知セサルモ現在ニ於テハ然リト答ヘ而シテ日本政府ハ曾テ本問題ノ協定方ニ付既ニ同意セラレ居ルニ非サト云ヒタルニ依リ本使ハ赴任前スル同意アリタルコトハ承知シ居ルモ雙方ノ見解ニハ大ナル相違アリト述ヘタリ

「カ」ハ大ナル相違トハ如何ナルコトナリヤト云ヘルニ付本使ハ日本側ハ主義上十二海里領海ヲ認メスト答ヘタルニ「カ」ハ十二海里ノ範圍内ニ日本人カ出漁シ得ルコトニ協定セハ可ナラスヤト云ヘルニ付本使ハ日本側ノ建前ハ三海里外ニ於テハ何等協定ナクトモ自由ニ出漁セントスルニアリト述ヘタリ之ニ對シ「カ」ハ「ソ」側ニ於テハ御話ノ其點ニ付協定ヲ爲サントノ意向ナリト云ヘリ本使ハ日本側ノ意向ハ既ニ提議シアル趣旨ニ依リ本問題ヲ協定セントスルニアルコトナレハ仲々容易ナラスト思考スト述ヘタリ「カ」ハ日本側提案ノ内容ニハ賛成シ難キモ先ツ天羽「カズロフスキー」間ニ於テ之カ草案ヲ作成セシムコトトシテハ如何ト云ヘルニ付本使ハ領海協定ニ付テハ新内閣ヨリ更ニ訓令ヲ受ケサレハ商議ニ入ルコト能ハサルニ依リ訓令アリ次第御通知スルコトトスヘシト云ヒ置ケリ

年度ノ我現有漁区ノ七割五分ニ相當スル漁区ヲ五年間安定セシムトスルニ在ルヲ以テ我方ノ要望ニ一步近ツキタル觀アルモ貴官ノ屢々指摘セラレタル通我方ノ要望トハ相距ルコト猶甚遠キモノナルノミナラズ幾多ノ缺陷ヲ包藏スルモノナルヲ以テ我方トシテハ之ニ同意シ難シ加之「ソ」側ガ根本原則トシテ提出シ居ルモノヲ見ルニ先方ハ日本側漁区ノ部分的安定ヲ認ムル交換條件トシテ國營ノ留保數量ヲ著シク増加スル一方個人及「コ」組合ノ進出ヲ其儘トシ尚領海協定ニ依リテ三哩外ニ於ケル邦人ノ漁業ニ迄制限ヲ加ヘムトスルモノノ如ク我方ニトリ幾多危険ナル事項ヲ包含スルモノト認メラル故ニ此ノ際「ソ」側提出ノ所謂根本原則ノ全般ニ對シ我政府トシテ新タニ對案ヲ提出スルコトハ困難ニシテ依然客年通二機密第二四三號訓令ノ方針ニ依リ我主張ヲ持續スル外ナシト思考スルニ付此ノ上共右趣旨ニ依リ「ソ」側ヲ我が原案ニ誘導スル様御配慮相成リ我方本來ノ要望貫徹方御努力ヲ切望ス尚「ソ」側根本原則ノ各項ニ對スル所見左ノ通

一、現有漁区ノ或部分ノミヲ「フィックス」スル案ハ真ノ安定ヲ實現セズ從テ日「ソ」漁業關係ノ圓滿ヲ計ラムト

終リニ本使ハ根本問題ニ關係ナキ他ノ事項ニ關シテハ此際天羽「カズ」間ニ商議ヲ促進セシムルコトトシテハ如何ト云ヒタルニ「カ」ハ如何ナル問題ヲ指サヤト尋ネタルニ付本使ハ例ヘハ現場裁判、勞働時間、漁網、鮭鱒以外ノ魚類課税問題等ニシテ右ハ安定問題ニ關係ナク問題ニ依リテハ却テ多クノ時間ヲ費サヤモ計ラレスト云ヒタルニ「カ」ハ然リト答ヘ「カズ」ニ其旨傳フヘシト云ヘリ就テハ領海協定ニ關スル新政府ノ方針御同電ヲ請フ

189 昭和7年1月30日 芳沢外務大臣より 在ソ連邦広田大使宛(電報)

ソ連側提案はなお我が方提案と距離があるの
で本来の要望貫徹に尽力方訓令

本省 1月30日午後12時30分発

第三〇號(極秘、至急)

客年往電第三八八号貴電第六一八号末段及本年貴電第三六号ニ関シ

毎々ノ御尽力ニ依リ「ソ」側ハ安定問題ニ付幾分誠意ヲ示シ其ノ提案セル安定案モ從來ノ競賣絶対主義ヲ稍緩和シ昨

スル本來ノ趣旨ニ照シ猶甚不満足ナリ依テ我方當初ヨリノ主張ニ係ル我現有漁区全部ヲ現狀維持トスル方針(前記訓令第一章三ノ前段)及其ノ他ノ漁区ニ付テハ右訓令第二章一ノ諸具体案ノ範圍内ニテ妥結ヲ計ル方針ハ此ノ際變更シ難シ尚「カラハン」ハ競賣廃止ヲ以テ條約違反ト為スモ現有漁区以外ニ對シ競賣ヲ認ムル以上現有漁区七五%ノ安定ヲ一〇〇%トスルモ主義上差支ナキ筈ナリ二、先方提案ノ國營ノ四割留保ハ現在ノ漁獲標準總高ノ四割ニ相當スルモノヲ五年間ニ留保セムトスルニアルカ如キモ將來右總高増加ノ際ハ其ノ四割留保ヲ要求セムトスルモノナラズヤトモ察セラルル處何レニスルモ交渉ノ現狀ニ於テ四割ノ留保殊ニ條約上ノ confer ヲモ要セスシテ完全ナル自由ノ留保(而カモ新漁区ヲモ含ム留保)ヲ認ムルコトハ事態惡化ノ要因トナルヘク我方トシテハ到底之ヲ容認スル能ハス尚客年貴電第五七九号「カラハン」提出交換條件ニ依レバ双方ノ持分ヲ比較スル場合「ソ」側ハ其ノ持分ニ地方農漁民ノ漁区ヲ含マスト主張シ居レルモ右漁区カ條約施行区域内ニ在ル以上且又實際問題トシテ客年地方民カ「ゴルーイギナ」河口ノ優秀ナル

漁区ヲ借受ケタル事実ニ鑑ミルモ同意スルヲ得ス

三、十八漁区七漁区等懸案漁区ノ解決ハ我方ノ重キヲ置ク所ナルヲ以テ是迄貴官御交渉ノ趣旨ニ依リ引續キ解決ヲ期スルコト、シ度又個人及「コ」組合ノ問題ニ関シテハ安定案ガ我方主張通成立シタル場合ニ於ケル処理方ハ客年往信第二四三號一般商議方針ニ記述ノ通ナルガ「ソ」側案ガ我々要望ト大ナル隔リアル今日「ソ」側ノ云フガ如ク之ヲ解決シタルモノト看做スベキコトニ同意スル能ハズ右ハ安定案ニ付意見ノ一致ヲ見タル上各問題ニ付審議シテ定ムベキモノトス

四、十二海里問題（沖取漁業問題ヲ含ム）ニ関シテハ本件ハ本来今次商議ノ安定問題トハ関係ナキニ付之ヲ其ノ交換條件ト為スハ當ラズ然レトモ「ソ」側ノ希望切ナルモノアルニ付交換條件ト為サシテ右商議ト平行討議スルコトハ差支ナシト考ヘラルルモ右ハ一ニ交渉上ノ情勢ニ依リ判断スヘキ所ナルニ付若シ御裁量ニ依リ討議開始ノ外ナシトセハ客年十月十六日附通二機密第二四七号往信ノ趣旨ニ依リ御措置アリタシ

尚日本軍艦ノ派遣ハ専ラ距岸三哩外ニ於ケル邦人ノ生命

於ケル「ソ」側ノ競落漁区ノ数量如何ニ由リテハ三二年乃至三四年ノミナラス三五、三六兩年度ニ於テモ現有漁区ノ一部ヲ競賣ニ付スルヲ要シ結局五年間引續キ「ソ」側競落ノ脅威ヲ受クルコトナリ安定ノ実ナシ又若シ今後五年間ニ現有漁区ノ二五%迄ヲ競賣ニサヘ出セハ可ナリトノ趣旨ナラハ右脅威ハ幾分緩和セラルヘキモ二五%ニ対スル脅威ハ残ルヘシ

(二)前記(一)前段ノ案ニ依ル場合ニ於テ「ソ」側ノ二五%以上競落シタル漁区ヲ邦人ニ譲渡シ又ハ國內法ニ依リ返還スル便法ハ從來ノ經驗ニ徴スレハ余程嚴重ナル保障ナキ限果シテ満足ナル実行ヲ期待シ得ルヤ危惧ノ念ナキ能ハス(三)若シ競賣ニ於テ二五%ヲ「ソ」側ノ為奪取セラルルトキハ三四年以降又ハ其ノ後邦人ノ借受漁区ハ特別契約ノ分ヲ加フルモ鮭鱒漁区ニ付テハ現時ノ七百四十八万「ブード」ヨリ六百二十六万「ブード」ニ下リ日「ソ」人漁業勢力ハ位置ヲ顛倒シ我方四八%「ソ」側五二%トナルヘク蟹漁区ハ十二万五千五百函ヨリ十万五百函ニ減シ日「ソ」比率ハ四二%対五八%トナルヘシ（右以外双方共漁区ノ得喪ナキモノト仮定ス）

財産ノ保護ヲ目的トスルモノニシテ我方トシテハ「ソ」側ト何等関係ナキ建前ナルヲ以テ「ソ」側ヨリ何等云為セラルヘキ理ナシ然レトモ從來往々我軍艦ト「ソ」側官憲トノ間ニ交渉アリシハ右官憲カ邦人ニ対シ不法ノ干渉迫害ヲ加ヘタルカ為ニシテ将来右官憲カ自省シ其ノ態度ヲ改ムルニ於テハ事実上何等交渉ヲ生セサルヘシ「ソ」側ニ対シテハ右ノ趣旨ニ依リ可然應酬アリタシ

190 昭和7年1月30日 芳沢外務大臣より
在ソ連邦広田大使宛（電報）

ソ連側安定案に関する心付きの諸点について

本省 1月30日午後10時50分発

第三五號

往電第三〇号ニ関シ

「ソ」側安定案ニ関スル心附ノ諸点御参考迄左ノ通り

(一)若シ「ソ」側案ガ邦人ノ三一年現有漁区（客年貴電第六〇七號「ソ」側提出ノ表ニ依レバ特別契約漁区ヲ含マザル趣旨トモ解セラル）ノ二五%ヲ「ソ」側カ競落スル迄ノ間ハ引續キ競賣ニ出スヲ要スル趣旨ナリトセハ毎年ニ

(四)本案ハ漁獲標準高ヲ計算ノ基礎トスルモノナルカ漁区ノ撰擇如何ハ當業者各自ニ重大ノ利害関係アルヲ以テ競賣ニ付スヘキ漁区ノ決定ニ當リ対内的ニ多大ノ困難ヲ伴フ右ハ漁区数ヲ基準トスル場合ニ於テモ同様ナリ

191 昭和7年2月3日 在ソ連邦広田大使より
芳沢外務大臣宛（電報）

ソ連側提案の疑点につき訓令に基づく質疑応答について

答について

モスクワ 2月3日後発
本省 2月4日後着

第六九號

貴電第三〇號ニ關シ

「カラハン」ノ都合ニ依リ二日會見本使ハ日本政府ニ於テハ蘇側提案ニ付篤ト研究ノ結果右ニテハ尚各種問題ヲ惹起スル虞アリトテ我方提案ノ趣旨ヲ更ニ貴下ニ説明方訓令アリタル旨ヲ告ケ前回御渡ノ貴方ノ根本原則ニ付テハ幾多ノ不審アルニ依リ先ツ最初此等ノ點ニ付爲念御尋ネ致ス可シトテ左記各項ニ付説明セリ

問、根本原則第一項ノ本邦人側三一年度現有漁區標準高中ニハ既定契約漁區ノ分ハ勿論包含セラレ居ラサルモノト解シ差支ヘナキヤ右ハ尙七ケ年有効ニシテ競賣ニ付ス可キモノニ非サレハナリ

答、否、含ミ居レリ

問、然ラハ競賣ニハ右特別契約漁區ノ標準高ヲモ加算シタル數量ノ二五%ヲ付スル意ナリヤ

答、然リ

問、果シテ然リトセハ昨年末御渡シノ本年以降毎年競賣ニ付セラル可キ一覽表ニ依レハ特別契約漁區ノ分ハ除外シアル處右ハ如何ナル譯ナルヤ

答、右數字ハ其ノ當時不正確ナリト斷ハリ置ケリ現ニ先日差上ケタル蘇側提案ニハ總漁獲標準高ノ七五%ニ相當スル經營中ノ漁區云々ト明記シ置ケリ

問、次テ七五%ヲ安定シ二五%ヲ競賣ニ付スルト云フ趣旨ハ五ケ年間ニ日本側現有高ノ二五%ヲ競賣ニ出セハ可ナリトノ意ナリヤ

答、然リ

問、然ラハ其ノ二五%ハ日蘇側何レカ競賣スルモ差支ヘナ

問、「ソ」側ノ國營ニ留保セントスヘキ「新タニ開カルヘキ漁區」トハ本年二月競賣ニ附セラルヘキ昨年末發表ノ漁區ヲモ指ス意ナリヤ

答、然リ、日本側持分ノ二五%ハ必ス競賣ニ昨年ノ標準高其ノ他ノ各種ノ漁區ニ付テハ我方ニ協議ナシニ四割迄自由ニ國營ニ留保シ得ル建前ナリ

問、嘗テ貴下ハ總漁獲高中ニハ農漁民經營漁區ノ標準高ハ包含シ居ラスト云ハレタルコトアルカ日「ソ」持分ノ比較又ハ總漁獲高算定ノ場合之等ハ包含セシムル考ナリヤ

答、右ハ算入スヘシ

前記質疑ヲ終ヘタル後本使ハ日本政府ノ新訓令ニ付御話致スヘシトテ大体御來示ノ次第ヲ各項目ニ付適宜取捨シ(領海問題ニ關シテハ本漁業問題商議ト平行討議スルコトハ差支ナキモ之ヲ交換條件ト爲スコトハ承諾シ得ス尙日本側トシテハ本使赴任前提出ノ趣旨ニテ商議ニ應スル意向ナル旨ヲ述ヘ沖取漁業及軍艦問題ニハ言及セス)其ノ要點ヲ説明スルト共ニ要スルニ今回訓令ノ趣旨ハ「ソ」側案ハ猶將來誤解紛争ヲ起ス點多アルニ付更ニ我方最初ノ提案ニ付貴方ニ對シ再考ヲ促ス様極力努力セヨト言フニ在リト述ヘタ

キ意ナリヤ、

答、⁽²⁾勿論然リ「ソ」側案ニハ二五%ノ競賣ハ一般的手續ニ依ルト記載シアレハ日本側ニテ全部競賣スルモ差支ナシ依テ本使ハ日本側ニ於テ斯ル疑問ヲ起シタルハ貴下カ嘗テ「ソ」側カ二五%以上競賣シタル場合ハ其ノ超過シタル分ヲ日本側ニ讓渡スルモ差支ナシト云ハレタルニ依ルモノナリト云ヘルニ「カ」ハ夫ハ最初ノ「ソ」側案ナリ今此處ニ御話シタルハ先日書物トシテ差上ケタル新シキ案ニ依リ申上ケタル次第ナリト言明セリ

問、次ニ國營留保四〇%ハ現在ノ總漁獲ニ付テナリヤ或ハ又客年度ニ付テナリヤ

答、三一年度ノ總漁獲高ニ付テノ四〇%ナリ(此ノ時「カ」ハ最初客年度ニ付テノ四〇%ナリト云ヘルモ後右ノ如ク云ヒ直シ日本側カ希望ナラハ客年度ニスルモ可ナリト唱和セリ)

問、若シ然リトセハ數字ニテ此ノ際幾布度ト明示シ得ラルル次第ナリヤ

答、然リ、然レトモ只今ハ其ノ數字ヲ持合セサレハ明示シ難シ

ルニ「カ」ハ右ニ對シテハ不日研究ノ上回答致スヘキモ今茲ニ一言シ置キタキハ只今御話ノ日本政府ノ訓令ハ尙充分ニ「ソ」側案ヲ諒解セラレスシテ發セラレタルモノナルカ如シ例ヘハ「ソ」側ノ新、舊兩提案ヲ混同シ居ラルルコト之ナリ自分ハ只今第二ノ提案即チ新提案ニ依リ御話シ居レリ例ヘハ日本側ハ競賣ニテ二五%ヲ獲得シ差支ナキヤト御質問アリタルカスノ如キハ素ヨリ差支ナキコトニテ斯ル點ニ付諒解ナカリシ結果「ソ」側提案カ不満足ナリト云ハルル次第カトモ思ハルト云ヘルニ付本使ハ今回ノ訓令ハ貴方案ノ解釋ニ付各場合ヲ豫想シ尙且ツ不満足ニシテ依然最初ノ提案通り一〇〇%ノ安定ヲ希望シ來レル次第ナリト答ヘタルニ「カ」ハ日本側ニ於テモ恐ラク其ノ當初ノ希望カ全部容レラレントハ豫想シ居ラサルヘシト思考ス兎ニ角互讓ナシニハ解決ハ困難ナリト云ヘルニ付本使ハ何レニシテモ我方提案ニ付是非御再考ヲ煩ラハシタシト力説シ置ケリ

192

昭和7年2月21日

在ソ連邦広田大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

現有漁區の競売その他に関する彼我の争論経

過について

別電 二月二十一日発在ソ連邦広田大使より芳沢外

務大臣宛第一一九号

カラハン提出のソ連側主張表明文書

モスクワ 2月21日前発

本省 2月21日後着

第一一八號

十九日夕刻「カラハン」ノ求メニ依リ往訪セル處「カ」ハ先日御申出ノ日本側意見ニ對シ別紙ノ通認メ置キタルニ付御一讀アリタシトテ別電第一一九號譯文ノ如キ露文書附ヲ手交セルニ付本使ハ之ヲ聴取シタル後右ハ從來ノ蘇側案ト毫モ異ナラサル様ナルカ如何ナル點カ相異シ居ルヤト問ヒタルカ「カ」ハ然リ何等異ナリ居ラス此迄御話シタル事ヲ繰返シタルモノニシテ唯蘇側主張ノ正當ナル事ヲ説明セルニ過キスト前提シタル後日本側現有漁區ノ二五%ヲ競賣ニ付スル事ノ無理ナラサル事四〇%ヲ國營ニ留保スル事ノ條約違反ニアラサル事(最終議定書第一部)ノ二ヲ引用セリ)十二哩問題ハ今次商議ノ漁業問題ト關聯シ居ル事ヲ指摘シタル上日本側現有漁區ノ二五%ヲ競賣ニ付セントスル

相違アリ即チ全部ト一部ノ相違ニテ根本的ノ相違アリ換言セハ日本案ハ條約期間中日本人ノ現有漁區全部ニ對シ競賣ヲ廢止セントスルモノニシテ右ハ到底蘇側ノ同意シ得サル處ナリト答ヘタリ

五 日ソ漁業取極問題

次ニ本使ハ現在總標準高ノ四〇%ヲ國營ニ留保スルコトトナレハ個人、「コ」組合所有ノ現有漁區全部ヲ是ニ充當セハ最早蘇側持分ノ漁區中競賣ニ附スヘキモノハ皆無トナルニ非サヤト述ヘタル處「カ」ハ國營ノ留保セントスル四〇%ナルモノハ一九三一年現在ノ總標準高ヲ基礎トシテ其數量ヲ定メタルモノニシテ是ニ充當スヘキ漁區ハ個人「コ」組合ノ現有漁區ノミニ限定セルニ非ス新開、不落漁區ヨリモ補充セントスル譯ニテ貴使御意見ハ妥當ナラスト反駁セリ依テ本使ハ右ハ一九三一年度現在漁區ニ付日本側ノ持分ヲ約七百五十萬布度蘇側ノ持分ヲ約五百五十萬布度トシテ具體的ニ計算スレハ直ニ判明スヘシトテ數字ヲ以テ説明シタル後蘇側ニ於テ新開、不落漁區ニ觸ルル迄モナク個人「コ」組合ノ現有漁區ヲ四〇%ノ中ニ充當セハ結局御覽ノ通り競賣ニ附セラルル現有漁區ハ殆ント日本人所有ノ二五%ノミトナルニ非サヤト云ヘル處

蘇側ノ提案ハ之ヲ蘇側ニ全部奪取セントノ野心ヨリナセルモノニ非スシテ條約ノ規定ニ副ハシメムトノ趣旨ヨリ出タルモノナリ而シテ日本側ニ於テ之等漁區ヲ欲スレハ競賣ニテ取得シ得ルハ自由ナル理ナリ兎ニ角只今御渡シシタル主旨ヲ貴使ヨリ日本政府ニ報セラレ而シテ之ニ對スル日本側ノ對案ヲ承ル事ヲ得ハ幸ナリト云ヘリ

依テ本使ハ右記載事項ノ第一ニ付御尋ネ致シタシトテ我方提案ノ日本側現有漁區ノ百%ヲ競賣ナシニ安定セシムル事トスルモ尙他ノ漁區ニ付テハ競賣ヲ行フ次第ナルヲ以テ競賣全廢トハナラヌ故ニ貴方ノ云ハルル如ク條約違反トハ云ヒ難シト應酬シタル處「カ」ハ否然ラス現ニ條約第二條第一項ニハ漁區ノ貸付ハ競賣ニ依リ之ヲナスト明記シアリ而シテ同條第二項ノ規定ハ特ニ例外ノ場合ヲ定メタルモノナレハ

日本人現有漁區ノ全體ニ是ヲ適用スルコトハ條約違反タルコトヲ免レスト云ヘルニ付本使ハ蘇側ニ於テハ既ニ例外トシテ日本側ニ七五%迄ノ安定ヲ認メラレタル以上是ヲ百%迄擴張セラルルモ條約上何等差支ナキコトニテ要スルニ程度ノ問題ナルニ非サヤト突込ミタル處「カ」ハ否々大ナル

「カ」ハ只今適確ナル數字ヲ持合セ居ラサレハ御話ノ點ニ付充分言明シ難キモ予ハ四〇%ノ中ニハ新開不落競賣ヨリモ補充スル以上個人「コ」組合ノ現有漁區中ノ一部ハ必ス競賣ニ附セラルルコトトナルヘキヲ信スト述ヘタルニ依リ本使ハ補充ノ方法ハ貴案ニ依レハ自由ナレハ必スシモ貴說ノ如キ結果トナラスト反駁シタル處「カ」ハ日本側ヨリ二五%出シ蘇側ヨリモ一定ノ割合ヲ出スコトトセハ可ナラン其數量ニ付本使ノ所見如何ト言ヒタルニ依リ本使ハ日本側トシテハ日蘇兩方共其現有漁區ノ百%ヲ安定シ新漁區不落漁區等ノミヲ競賣ニ附スルコトトセハ公平ナリトノ考ナリト述ヘタルニ「カ」ハ夫レハ不可能ノコトナリ日本カ現有漁區ノ二五%ヲ競賣ニ附スルコトトスルモ之ヲ五年間ニ分割スレハ一年ニ付僅ニ五%ニ過キサルニ非サヤ然ルニ日本側ハ既得漁區ハ飽迄自己ノモノト誤信シ居ルカ故ニ商議ヲシテ益々困難ナラシムル所以ナリ云々ト語レリ更ニ本使ハ第三項ノ懸案漁區ニ付テハ日本側ニ於テハ最も重要視シ居ルニ付何トカ解決セサルヘカラス又將來モ競賣ヲ行フトセハ個人進出「コ」組合問題モ競賣前ニ何トカ解決セサルヘカラス前同本使ノ説明ハ右ノ趣旨ナリト述ヘ終リニ本使ハ

十二湮問題ニ關スル日本政府ノ意見ハ本問題ハ安定問題提議以前ヨリ既ニ談合シ來リタル全ク別個ノ問題ナレハ別ニ之ヲ商議スルコトニハ異議無キモ漁區安定ノ問題ノ交換條件ト爲スコトニハ同意シ得サル次第ヲ告ケタル處「カ」ハ既ニ以前ヨリノ問題ナレハ之ヲ交換條件ト爲スト爲ササルトニ關係無ク速ニ協定スル要アリ本問題モ亦漁業問題ニ關係シ居ル以上蘇側トシテハ此際他ノ諸問題ト共ニ一括協定シ度キ考ナリト述ヘタリ

尙「カ」ハ以上諸問題ニ付テハ更ニ具體的研究ヲ遂ケ雙方ノ意見ヲ交換スルコトモ必要ナルヘケレハ二十四日再會御協議致度シト言ヘルニ付承諾シ置ケリ就テハ何分ノ儀至急回電アリ度シ

(別電)

モスクワ 2月21日前発
本省 2月22日後着

第一一九號

漁業問題調整ニ關スル「ソ」案ニ付テハ貴使ノ求メニ依リテ説明シタルコトナレハ最早同案カ受諾シ得サルモノナラ

何ニシテ誤解ヲ生シ得ルヤノ點ニ觸レ居ラス

三、「ソ」側トシテ日本側ニ對シ所謂安定問題ニ付テ大ナル讓歩ヲナシ日本側ノ希望スル主要問題ヲ日本漁業者ノ爲ニ有利ニ解決スル以上個々ノ漁區ニ關スル舊問題ニ立歸ル事ヲ欲セス個人企業及「コ」組合問題ニ關シテハ兩國ノ利益ノ爲ニ總テノ漁業問題ヲ調整スル以上之ヲ後廻シトスルハ妥當ナラス本職ハ玆ニ個人及「コ」組合問題カ貴使ヨリ提起セラレ且最初ヨリ我々ニ於テ之ヲ他ノ諸問題ト共ニ議シタルコトヲ指摘セサルヲ得ス

此問題⁽²⁾ヲ切離シテ後廻シニセントスル日本側ノ提議ハ新規ノモノニシテ其主意明カナラス同提議ヲ受諾スル事ハ兩國カ採擇シ且既ニ實行シ來レル議事手續ヲ逆轉セシムル事トナル可シ

四、十二湮水域問題ハ安定問題ト關係ナシトノ貴使ノ指摘ハ明瞭ナラス雙方間ニ進行中ノ商議ハ六月二十五日ノ日本政府ノ提議ニ依リテ開始セラレタルカ貴使ヨリ傳ヘラレタル該提議中ニハ商議事項ヲ所謂安定問題ノミニ局限セス漁業ニ關スル問題ノ全部ヲ含メアリ殊ニ日本政府ハ「不安ヲ除キ協調的空氣ヲ醸成スル事」ヲ提議セラレタリ日本政府

ントノ疑惑ハ一掃シタルヘキモ二月二日貴使ノ述ヘラレタル日本側ノ反對ニ對シ左ノ諸點ヲ指摘シ度シ

一、條約上漁區取得ノ根本的方法ヲナスモノハ毎年浦潮ニ於テ施行セラルル競賣ナリ條約有效ノ全期間ニ亘リ日本人經營中ノ全漁區百「パーセント」ヲ確保セントスル日本側提案ハ之等漁區ニ對スル競賣制度ヲ適用セサルコト換言セハ右ニ對スル競賣ヲ全廢スルコトヲ意味ススル提案ハ條約ノ最重要ナル部分ニ對スル違反ナリ「ソ」案ハ借區契約延長ニ依リテ前記漁區ノ七十五「パーセント」ヲ確保シ殘リ二十五「パーセント」ヲ競賣ニ付セントスルモノニテ右ハ競賣制度カ條約ノ要求スルカ如ク全部ノ漁區ニ對シテ適用セラルルコトヲ意味ス從テ日「ソ」兩案ハ同程度ニ條約ニ伴ハサルモノナリト見做スヘカラス「ソ」案ハ條約ニ立脚セントスルモノナルニ日本案ハ之ニ違反セントスルモノナリ

二、國營企業ニ對シ無競賣ニテ且「コンファア」スルコトナク漁區ノ四十「パーセント」(一九三一年標準高ニ對スル)ヲ貸シ付クルコトハ條約違反ニ非ス右ハ最終議定書第一部(二)ニ的確ニ合致ス又貴使ノ言明中ニハ「ソ」案カ如

ノ右希望ニ基キ蘇政府ハ他ノ問題中ニ十二湮水域ニ於ケル漁撈問題ヲモ調整センコトヲ提議セリ同問題ノ本義ニ關シテハ商議國ノ各々カ兩國ノ爲ニ共ニ共ニ受諾シ得ヘキ解決ヲ求ムルニ努ム可キハ言フ迄モ無シ

右ハ貴使ノ反對ニ對スル回答ナリ玆ニ本職ノ表示スル處ハ兩國ノ商議ヲ急速且圓滿ニ終結センコトヲ念トス二月二日ノ本職ノ回答及説明ニ依リ本職ハ貴使ヨリ商議ヲ決定的且急速ニ完了シ得ヘキ對案ヲ受ケ得ヘキモノト期待ス

193 昭和7年2月22日 在ソ連邦広田大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

ソ連側回答中の疑点並びに漁区の競売につき
意見交換について

モスクワ 2月22日前発
本省 2月22日後着

第一二一號

往電第一一八號ニ關シ

約ニ依リ廿一日「カラハン」ヲ往訪シ往電第一一九號ノ「ソ」側回答第一項末段及第二項末段ノ意義ヲ質問スルト

共ニ第三項後段ニ於テ個人及「コ」組合問題ノ後廻云々ノ點ニ付「カ」ノ誤解ナル旨ヲ指摘シ右問題ハ競賣モ近ク行ハルル筈ナレハ之カ審議ハ寧ロ取急ク要アル次第ナル旨述ヘタル後前顯御回答ニ關シ尙他ニ「ソ」側ヨリ申添ヘラルルコトナキヤト尋ネタル處「カ」ハ第一項末段ノ意味ハ貴使ハ百%モ七十五%モ五十歩百歩ト云ハルルモ根本的ニ相違セル事ヲ指摘シ居ルモノナリ第二項末段ノ意味ハ本件ニ關シ貴使カ國營ニ「コンファア」無シニ四十%ヲ留保スル時ハ誤解ヲ生スル虞アリト云ハレタルカ爲ナリ尙「ソ」側トシテハ先日ノ回答以外此ノ上申上クヘキコトナシ只一刻モ早ク日本側ノ回答ヲ待チ居ル次第ナリト答ヘタルニ付本使ハ國營ノ四十%留保ニ關スル御回答ハ國營留保ニ付テハ之レ迄既ニ條約上ノ解釋上モ種々問題ヲ生シタルコトアリ況ヤ四十%ノ留保トナレハ益々問題ヲ複雑ナラシメ一層紛糾ヲ生スルノ虞アリト云フ意味ナリト述ヘ置ケリ

次ニ「カ」ハ日本當業者ハ競賣參加ノ爲既ニ東京ヲ出發セリトノ報道ニ接シ居ル處本年ハ餘リ「インテレスト」ヲ以テ臨マサル可シト謂ヘルニ付本使ハ否日本人既有漁區中十五ヶ所ハ競賣ニ發表セラレ居リ是等漁區ニ付テハ紛争起ル

漁區安定問題につき三十一年度と三十二年度い
ずれを基礎とするかの点に関する応酬について

モスクワ 4月14日後発

本省 4月16日前着

第二四八號

往電第二二三號ニ關シ

本使ヨリ督促ノ結果「カラハン」トノ會見ハ五日トナリシ處同氏ヨリ「カ」風邪ニ罹リタル爲延期十三日漸ク會見セリ

「カ」ハ安定問題ニ付本使ニ於テ其後何等カ良キ思ヒ付ナキヤト尋ネタルニ依リ先ツ此ノ前開陳セル本使私見ニ對スル「ソ」側ノ意見開陳ヲ希望セルニ「カ」ハ之迄「ソ」側ニ於テハ日本側持分ノ七十五%ヲ條約期間安定スル案ヲ提議シタルカ前回貴使ノ御話モアリ今年競賣ニ附セラレタル日本人漁區ニ相當スル%タケ安定漁區ノ%ヲ増スコト同意スヘシ例ヘハ右%ヲ五分トセハ安定漁區ノ%ハ八十%トナル譯ナリ日本側ハ安定ヲ主張セル漁區カ本年ノ競賣ニ附セラレタリト云ハルルカ右競賣漁區ノ大部分ハ再ヒ日本人ノ手ニ歸シタル上日本側ハ外ニ八十以上ノ漁區ヲ新ニ競落

ヤモ知レス漁區安定問題一定成立迄右漁區ヲ競賣ヨリ除外スル様何トカ暫定的ノ便法ヲ設クル必要生スルヤモ知レサレハ豫メ此點考慮シ置カレンコトヲ希望スト言ヘルニ「カ」ハ競賣迄ニ商議纏マラサレハ其漁區ハ條約及國內法ノ規定ニ基キ競賣ヲ行フ外無シト答ヘタルニ付本使ハ時間ノ都合上競賣期日迄ニ萬一商議纏マラサルコトアラハ（若シ貴方ニ於テ我方ノ要望通り百「パーセント」ノ安定ヲ容認セラルレハ何等起ラサル理ナルカ）是等漁區ノ爲折角平靜ニ商議進行中ナル兩國間ノ空氣ヲ惡化スルコトトモナル可シ又現ニ現有漁區ノ凡テニ付安定問題商議中ノコトナレハ假令全部ニ付テノ協定ナクトモ應急ノ措置トシテ當面ノ漁區ノミニ付競賣見合セノ部分的協定ヲ爲スモ差支無カル可シト述ヘタル處「カ」ハ自分トシテハ斯ル部分的協定ニハ同意シ難シトテ何ヨリ急速全部ノ協定促進ニ努力スルコト切望ニ堪ヘスト答ヘ次回會見ハ日本政府ヨリ回訓アリタル上ニ譲リ度シトテ（脱？）協定ニ承諾シ置ケリ

194 昭和7年4月14日

在ソ連邦広田大使より
芳沢外務大臣宛（電報）

セリ其結果日本側ノ標準高ハ九十萬「ブード」ヲ増シ日本人ノ總標準高ハ昨年五十七乃至五十八%ナリシモノ本年ハ六十一%ニ上レリ安定問題ノ解決ニ當リテハ斯ル點モ考慮ニ容レサルヘカラスト述ヘタルニ依リ本使ハ競賣ニ於テ競落セルハ日本人ノ實力ニ依ルモノニシテ何等安定交渉上ノ考慮ニ容レルヘキモノニ非ス之迄貴方提議ニ依レハ日本側漁區ノ二十五%ヲ競賣ニ附スルコトナリ居レルカ只今ノ御話ハ本年ノ競賣ニ右ヲ二十五%ヨリ差引殘二十二%ヲ競賣ニ附スルト云フ趣旨ナルカ果シテ然ラハ貴方最初ノ提議ト本日ノ提議トハ何等選フ所ナキニ非サヤト問詰メタルニ「カ」ハ形式上ハ其通りナルモ實質ニ相異アリ

是迄ハ日本側百%安定ノ主張ニ對シ二十五%タケヲ競賣ニ付スヘシトノ對案ヲ提議ヲナシタル次第ナルカ本年日本カ五漁區ノ三%競賣ニ付セラレ漁區ヲ失ヒタル結果日本側持分ノ漁區ハ九十九%四分ノ三ニ減少セリ依ツテ其ノ二十二%ヲ競賣ニ付スル趣旨ナリト言ヒタルニ依リ本使ハ其ハトシテモ無キ事ナリ日本政府ノ主張ハ百%ノ安定ナリスル微細ナル讓歩ニテハ問題ニナラスト言ヘルニ「カ」ハ乍併讓歩ハ讓歩ナリ殊ニ日本側ハ本年新ニ八十以上ノ漁區ヲ取得

十二年度ノ現状ヲ基礎トシテ百%ノ安定ヲ提議シタランニハ蘇政府ハ如何ナル態度ニ出テラルルヤ御意見伺ヒ度シト述ヘタルニ「カ」ハ從來日本側提議ハ三十一年度ノ現有漁區全部ノ安定ナリシ處更ニ三十二年度ノ全部安定ヲ要求スルトセハ之迄以上ヲ要求セラルルコトナラスヤ蘇政府トシテハ三十二年度分ハ安定等ノ點切離シ此方ハ條約ニ基キ處理スルコトニ異存ナカルヘシト言ヘリ本使ハ之ニ對シ三十一年度三十二年度ノ點ハ政府ノ意嚮ヲ照會セサレハ判明セサルモ安定問題解決ノ爲ニハ或ハ本年競賣ノ結果ニ依ル新事態ヲ基礎トスルコト自然且實際的ナラスヤトモ思考ス又交渉上モ昨年度ヲ基礎トスル時ハ甚タ複雑トナルニ反シ三十二年度ヲ基礎トスル方交渉簡單ノ様ニ思ハルト述ヘタルニ「カ」ハ自分ノ方モ考ヘ置クヘキモ貴使ヨリモ三十二年度分ヲ基礎ニスヘキヤノ點ニ付政府ニ請訓セラレ貴使ヨリ合理的提議ヲ爲サレンコトヲ希望スト述ヘタルニ依リ本使ハ三十二年度ヲ基礎トシテ安定案ヲ立ツルノ點ニ付テハ請訓スヘシト答ヘ置キタルニ付政府ノ御方針及右ニ對スル具體案至急回電アリタシ

シタル事ナレハ此ノ點モ考慮ニ入レサルヘカラスト繰返セリ
次テ本使ハ本日先方ノ提議カ千九百三十一年度ノ現有勢力ヲ基礎トスルモノナリヤ其レ共千九百三十二年度ノ競賣後ニ於ケル現有勢力ヲ基礎トスルモノナリヤヲ訊ネ此ノ前御話シタル自分ノ私見ナルモノハ日本政府トシテハ百%ノ安定ヲ主張スルモノナルモ事實上本年ハ日本人漁區ノ一部競賣ニ付セラレタル次第ナレハ是ヲ除キタル残り及日本側ニ再ヒ競落セル十三漁區等全部ヲ安定シ又蘇側ニ競落セラレタル二漁區ニ付テハ競賣ノ結果ニ依ル借區料ニテ日本人ニ買戻スト言フニアリサスレハ貴方カ絶エス條約上必要ト言ハルル競賣モ行ハレ貴方ノ主張ノ通ナル事トナリ好都合ナラスヤト述ヘタルニ「カ」ハ三%タケヲ競賣ニ付シタルノミニテハ到底承認出來ス又二漁區買戻シハ問題トナラス此ノ前モ右買戻シハ條約ノ第何條ニ基キヤト御訊ネシタルカ條約ニハ何等根據ナシスル事ヲ言ヒ出サハ蘇側ハ本年ノ競賣ニ於テ八十以上ノ漁區ヲ失ヒタルニ依リソノ半分ノ買戻シヲ主張シ得ル理ナラスヤ尤モ蘇側トシテハ競賣ヲ行ヒタル以上買戻シヲ求ムルカ如キ意向ナシ又漁區ハ是以上問題

トナラサル様致シ度シ次ニ三十一年度ヲ基礎トスルヤ三十二年度ヲ基礎トスルヤハ只今ノ御訊ネニテ始メテ氣付キタルカ蘇政府トシテ考ヘタル事無キカ是ニ對スル日本政府ノ御意見如何ト言ヘルニ付本使ハ問題ヲ速ニ解決シタキ一心ヨリ此ノ前ノ私見ヲ述ヘタル次第ナルカ

(3) 三十二年度ノ新事態ニ對シ如何ニ處理スヘキノ點ニ付テハ何等政府ヨリ訓令ナキニ付政府ノ意見ハ承知セス本使トシテハ從來安定問題ハ三十一年度ノ事態ヲ基礎トシテ交渉ヲ行ヒ來リタルモノナルニ依リ同年ヲ基礎トシテ問題ノ解決ヲ計ルコト然ルヘシト考ヘタル次第ナリ即チ三十一年度現有ノ日本人漁區ハ本年競賣ニ付セラレ再ヒ日本人ノ手ニ歸シタルモノモ含メ總テ漁業條約期間安定シ二漁區ハ買戻スルコトトスヘク三十二年度ノ分ハ將來ノ交渉ニ讓ルコトトスヘシト言ヘルニ「カ」ハ安定問題ハ總テ漁區ニ關スル問題ナレハ三十一年度ト二年度ト切離スコトハ不可ナリ一括シテ解決セサルヘカラス三十二年度ニ於テ日本側ハ九十萬ニ達スル増加ヲ見事態ニ重大ナル變化起レリ就テハ之ニ關スル日本政府ノ方針ヲ承知致度シト言ヘリ依テ本使ハ政府ノ意嚮ハ請訓ノ上ナラテハ不明ナルモ假ニ日本政府ヨリ三

195

昭和7年5月13日

芳沢外務大臣より
在ソ連邦広田大使宛(電報)

本年度現有漁區を基準としてそのうち一定の
漁區を安定せしむる案の提出決定について

本省 5月13日後9時30分発

第一九七號(至急)

貴電第二四八号ニ関シ

「ソ」側ニ於テハ邦人漁區安定ノ趣旨ニハ同意ナルモ現有漁區全部ノ安定ニハ主義上反對シ居ルモノト認メラルル處我方トシテハ「ソ」側反對ノ理由タル全部ノ安定カ條約違反ナリトノ見解ニ賛同シ難キコトハ從來屢次主張ノ通ナルモ此ノ際問題ノ解決ヲ容易ナラシメタキ方針ヲ以テ實際的見地ヨリ案ノ建前ヲ變更シ本年度現有漁區ヲ基準トシテ其中一定漁區ヲ安定セシムルノ案ヲ提出スルコトセリ右案ハ標準高等ノ比率ニ依ル方法ヲ可成避ケ直接安定スヘキ漁區ヲ具體的ニ決定セムトスルモノニシテ即チ本年現有漁區三百九十三ヶ所中特別契約漁區四十四ヶ所及本年競落ノ五年漁區八ヶ所計五十二ヶ所ヲ除キタル殘部即チ條約改訂期迄ニ貸付期間満了スヘキモノノ内(一)昨年現有漁區二百五

十九ヶ所（内十一ヶ所ハ本年再ヒ競落ス）（二）本年競落漁区ニシテ以上列記ノ漁区ニ該當セサルモノ八十二ヶ所ノ内其ノ半数四十一ヶ所ト昨年現有漁区中本年「ソ」側ノ競落シタルモノニ相當スル二ヶ所計四十三ヶ所（此等漁区ハ本案ニ對シ「ソ」側カ主義上同意ノ場合我方ヨリ具体的ニ決定シ「ソ」側ヘ通知ス）以上二口合計三百二ヶ所ニ對シ其ノ貸付期間満了後條約改訂期迄即チ一年乃至四年間貸付期間ヲ延長スルコト、ス而シテ此等漁区以外即チ本年競落漁区ノ残り四十一ヶ所ハ期間満了ノ際新漁区ト共ニ競賣ニ付スルコトトス（前記二百五十九ヶ所ノ内譯ニ付テハ客年八月一日附通二合第九二六号附属第四号及本年往電第一七一号参照又八十二ヶ所ニ付テハ別電第一九八号参照）

右案ハ（一）現有漁区全部ノ安定ニアラズシテ一部安定ニ過ギス他ノ漁区ハ競賣ニ依リ處理スルモノナルヲ以テ「ソ」側反對ノ條約上ノ理由ハ消滅スヘク（二）又本年競落漁区ニ付テハ漁区數ニ付安定割合ヲ定メタルモ其ノ他ノ多数漁区ニ付テハ何等割合ヲ定メス右ハ從來「ソ」側提案中議論ノ焦點トナリタル割合ヲ論議スルヲ可成避クル趣旨ナルノミナラス（三）「ソ」側カ嘗テ安定漁区ノ比率中ニ算入セルコトアル

案ノ建前ニ應スル場合ニ於テモ安定ノ基準トシテ漁区數ヲ採ルヲ妥當ナラストシ標準高採用方ヲ主張スルヤモ測リ難キモ標準高ノ場合ハ安定セシムヘキ個々ノ漁区決定上困難ヲ生スヘキニ付寧ろ漁区數ヲ標準トシ且安定漁区ヲ最初ヨリ具体的ニ決定スルコト遙ニ簡易ニシテ實行シ易キニ付「ソ」側ニ對シ以上ノ趣旨ヲ適宜説明セラレタシ

尚又前記新案以外ノ事項ニ付ハ我方ハ引續キ往電第三〇号ノ趣旨ニ依ル外ナシト思考シ居ルニ付右ニ御承知アリタシ尤モ右往電ノ一ノ中段ノ現有漁区ニアラサル「其ノ他ノ漁区」ノ取得方法トシテ日「ソ」双方保有漁区ノ總數量ヲ對等ナラシムル案（客年往電第三〇七号ノ四ノイ及ハ）ハ本年競賣ノ実績ニ鑑ミ今日ニ於テハ我方ニ取り甚タ不利ノ結果ヲ生スヘキニ付貴官ニ於テ客臘一度右案ヲ提議セラレタル経緯ハアルモ（客年貴電第六二四号）今後ハ一切右對等案ニ言及セサルコトト致度右御含込為念

196

昭和7年5月13日

芳沢外務大臣より
在ソ連邦広田大使宛（電報）

新提案を提出した内情説明並びに先方への対

特別契約四十四ヶ所ハ條約改訂期迄ニ期限満了セズ從テ安定ニハ關係ナキヲ以テ之ト同様ノ關係ニ在ル本年競落ノ五年漁区ト共ニ之ヲ本案ヨリ除外シ安定漁区ノ數ヲ減少シタル等從來ノ我方案ニ比シ「ソ」側ノ應諾容易トナリタルモノトノ見方モアルヘシ尤モ前記我方ノ安定希望ノ内容ハ實質上昨年度ノ現有漁区全部（但本年「ソ」側ニ競落セラレタル二漁区ニ付テハ之ニ相當スルモノ二ヶ所ヲ求ム）ノ外本年邦人ノ新タニ競落セル漁区中四十一ヶ所ノ安定ヲ求ムルモノニシテ一見從來ノ我方要求ニ新要求ヲ追加シタルノ觀アルモ我方カ昨年以來ノ交渉ニ於テ昨年度現有漁区ノ安定ヲ要求シ來レルハ當時ノ現有漁区ヲ標準トナセルニ過キス然ルニ其後本年ノ競賣既ニ行ハレ今後安定ノ期間ハ一年乃至四年ニ短縮シタルカ如キ事情ノ變化アルヲ以テ理窟トシテハ貴官ガ貴電第二四八号ニ於テ「カ」ニ質問セラレタルカ如ク本年度現有漁区全部ノ安定ヲモ要求シ得サルニアラサルノミナラス今現有漁区全部ノ建前ヲ捨テテ一部安定ノ案ヲトル以上新競落漁区ヲモ考慮ニ入レ切メテ其ノ半数位ハ安定ヲ要望セサルヲ得サル次第ナリ就テハ以上ノ趣旨ヲ以テ御折衝ノ上結果回電アリタシ尚「ソ」側ハ若シ右新

処方策につき訓令

付記 日付不明

農林省提出の漁業問題解決のための新提案

本省 5月13日後6時0分発

第一九九號（極秘、至急）

往電第一九七号ニ関シ

今回ノ我方提案中本年新競落漁区四一ヶ所安定ノ要求ハ「ソ」側應諾ノ見込甚タ薄キヤニ感セラル、ノミナラス是迄我方主張ノ趣旨乃至ハ貴電第二四八号「カラハン」ニ對シ述ヘラレタル貴官私見ノ趣旨ト合致セサル嫌アルハ當方ニ於テモ認メ居ル所ナルモ今日トナリタル以上對内關係ヨリスルモ此ノ程度ノ要求ヲ為シタキ農林省ノ切ナル希望ナルニ依リ兎ニ角此ノ新案ヲ提出スルコトトシタルニ付テハ貴官ニ於テモ右御含ノ上此際御提案アル様致度尚右提案ニ依ル御交渉ノ結果到底貫徹ノ見込ナキ場合ニハ他ノ案ヲ考慮スル外ナカルヘキガ其ノ際ニ於テモ當方トシテハ少クモ昨年現有漁区ニ相當スルモノダケハ何等カノ形式ニテ全部安定セシムルコトト致度キ所存ナリ而シテ之カ案トシテハ例ヘハ（イ）本年現有漁区ノ標準高ト（ロ）昨年現有漁区ノ夫トノ

二五九箇所ハ三十一年度現有ノモノノ一部ニシテ三十三年度乃至三十六年度ニ於テ租借期間ノ満了スルモノナリ又(二)四一箇所ハ三十二年度ニ於テ新ニ競落シタルモノノ半数ニシテ三十三年度又ハ三十五年度ニ於テ租借期間ノ満了スルモノナリ依テ之等漁区ノ租借期間ヲ前記ノ通り延長シ之カ安定ヲ期セントス而シテ(一)ニ属スル漁区ハ何レモ三十一年度邦人現有漁区ノ一部ナルヲ以テ特ニ説明スル要ナキモ(二)ニ属スル漁区ヲ本問題ニ加ヘタルハ三十二年度ノ事態ヲ考量ニ入レ且ツ我方最初ノ方針(昭和六年外務大臣発広田大使宛公信第二四三號)第二章一ノ(二)以下ノ趣旨ニ依リ此ノ種漁区ノ半数ヲ安定セントスルモノナリ次ニ前記除外ノ漁区五十二箇所ハ何レモ條約改訂期迄ニハ租借期間ノ満了セサルモノナルヲ以テ此ノ際問題トナスヘキ性質ノモノニアラス尤モ從來ノ交渉ニ於テ「ソ」側ハ安定比率中ニ右漁区中ノ特別契約ニ属スル四十四箇所ヲ算入セルコトアルモ前記ノ理由ニ依リ右我方最初ノ方針(第二章一ノ(一))ニ準シ前記五ヶ年漁区ト共ニ本問題ヨリ除外シ問題ノ内容ヲ單純化シ以テ交渉ノ妥結ヲ容易ナラシメントスル要意ナリ之ヲ要スルニ右我方新提案ノ目的ハ實質的ニハ(一)三十一年

差額ヲ算出シ右差額ノ右(イ)ニ対スル比率ヲ求メ今後ハ之ニ相當スル漁区ヲ新漁区ト共ニ競賣ニ付シ(ロ)ノ漁区(又ハ之ニ相當スルモノ)ヲ安定スルカ如キ方法モアルヘシ但シ右ニテハ「ソ」側ノ嫌フ歩合ノ問題ヲ生スヘク交渉遅延ノ虞アリ寧ロ往電第一九七号ニ依リ建前ヲ異ニシタル案ニ依リ折衝シ若シ「ソ」側ニ於テ大体應諾ノ色アリトセバ此際ハ安定スヘキ漁区数ノミヲ協定シ安定漁区ノ具體的決定ハ來年度漁区発表表迄ニ邦人ノ指定ニ委スルコトトシ右安定漁区数ハ今回提案ノ(一)ノ昨年現有漁区二五九ヶ所及(二)ノ「ソ」側競落ノ昨年現有漁区ニ相當スルニケ所計二六一ヶ所ニ相當スル同数漁区数(此場合モ特別契約漁区及本年競落ノ五年漁区ハ安定問題ニハ關係ナキモノトス)トセハ安定漁区ノ比率ノ問題ニ触ルコトナク且建前上「ソ」側ノ最モ強ク反対スル昨年現有漁区全部ノ安定トハナラス又實際ニ於テモ邦人カ安定漁区ヲ決定スルニ當リ昨年現有漁区ノ一部ヲ抛棄シ本年競落漁区ト取替フルモノ生スルコトアルヘキヲ以テ益々「ソ」側ノ受諾ヲ容易ナラシムルヤニ思料セラル以上両案共未ダ本省限りニテ攻究シ居ルニ過ギサル次第ナルモ御折衝ノ成行ニ由リ別案提示ノ要アル場合ニ

ハ貴官限ノ案トシテ提示セラレ「ソ」側トノ間ニ妥結ノ可能性アラバ貴見ヲ附シ御請訓アリタシ

(付記)

漁業商議ニ関スル件

芳澤大臣宛廣田大使發電第二四八號末段ニ関シ
本年競賣ノ結果事態ニ多少ノ変化アリタルモ我方カ昨年邦人現有漁区全部ノ安定ヲ要望スルノ卓ハ今モ猶何等変化ナキ處「ソ」側カ飽迄右現有漁区ナル觀念ニ囚ハレ其ノ全部ノ無競賣貸付ハ仮令右漁区以外ノ新漁区等ヲ競賣ニ付スルモ條約違反ト為スニ於テハ我方ハ此ノ卓ニ関スル意見ヲ留保シ置クコトトシ且ツ從來ノ交渉ニ於テ議論ノ焦點トナリ居リタル「パーセンテージ」ニ言及スルコトヲ回避シ實際
上ノ見地ヨリ我方提案ノ形ヲ改メ本年本邦人ノ現有漁区三九三箇所中別表ノ漁区即チ三〇〇箇所ニ付其ノ貸付期間満了後條約改訂期迄即チ一年乃至四年間租借期間ヲ延長シ以テ當該漁区ノ安定ヲ図ルコトトス右三〇〇箇所ノ漁区中ニハ特別契約漁区四四箇所及本年競落セル五年漁区八ヶ所合計五二箇所ヲ含マス右我方提案ノ三〇〇箇所ノ漁区ハ内(一)

度邦人現有漁区ノ全部即チ三〇五箇所(昨年借区権ヲ放棄シタル二箇所及本年「ソ」側ニ競落セラレタル二箇所ヲ除ク)(二)特別契約漁区四四ヶ所及(三)本年競落セル五年漁区六箇所合計三五二ヶ所ノ安定ヲ図ルコトトスルモノナリ然レトモ右漁区中條約改訂期迄ニ租借期間ノ満了セサルモノ前記五二ヶ所ハ問題トスルノ要ナキヲ以テ實際ノ交渉ニ當テハ前記ノ通三〇〇ヶ所ノ安定ヲ要求スルコトトナルトコロ右三〇〇ヶ所ハ三十二年度邦人現有漁区ノ全部ニアラサルノミナラス本年新ニ競落セシ漁区ノ半数(前記安定ヲ要求スルモノノ残部)ハ将来競賣ニ付セラルコトトナルヲ以テ「ソ」側反対ノ理由ハ事實上ニ於テ除去セラルル次第ナルニ付右ニ依リ安定策妥結方御盡力アリタシ
「ソ」側カ若シ右我方提案ニ應スル場合ニ於テモ漁区数ヲ基準トスルヲ妥當ナラストシ標準高基準採用方ヲ主張スルヤモ測リ難シト思考セララル處標準高ヲ基準トスルコトハ漁区数ノ算定ト相待テ實行困難ニシテ寧ロ漁区数ヲ基準トスル方遙ニ簡明ニシテ實行シ易キニ付右趣旨ニ依リ「ソ」側主張ヲ反駁セラレタシ尚前記新案以外ノ事項ニ付テハ我方ハ往電第三〇號ノ趣旨ニ依ル外ナシト思考シ居ルニ付右

ニ御承知アリタシ

(別紙)

漁區ノ安定ニ関シ租借期間ノ延長ヲ要スル漁區

事項別	漁區數		漁獲標準高	摘 要
	漁區數	鮭鱒漁區 蟹漁區		
一、九三一年度 現有漁區ニシテ 租約改訂期満了 スルモノ	二五九	二四五	一四	ハ、四、四、五 内譯別冊甲ノ 通り
一、九三二年 新ニ競落セル漁 區ニシテ租約改 訂期満了スルモ ノ、半数	四二	四二	一	ツェントネル 七、二、五 内譯別冊乙ノ 内追テ個々ノ 漁區ヲ決定シ 「ソ」側ニ通 告ス
計	三〇一	二八七	一五	ハ、四、四、五 内譯別冊甲ノ 通り

197 昭和7年5月14日

在ソ連邦広田大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

漁區安定に関する新提案を提出し交渉妥結要

部ノ安定ヲ要求セス一部ヲ競賣ニ付スル事ニ同意スルモノ
ニシテ競賣ニ付スヘキ四十一箇ノ漁區ノ具體的選定ニ付テ
ハ本件安定案ノ主義上ノ合意成立シタル上通知スヘシ新案
ニ依レハ本年ノ競落[?]シテ日本人漁區十五既ニ競賣ニ付セ
ラレタルカ又將來四十一漁區競賣ニ付セラルルヲ以テ競賣
ニ付セラルル漁區ハ五十六トナル譯ナリ之ニ關スル御意見
承知シ度シト述ヘタルニ「カ」ハ一々之ヲ書取リタル後良
ク考ヘ置ク可シト答ヘ三十二年ヲ基礎トセス三十二年ヲ基
礎トシタルハ如何ナル理由ナリヤト尋ネタルニ依リ本使ハ
昨年折角始メタル本件交渉纏マラサリシ爲[?]本年ノ現實狀態
ヲ基礎トスル次第ナリト述ヘタルニ

五 日ソ漁業取極問題

「カ」ハ標準高ニ依ラズ漁區數ニ依ルコトハ漁區ニハ標準
高一樣ナラズ果シテ如何ト言ヘルニ依リ本使ハ漁區數ニ依
ルコトハ安定具體的トナリ誤解ヲ避クルコトヲ得有利ナリ
尙本年蘇側ニ奪ハレタル二漁區ハ買戻ヲ受クルカ又ハ之ニ
代ル漁區ノ租借ヲ受ケントスル日本側ノ希望ナリト言ヘル
ニ「カ」ハ然ラバ日本側ヨリ奪ハレタル八十餘ノ漁區ハ蘇
側ニ返シ呉ルルヤ日本側ハ自己ノ二漁區ハ忘レズ蘇側ノ八
十餘ノ漁區ハ忘レラルルハ酷シ要スルニ日本側ハ昨年度ノ

望表明について

モスクワ 5月14日後発
本省 5月16日前着

第三一六號

貴電⁽¹⁾第一九七號ニ關シ

同電ハ往電第三一五號本使「カラハン」往訪前解譯ヲ了シ
タルニ付右會談後本使ヨリ漁區安定問題ニ關スル先月十三
日ノ會談ニ付政府ニ請訓シ置キタル處只今回訓ニ接セリ今
回日本政府ハ漁區ノ安定ヲ從來ノ如ク標準高ニ依ラス漁區
ニ依ル事ト爲シ又鮭鱒及蟹漁區ノ別無ク一括シ本年競賣後
ノ日本側漁業ノ現勢力ヲ基礎トシテ安定ヲ計ル新案ヲ作成
セリ日本側本年競賣後ニ於ケル現有漁區ハ總數三百九十三
箇ニシテ内四十四ハ特別契約又八箇ハ借區期間ヲ五年トス
ルモノニシテ此兩者ヲ除キタル三百四十一漁區中本年ノ競
賣ニ依リ取得セル八十二ノ漁區ノ内四十一ヲ競賣ニ付スル
ト云フ趣旨ナリ即チ日本側ノ安定セントスル漁區ハ全部ニ
テ三百二箇ニテ之ヲ條約改訂期迄契約期間ノ長短ニ依リ一
年乃至四年間同一條件ニテ延長安定シ四十一漁區ヲ競賣ニ
付スルモノナリ本年ノ現狀ヲ基礎トシ其代リ從來ノ如ク全

全部ト本年度競落ノ優良漁區ヲ全部安定セントスルモノナ
リ左スレバ何等ノ讓歩ニ非ズ毫モ蘇側ニ接近シ來ラザルニ
非ザルヤト言ヒタルニ依リ本使ハ日本側從來ノ主張ハ一〇
〇「パーセント」ノ安定ニシテ今回一部ノ競賣ニ同意スル
コトトナリタルハ主義上ノ讓歩ニシテ又昨年ハ漁區ニ依リ
一年乃至五年ノ安定ヲ要求シタルニ本年ハ一年乃至四年ノ
安定ヲ求ムルモノニシテ一年ノ讓歩ヲナセル譯ナリト述ベ
タルニ「カ」ハ右一年ノ讓歩ノ問題ハ貴我何レノ罪ニモ非
ズト言ヘルニ依リ本使ハ併シ昨年中交渉ヲ纏メ得ザリシ自
分トシテハ大イニ責任ヲ感ズル次第ナリト述ベタルニ
「カ」ハ本日ノ御提議ハ孰レ研究ノ上速ニ御返事申上グル
コトト致スベシト述ベタリ尙本使ハ御覽ノ通り健康ヲ害シ
タルニ依リ一時休暇ヲ得テ歸國シ度キ考ヘナレバ自分トシ
テ歸朝前交渉纏レバ之ヨリ結構ナルコトナキモ若シ長引ク
様ナレバ其前ニモ歸朝シ度キ考ヘナルニ付成ル可ク速ニ蘇
側ノ返事ヲ承知シ度キ旨申添ヘ置ケリ

198 昭和7年5月18日

在ソ連邦広田大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

先方の譲歩的態度に鑑み些細の点には固執せぬよう要望について

別電 五月十八日発在ソ連邦広田大使より芳沢外務

大臣宛第三二三号

カラハンより新提案に基づき漁業交渉妥結方重ねて要望について

モスクワ 5月18日後発

本省 5月19日前着

第三二三號（極秘）

十八日本使「カラハン」間會談ノ要領ハ別電第三二三號ノ通ナル處若シ此ノ際政府ニ於テ蘇側案ニ御全意相成ル場合ハ安定案ノ骨子ハ決定スル譯ニテ其ノ上今回ノ交渉ニ關シ最後ノ取極ヲ爲ス順序トナル次第ナルカ此ノ際先方ニ於テモ安定問題ニ付相當譲歩的態度ニ出テ來リタル以上其ノ他諸事項ニ付テハ我方ニ於テモ餘リ些細ノ點ヲ固執セサルコト然ルヘシト思考スル處尙右ニ關シ何等御氣付ノ點アラハ何分ノ儀至急御回電相成度シ

（別電）

如何ナル問題アリシヤト言ヘルニ依リ本使ハ競賣ニ關聯スル諸問題即チ不當進出問題等ノ如キモアリト述ヘタルニ「カ」ハ安定スル以上競賣ニ關スル問題ハ起ラサルニ非スヤト言ヘルニ依リ本使ハ一部ナリトモ競賣ノ存スル限り問題アルヘシト答ヘ「カ」ハ安定問題ニシテ日本側ノ満足スル様解決セハ十八漁區其他ノ懸案漁區ノ問題ハ日本側ニ於テ撤回セラレテ可ナルヘシト言ヒタルニ依リ本使ハ自分ノ有スル訓令ニ依レハ此等ノ問題ニ付テハ一定數ノ漁區ヲ蘇側ヨリ日本人ニ貸下クルコトトシテ妥結スヘシトノコトナリ尤モ安定問題カ片付ケハ其解決ハ容易トナルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ實ハ漁業問題ハ成ル可ク速ニ綺麗サツパリト解決セサル可カラスト思考シ

自分トシテハ次ノ如キ案ヲ考ヘ居レリ即チ

一、日本側ノ提案通り安定問題ヲ漁區數ニ依リテ解決スルコト

二、右安定ハ一九三二年ノ現状ニ立脚シテ定ムルコト

三、日本人ノ現有スル漁區中六〇箇所ヲ競賣ニ附スルコト

トシ其他ハ全部安定スルコトニ同意ス其代リ其他ノ第二次の諸問題ハ綺麗サツパリ打切ルコトスルニアリ

第三二三號
往電第三一六號ニ關シ

モスクワ 5月18日後発
本省 5月19日前着

十八日ハ蘇側ノ休日ナルニ拘ハラス「カラハン」ヨリ來訪ヲ求メ來リタルニ付往訪セルニ「カ」ハ先ツ犬養總理ノ薨去ニ付弔意ヲ表シ日本政界ノ事情等ニ付雜談ヲ交シタル後本日御出テテ願タルハ漁業問題ニ關シ關係官廳ト協議ヲ遂ケタル結果尙御尋ネ致シタキ點アル爲ニテ實ハ安定ニ關シ貴使前回御披露ノ御提議ニ副フ様案ヲ立テ政府ノ決定ヲ仰カントスル考ヘナルカ右ニ付テハ漁業問題ノ全体ヲ明瞭ニスル必要アル次第ニテ此前御話シアリタル以外ノ問題ニ付テハ貴政府ヨリ如何ナル訓令アリタリヤト尋ネタルニ付本使ハ其他ノ問題ニ付テハ此前御話致シタル通りニテ又如何ナルコトカ問題トナリ居リシカハ最初ニ差上ケタル表ニ列記シアリ尤モ其中ニハ既ニ解決シタルモノモアル次第ナリト答ヘタルニ「カ」ハ如何ナル問題ニ付政府ノ決定ヲ仰クヘキヤ明瞭ニ致シタキ考ヘニテ今迄如何ナル懸案アリシヤ一應明カニシ度シ第一ニハ漁區ノ安定問題ナルカ其次ニハ

ト述ヘタルニ依リ本使ハ右六〇箇所ハ日本側ノ選擇ニ任シ且各漁區ハ期間滿了後之ヲ競賣ニ附スルモノト解シテ可ナリヤト尋ネタルニ「カ」ハ然リト答ヘ又本使ヨリ然ラハ本年「ソ」側ヨリ取ラレタル本邦人漁區ハ如何ト尋ネタルニ「カ」ハ其二漁區モ一八漁區問題等モ全部打切ルコトスト云ヒタルニ依リ本使ハ貴方ノ六〇箇所ト我方ノ四十一箇所ニテハ十九箇所ノ相異アリ對内的ニ云ヘハ競賣ニ附スヘキ漁區ヲ何人ノ現有漁區ヨリ出サシムルカカ困難ナル問題ニテ更ニ十九ヶ所ヲ出サシムルコトトナレハ種々ノ文句アルコトト思考スルカ日本側ノ四十一箇所ト云フハ斯ル文句ノ無キ様工夫シタル結果ト思考スルカ故ニ其増加ハ仲々困難アルニ非スヤト述ヘタルニ「カ」ハ之迄譲歩シテモ未タカト云フ様ナ面持ニテ對内的ノ問題ハ政府ニ於テ抑ヘサルヘカラス個人ノ我利ヲ抑ヘテコソ政府ナレ本日自分ノ御話シタルコトハ恐ラク貴政府ニ於テモ亦貴使ニ於テモ豫期セラレサリシ大譲歩ナラン「ソ」側トシテハ折角漁業問題ヲ綺麗ニ解決セントノ一心ヨリ斯ル大譲歩ヲ爲シタル次第ニテ又貴使トシテモ永イ間交渉ノ任ニ當ラレ折角此處迄漕キ附ケラレタルコトナレハ其解決ヲ見ルハ御満足ナルヘク依

テ貴使ヨリモ第二流ノ問題ニ付テハ日本政府ニ於テ打切り
ニ同意スル様御盡力アリタシト述ヘタリ依テ本使ハ自分モ
問題ノ解決ニ近付キタル様感スルニ付右本日ノ御提案ハ早
速政府ニ報告スルト共ニ小サナ問題ニ付テハ貴方ノ希望ニ
副フ様政府ニ申送ルヘシト答ヘ置ケリ
就テハ右ニ關シ何分ノ儀至急御回電アリタシ

199 昭和7年5月24日 芳沢外務大臣より
在ソ連邦田大使宛(電報)

細目については後日の討議に任せ懸案の安定
問題大綱を決定し取纏めるよう訓令

別電一 五月二十四日發芳沢外務大臣より在ソ連邦田
田大使宛第二一四号

安定問題處理大綱

二 五月二十四日發芳沢外務大臣より在ソ連邦田
田大使宛第二一五号

細目の取扱ひに關する訓令

本省 5月24日後10時 分發

第二二三號(至急)

五 日ソ漁業取極問題

ニセムトスルモノナルニ於テハ我方トシテハ此等漁区処分
ニ關スル從來ノ具体的要求ハ此ノ際安定問題解決ト共ニ之
ヲ撤回スルノ用意アリ(但シ條約及附屬文書ノ解釋ニ關ス
ル主義的主張ヲ拋棄シ得サルハ勿論ナリ)然レトモ若シ
「ソ」側ノ意嚮ニシテ前記漁区ノ問題ニ止ラズ昨年来一般
商議ノ討議事項トシテ我方ヨリ提示シアル他ノ諸問題ヲモ
全部打切りトシ又太平洋漁業規則ニ關スル從來ノ経緯ヲモ
葬去ラムトスルモノナルニ於テハ我方トシテ之ニ同意スル
ヲ得ズ此ノ際漁区安定問題解決ストスルモ右ノ如キ諸問題
ガ依然未解決ノ儘残リ居リテ漁業ノ實行ニ當リ「ソ」側ガ
從來ノ遣リ口ヲ繼續スルニ於テハ實際上漁区安定ノ效果ヲ
著シク減殺スルノミナラズ遣リ様如何ニ依リテハ之ヲ皆無
ニ帰セシムル虞ナシトセズ去リトテ此等安定問題以外ノ事
項ヲ此ノ際安定問題ト同時ニ一括解決スルコトハ實際上困
難ナルベキノミナラズ諸問題中ニハ從來ノ交渉ノ経緯ニ徴
シ將又安定問題解決後ノ情勢如何ニ依リ其ノ輕重ノ度ヲ從
來ト異ニスルモノモアルベキニ付此ノ際ハ安定問題及實質
上之ニ包含サレ得ベキ問題ノミヲ切離シテ解決シ爾餘ノ事
項ハ別ニ解決ヲ計ル建前ト為シ置キ度尚安定問題ノ解決ヲ

貴電第三二二號及第三二三號ニ關シ

段々ノ御盡力ニ依リ「ソ」側ヲシテ此ノ程度迫譲歩セシム
ルニ至リタル此ノ際此ノ機運ニ乘シ一挙ニ多年ノ懸案タル
安定問題ヲ解決スルコト諸般ノ狀況ヲ考慮スルモ最モ策ノ
得タルモノト認メラ、ルニ付此ノ意味ニ於テ成ルベク速ニ
貴官ト「カラハン」トノ間ニ安定問題ノ大綱ヲ決定シ之ニ
附隨スル細目ハ追テ協議スル旨ヲ右大綱中ニ明カニシ置キ
大綱決定後細目ノ協議ヲ行フ段取ト致度而シテ差當リ取極
ムベキ大綱トシテハ今次「カラハン」申出ノ次第ヲモ斟酌
シ大体別電第二一四號ノ趣旨ニテ可ナリト思考スルニ付右
ノ方針ニテ適宜御裁量ニ依リ本件取纏メ方御配慮アリタシ
右大綱案中其ノ中心問題タル邦人現有漁区ノ安定ニ付テハ
今回ノ「カラハン」對案ハ往電第一九七號ノ我方案ヲ全部
的ニ容認シタルモノニハアラサルモ「ソ」聯邦政府ガ之ヲ
承諾スルニ於テハ我方トシテモ之ニ同意シテ差支ナク又
「カ」ガ今次對案ノ附帶條件トナセル所謂「其ノ他ノ第二
次的諸問題」ノ打切りニ付テモ其ノ趣旨ガ所謂十八漁区等
國營ニ關スル懸案漁区ノ問題並個人企業、「コオペラチー
ヴ」及地方農漁民ノ漁区取得ニ關スル從來ノ交渉ヲ打切り

見タル上ニ於テモ漁業條約ハ依然蔽存スルモノニシテ漁業
關係ハ今後ト雖モ右條約ノ規定ニ依リテ規律セラルベキモ
ノナルコトハ申ス迄モ無ク從テ今後ニ於テモ「ソ」側ノ出
様如何ニ依リ條約ニ反シ又ハ邦人漁業ヲ不當ニ圧迫スルガ
如キ事實アラバ我方トシテ抗議ヲ申入レ又ハ之ガ調整ヲ求
ムベキコト勿論ナルニ付此ノ桌ハ前記我方ノ趣旨及建前ト
共ニ「ソ」側ニ對シ篤ト説明ヲ加ヘ置カレ度シ
次ニ安定問題ニ付テハ之ニ附隨シテ彼我ノ間ニ諒解ヲ遂ゲ
置クベキ事項トシテ差當リ別電第二一五號ノ如キ事項アリ
ト思考ス此等ハ今後直ニ話合ヲ要スルモノナルガ大綱ト同
時ニ此等細目ニ立入り討議スルコトハ妥結成立ヲ遅延セシ
ムル虞アルニ付其ノ討議ハ大綱決定後ニ行フコト、シ差支
ナキモ(別電第二一四號大綱案第三項ハ此ノ趣旨ニ出デタ
ルモノナリ)適當ノ機會アラバ此等事項中主ナルモノノ大
要ダケニテモ適宜説明シ置カルレバ好都合ト思考ス他方
「ソ」側ハ安定問題解決ノ交換條件トシテ貴電第三七號ノ
二及四ノ問題ニ付我方ノ同意ヲ求ムルコトアルベシトモ豫
想セラル、處國營企業留保數量増加ニ付テハ我方ハ安定問
題解決ヲ條件トシテ邦人ニ關係ナキ漁区ヲ標準高ニ於テ總

体ノ四割迄協議ノ手續ヲ経テ留保スルコトニ同意スル用意アル旨ヲ明カニセラレ差支ナキモ（其ノ詳細ハ安定問題大綱決定ノ上協議スベキコト勿論ナリ）領海協定ハ複雑シタル問題ナルノミナラズ安定問題トハ關係ナキヲ以テ全ク別個ノ問題トシテ往電第三〇号四ノ方針ニ依リ成ルベク後日ノ商議ニ譲ルコト、致度

尚本件大綱ハ安定問題ニ關スル「ソ」側ノ重要ナル約諾ヲ包含シ居ルモノナルヲ以テ大綱ニ対シ「ソ」側ノ同意アリタル上ハ直ニ之ヲ何等カ文書ノ形式トナシ貴官ト「カラハン」トノ間ニ取交ハシ置カレタク其ノ形式ハ客年往電第三〇七號ノ九ヲモ御参照ノ上貴官ノ御裁量ニ依リ適當決定セラレ度又右文書ハ之ヲ公表スル方適當ナラント思考スルニ付此ノ莫モ「ソ」側ト御打合せ相成度

尚又「ソ」側從來ノ遣リロヲ見レバ一旦約束シタルコトモ之ガ履行ニ當リ種々難癖ヲ付ケ或ハ他ノ事項ニ於テ難題ヲ持掛クル等信用ナリ難キ事例モ少ナカラズ今回ノ安定問題解決ニ付テモ同様ノ危惧ナキ能ハサルニ付大綱決定ニ際シ該文書ノ一項トスルカ若クハ其ノ前文トスルカ又ハ別ノ文書トスルカ其ノ形式ハ問ハサルモ何等カノ文言ニテ「ソ」

一任シ例ヘハ貸付期間ノ滿了ト否トヲ問ハス競賣ニ附スルモノトシテ日本側ニ於テ右六十ヶ所ヲ定メ得ルコト

二、從來両国間ノ交渉案件タル十八澳區、七澳區、四澳區等「ソ」側國營企業ノ留保ニ關聯スル懸案澳區、並「ソ」側個人企業、「コ」組合及地方農漁民ノ取得澳區ニ關スル日本側ノ要求又ハ反對ヲ撤回スルコト但シ條約及附屬文書ノ解釋ニ關スル日本側從來ノ主義的主張ハ之ヲ將來ニ保留ス

三、以上大綱ニ附隨スル細目ノ事項ニ付テハ追テ成ルヘク速ニ協議決定スルコト

（別電二）

本省 5月24日後10時30分發

第二一五號

一、往電第二一四号第二項ノ懸案澳區中ニハ蟹澳區三ヶ所及十ヶ所（「ブチチー」島ヲ含ム）ヲ含マシメ差支ナキモ右十ヶ所ノ内位置不明ナル九ヶ所ハ其ノ位置ヲ我方ヘ通知セシメラレタシ右ノ外懸案澳區中ニハ我方ヘ協議後位置名称ヲ変更シ漁獲物ノ種類ヲ増加若ハ変更シ協議ノ

側ハ今後共邦人ノ合理的の權益ヲ尊重スト云フガ如キ趣旨ヲ先方ヲシテ表明セシムルコトヲ得バ往年ノ後藤伯ノ所謂一札（漁業條約會議録^{（六）}）ト重復スルノ感ハアルモ今後ノ漁業問題ニ付「ソ」側トノ折衝上ニ一段ノ強味ヲ加フルト共ニ世論ニ應酬スル上ニモ甚タ好都合ナルベシト思考ス又「ソ」側トシテモ漁業問題ヲ解決セムトスル誠意ヲ一層明瞭ナラシムル意味ニ於テ右ノ如キ言明ヲ為スコトハ何等差支ナカルベキヤニ思考セラル、モ交渉ノ狀況ニモ依ルコトナレバ本件提議ノ適否乃至ハ文言形式等ハ總テ御裁量ニ一任スルニ付何等カ右様御取計ヲ得バ幸甚ナリ

（別電一）

本省 5月24日後10時 分發

第二一四號（至急）

一、安定問題ハ澳區數ニ依リ一九三二年ノ現狀ニ立脚シテ定ムルコトトシ日本人ノ現有スル澳區中六〇ヶ所ハ今後ノ競賣ニ付シ其ノ他ハ全部仮令貸付期間滿了スルモ其ノ儘條約改訂期タル一九三六年迄安定スルコト右六〇ヶ所ハ日本人ノ現有澳區全部ノ中ヨリ日本側ノ自由ノ選擇ニ

際位置ヲ明示セス或ハ國營カ留保後直ニ經營セス其後着業シタルカ又ハ全然着業セサリシ等（客年往電第三三七号今年往信機密第二四四号本年貴電第七三号及第一八六号等）ノ理由ニ因リ紛議發生シタルモノト認ムヘキモノ數多アルヲ以テ此際我方ハ「ソ」側ヲシテ現在留保又ハ經營澳區全部ノ位置名称漁獲物ノ種類及標準高ヲ我方ヘ通知セシメラ通知アリタル澳區ハ國營カ條約上合法的ニ留保シ居ルモノト致度ニ付右可然「ソ」側ヘ申入レラレタシ但シ國營經營澳區中ニ全然我方ニ對スル協議ノ手續ニ出テズシテ經營シ居ルモノアラバ此等ニ付テハ別ニ考慮スルノ要アルベシ尤モ國營留保數量ヲ今回増加ストセバ此等ニ付テモ實際上問題ハナカルヘシト思考ス

二、「コ」組合ノ是迄取得シタル澳區ニ付テハ此際我方ハ具體的事實ニ對スル主張ヲ打切ルモ「コ」組合ノ漁區取得ニ關スル條約上ノ主義的主張ハ之ヲ留保シタキニ付客年往信第二四三号一般商議方針第三章一ノ（ハ）ノ前段所載ノ次第ハアルモ此ノ際交換公文ノ解釋問題ニ深入リスルコトハ可成之ヲ避ケ解釋ニ關スル我方主張ハ之ヲ將來ニ留保スル程度ニ止メ置カレタシ

尚右(ハ)ノ後段ニ付テハ引續キ御配慮アリタシ

三、地方農漁民ニ付テハ前記商議方針第三章一ノ(ニ)ニ依リ措置セラレタシ尚「ゴルイギノ」漁区ニ関スル交渉ノ際「ソ」側カ地方民ノ特權ヲ条約所定以上廣範圍ノモノトシテ主張シ居ルコトハ我方トシテハ主義上ノ重要問題ト認メ居ル處客年往信第二四三号附屬漁業懸案ノ解説ノ四ノ(ロ)所載ノ通数多ノ地方民組合様ノモノ漁区ヲ經營シ居ルニ鑑ミ若シ地方民ノ名義ノ下ニ事実「コ」組合ニ該當スルモノカ競賣ニ依ラス漁区ヲドシノ取得スルニ於テハ容易ナラサル事態ヲ招致スヘキニ付前記二ノ末段ノ趣旨ニ依リ地方民ト「コ」組合トヲ嚴ニ區別シ此等ノ者ノ現時取得シ居ル漁区ノ名称番号位置標準高及借区者ノ氏名等ヲ通知セシメラレタシ

四、特別契約ノ新規締結ニ付テハ商議方針第三章一ノ(ハ)ノ趣旨ニ依リ差支ナシ尤モ折角御尽力ノ結果新規締結ノ見込アルヤニモ思料セラルルニ付安定問題ニハ直接關係ナキモノトシテ此上共御尽力ヲ望ム(往電第四〇号)

五、最低價格ニ付テハ從來ノ主張ヲ留保シ置カレタシ

六、漁獲標準高ニ付テハ此際本件ヲ持出スコトハ今後ノ商

特ニ「其ノ俣」ノ字句ヲ挿入シ將來若シ「ソ」側ヨリ安定漁区ノ借区料及其ノ支拂方法ニ付改定ヲ申出ツル場合ハ右字句ヲ盾トシ反駁シタキ底意ナルニ付右御含ノ上我方ノ希望貫徹方可然御配慮アリタシ

九、我方ハ国营カ標準高ニ於テ總高ノ四割迄留保漁区ヲ増加スルコトニハ異議ナキモ右ハ最終議定書一ノ乙ノ(ニ)ニ依リ増加ニ同意スルモノニシテ從テ個々ノ漁区留保ニ付テハ最終議定書一ノ乙ノ(三)ノ協議ヲ絶対必要トスルモノナルニ付「ソ」側ヘ我方ノ右見解徹底方御配慮アリタシ尤モ我方ハ国营カ邦人ニ關係ナキ漁区(新漁区ヲ含ム)ノミヲ留保スルニ於テハ何等異議ヲ述ベサルベキニ付右ノ旨同時ニ先方ヘ通知セラル、モ差支ナシ

十、安定問題ニ直接關係ナキ懸案即チ商議方針ノ議題(一)中今次大綱決定ニ依リ打切トナスベキ事項以外ノモノニ付テハ安定問題解決後ト雖引續キ商議ヲ行ヒ其ノ円満解決ニ依リ漁区安定ヲシテ益々実効アラシメ度意向ナルニ付右ニ対シ「ソ」側ノ諒解ヲ取付ケ置カレタシ

議ノ円満進行ニ累スルナキヤノ懸念ハアルモ「ソ」側ノ從來ノ態度ニ鑑ミ本年据置トナリタル標準高ヲ今後モ据置ク意向ナキヤニ認メラルル一方合同會社事實上成立セムトスル今日標準高調節ノ必要ハ企業合理化ノ為益々痛感セラルルニ付此際個々ノ漁区ニ付意願ノ上調節ヲ為スヨリモ邦人漁区ノ標準總高ヲ變更セサル建前ノ下ニ商議方針第二章三ノ(イ)ノ方法ニ依リ調書ヲ為ス方最モ實際的ニシテ「ソ」側ノ為ニモ便利ナルヘキニ付安定問題解決後ノ運用上ノ重要案件トシテ右要望貫徹方御尽力アリタシ

七、借区条件ニ付テハ安定問題解決後モ各種懸案ニ關スル今後ノ商議トノ關係モアルニ付從來ノ主張ヲ留保セラレ特ニ制裁規定ニ付テハ本年漁期ノ実況如何ニ由リテハ重要案件トシテ更ニ提議スルコトアルヘキ旨申入レ置カレタシ

八、借区料ハ安定漁区ノ安定期間中其ノ「アコ」債券ノ特別協定率ニ依ル支拂方法ト共ニ之ヲ變更セサルコトヲ明確ニシタキモ之ニ觸ルルコトハ機微ナル關係アルニ付(商議方針第二章三ノ(イ))我方ハ往電第二一四号ノ一ニ

200 昭和7年5月28日

齋藤外務大臣より
在ソ連邦広田大使宛(電報)

新内閣の漁業方針に変更なきにより速かに解

決方訓令

本省 5月28日後4時 分発

第二二三號(大至急)

貴電第三四〇号ニ關シ

新内閣ノ漁業問題ニ対スル方針モ往電第二一三号ノ方針ニ變更ナキニ付右ニ依リ可成速ニ解決ヲ見ル様御配慮アリタシ尚右往電別電大綱案ニ依ル場合ハ往電第一九七号案ノ場合ト異ナリ昨年現有漁区中ヨリモ競賣ニ付スルモノヲ生スヘキ見込アリ又合同會社ノ漁区買取モ今猶進行中ナルヲ以テ新旧漁区中安定スヘキ漁区ノ取扱撰擇ハ本年漁期ノ実績ヲ徴シテ行フコト好都合ナルニ付競賣ニ付スヘキ六〇漁区ハ可成漁期終了後漁区表発表迄ニ多少ノ期間ヲ置キテ「ソ」側ニ通知スルコトト致度尤モ「ソ」側ノ希望ニ依リテハ右通知時期ヲ幾分繰上クルモ差支ナシ尚又競賣ニ付スヘキ漁区決定セハ原則トシテ各漁区ノ競賣時期モ同時ニ自ラ決定スヘキモ我方ノ希望ニ依リテハ貸付期間滿了前

ニテモ競賣ニ付シ得ルコトヲ留保シ置キタシ（大綱案）ノ
末段参照）

201 昭和7年5月28日 在ソ連邦広田大使より
齋藤外務大臣宛（電報）

總標準高に関する疑点につき回電方請訓

モスクワ 5月28日後発
本省 5月29日前着

第三四二號

貴電第二一三號ニ關シ

安定問題解決ノ條件トシテ我方ニ於テ國營留保漁區ノ標準
高ヲ一九三二年度ノ總標準高ノ四割迄認ムルトセハ若シ蘇
側ニ於テ右増加標準高ヲ新開不落漁區ノミヨリ留保スル場
合ニハ事實鮭鱒漁區ニ於テ蘇側ノ取得スヘキ總標準高ハ我
方ヨリ一萬三千六百布度餘超過スルコトナリ又右四割ノ
増加ハ蟹漁區ニモ適用スルトセハ又同様ノ結果トナルヘキ
處其ノ邊ニ對スル御趣旨貴電ニテハ判明セサル點アルニ依
リ何分ノ儀詳細御回電請フ

尙貴電第一九七號末段ニ「本年競賣ノ實績ニ鑑ミ今日ニ於

（別電）

モスクワ 5月31日後発
本省 6月2日後着

第三四八號（極秘）

⁽¹⁾在莫斯科日本大使廣田弘毅氏及「ソウイエット」聯邦外務
人民委員代理「レフ、ミハイロフウイチ、カラハン」氏ハ
日本國及「ソウイエット」ノ間ニ存在スル友好關係ヲ増進
スル目的ヲ以テ一九二八年ノ漁業條約ニ關シ發生セル種々
ノ紛爭ヲ解決センコトヲ希望スル各自國政府ノ申越ニ基キ
友好的意見ヲ交換シタル後左ノ通決定セリ

（甲）

「ソウイエット」聯邦政府ハ「ソ」聯邦ノ水域ニ於テ日本國
臣民カ有スル漁業上ノ權益ヲ尊重スルモノニシテ日本國臣
民ノ現ニ借受ケ居ル漁區ノ安定ヲ計ラントスル日本國政府
ノ希望ニ副フ爲左記ニ同意ス

一、日本國臣民ノ現ニ借受ケ居ル漁區ノ安定問題ハ漁區數
ニ依リ一九三二年ノ現狀ニ立脚シテ解決スルコトシ日本
國臣民ノ現ニ借受ケ居ル漁區ハ將來競賣ニ附セラル可キ六
〇箇處ヲ除ク外全部貸附期間滿了ニ拘ラス其儘漁業條約改

テハ我方ニ取り甚タ不利益ノ結果ヲ生ス云々」トアル處右
ハ如何ナル意味ナリヤ併セテ至急御回電アリタシ

202 昭和7年5月31日 在ソ連邦広田大使より
齋藤外務大臣宛（電報）

漁業問題に関する大綱立案について

別電 五月三十一日発在ソ連邦広田大使より齋藤外
務大臣宛第三四八号
右大綱案

モスクワ 5月31日後発
本省 6月1日前着

第三四七號

往電第三四四號末段ニ關シ

當方ニ於テハ大綱案ノ体裁等種々研究ノ結果別電第三四八
號ノ通立案シ尙貴電第二一五號記載ノ附隨事項ノ要領モ書
物ニテ先方ニ提出スルコトトシ貴電第二一四號大綱案第三
項ハ其内ニ書入ルルコト然ルヘシト思考ス

就テハ右ニ關シ何等（一語脱）ラバ早目ニ御回電アリタシ

訂期タル一九三六年迄安定ス右六〇箇處ハ日本國臣民ノ漁
區ノ中ヨリ日本側ニ於テ自由ニ選擇シ而シテ此漁區ハ日本
國臣民ノ希望ニ依リ貸附期間ノ滿了前ニ於テモ競賣ニ附ス
ルコトヲ得

⁽²⁾十八漁區等「ソウイエット」聯邦國營企業ノ留保ニ關聯ス
ル繫爭漁區竝ニ蘇側個人、「コ」組合及地方農漁民ニ貸附
セラレタル漁區ニ關スル日本側ノ要求又ハ反對ハ是ヲ解決
シタルモノト認ム但シ一九二八年ノ漁業條約及附屬文書ノ
解釋ニ關スル日本側從來ノ主義的主張ハ引續キ是ヲ維持ス
ル事勿論ナリ

（乙）日本國政府ハ「ソウイエット」聯邦國營企業ノ發達ヲ念
トスル「ソウイエット」聯邦政府ノ希望ニ副フ爲左記ニ
同意ス

一、漁業條約改訂期タル一九三六年迄「ソウイエット」聯
邦國營企業ノ爲確保セラルル鮭鱒漁區ノ漁獲標準高合計
ハ、、、、迄増加セラル
二、前項國營企業ノ爲ノ漁區ハ新ニ開設セラルル漁區一九
三二年ニ於テ蘇聯邦人民又ハ團體ニ依リ經營セラレ居ル
漁區及以前ノ年度ニ於テ特ニ落（札）セラレタル事無キ

漁區中ヨリ選定セラレ右留保ハ一九二八年ノ漁業條約及其ノ附屬文書ノ規定ニ依リ律スヘキモノトス
一九三二年、月、日 莫斯科ニ於テ日本語及露西亞語ヲ以テ夫々二通ヲ作成ス

署名
署名

(欄外記入)

- (1) 一應談合シテカラニシテハ如何
- (2) 主義トシテ四割
- (3) 順位
- (4) 落札之ニシテ全部含ミオレルヤ

203 昭和7年6月1日 齋藤外務大臣より
在ソ連邦広田大使宛(電報)

国营留保増加問題に対する当方の対策につき回訓

本省 6月1日後8時 分発

第二二七號(至急)

貴電第三四一號及第三四二號ニ関シ

営ノ留保増加ノ際ハ新開漁區及一九三二年ニ於ケル「ソ」側個人又ハ團體ノ經營漁區及以前ノ年ニ於テ競落ナカリシ漁區中ヨリ留保スヘキヲ言明シ居ル(貴電第三七號)ヲ以テ我方ハ国营ノ留保増加ハ主トシテ「ソ」側個人企業及「コオペラチーフ」等「ソ」側經營中ノ漁區(今日ニ於テハ一九三二年ニ於テ經營中ノ漁區ト解スルヲ正當トス)ヨリ之ヲ為シ(我方ハ「コ」組合問題ノ解決上ヨリモ該組合ヲ貴電第三七號ノ二ノ團體中ニ含マシメ該組合ノ漁區中ヨリモ留保セシメ度希望ナルモ「ソ」側ハ其ノ国情及制度ニ鑑ミ右ニ反対スルヤニモ思考セラル)不足アル場合其ノ分丈ヲ新開又ハ從來競落者ナキ漁區(本年邦人ノ不落漁區三ヶ所アリ可成ハ邦人關係漁區トシテ之ヲ避ケタシ)ヨリ補充スルモノト豫想シ居リ右予想ノ下ニ我方ノ有スル資料ニ依リ日「ソ」總標準高ノ四割ヲ算出シ留保増加ヲ實行スルトセハ新漁區ヲ開設セストモ個人及「コ」組合ノ借受中ノ漁區若ハ本年無入札又ハ不落漁區ニテ補充シテ猶余リアリ依テ我方ハ以上ノ趣旨ニ依リ「ソ」側カ往電第二一四號安定大綱案ヲ承諾スルニ於テハ之カ交換条件トシテ国营カ四割迄邦人ノ關係ナキ漁區ヲ増加留保スルニ異議ナク且個

本件ハ重大ナル關係アルヲ以テ追テ詳細協議ノ際明確ニシ
オク要アリト思考シ居タル所ナルガ貴電第三四二號前段ノ
通国営カ四割迄ノ増加標準高ヲ新開及不落漁區ノミヨリ留
保スル場合ニハ一九三二年度ノ總標準高トシテ日「ソ」人
借受中ノ漁區ノ總標準高ヲ採用スルモ「ソ」側ノ取得シ得
ヘキ總標準高ハ貴見ノ如ク我方ノ現有標準高ヲ超過スヘク
若シ客年「ソ」側カ蟹漁區留保ノ提議ノ際當時ノ總標準高
中ニ日「ソ」人借受中ノ漁區ノ外今年競賣ニ付セラレタル
漁區ヲ入札及競落ノ有無ニ拘ハラス凡テ算入シタル(今年
貴電第一〇三號)ト同一方法ニテ我方ノ有スル資料ニ依リ
本年ノ總標準高ヲ算出シ其ノ數字約千五百万「ブード」又
ハ三十三万函(往電第二二八號参照)ヲ採用スルトセハ前
記超過數量ハ一層大ナルヘシ然レトモ留保漁區ノ「パーセ
ンテージ」ハ原則トシテ現存漁區ノ總標準高ヲ基準トシ現
存漁區中ヨリ留保スル趣旨ニ出ヅルモノナルハ當然ノ理ニ
シテ又安定ニ關スル「カラハン」ノ對案カ一九三二年ノ現
狀ニ立脚シ居ルコトハ現時ノ日「ソ」勢力ヲ大体安定シ右
勢力ニ大ナル變化ヲ生セサラシムヘキ趣旨ト解スヘク然ラ
サレハ右案ハ安定ノ実ナキモノト認メラレ且又「カ」ハ国

人企業等カ從來取得シタル漁區ノ處分ニ關スル具體的要求
ヲ撤回スルノ用意アリト為ス次第ナリ(往電第二一三號)
然ルニ若シ国营カ個人企業ノ漁區ニ全然手ヲ触ルコトナ
ク新開又ハ競落者ナキ漁區ノミヨリ留保シ且右留保ニ當リ
「ソ」側發表ノ漁區表(客年往電第三三四號)ノ国营ノ現
在標準高(約二百三十萬「ブード」)ヲ出發點トスルニ於
テハ我方トシテハ増加留保ヲ認ムルコトニ依リ「ソ」側ヲ
シテ過當ニ多數ノ漁區ヲ保有セシメ其ノ結果我方ハ殆ント
現時以上發展ノ余地ナキコトナルノミナラス個人企業ニ
關スル前記我方要求ノ撤回ハ全ク見當外レトナリ對内的關
係ニモ困難ヲ感スルノ惧アリ
我方トシテハ成ルベク以上ノ趣旨ニ依リ国营ノ留保増加問
題ヲ取扱ヒタキ意嚮ナルモ今日ノ急務ハ先ツ安定問題ヲ解
決スルニ在ルヲ以テ若シ国营問題ニ拘泥シ安定問題ノ解決
ヲ遷延セシムルカ如キコトアリテハ面白カラストモ思考セ
ラルルニ付貴官ハ右御含ノ上「ソ」側カ安定問題ノ交換条
件トシテ国营ノ留保増加方ヲ提議スルニ於テハ我方ハ右ニ
對シ主義トシテ同意ヲ表スルハ差支ナキモ往電第二一五號
ノ一ノ通国営ノ現在標準高ノ的確ナル數字不明ノ為四割迄

ノ増加カ如何ナル結果トナルヤ判断ニ苦ムヲ以テ先ツ「ソ」側ヨリ国営ノ現在留保漁区及標準高ノ通知ヲ得タル上留保増加ノ具体的協議ニ入リタキ趣旨ヲ以テ可然應酬セラレ不取敢安定問題ノ解決ニ「ソ」側ヲ誘導スル様御配慮アリタシ

貴電第三四二号ノ末段ニ付テハ貴官モ曩ニ「カラハン」ニ對シ答ヘラレタル通本年我方ハ實力ニ依リ多数漁区ヲ取得シ（貴電第二四八号）我方現有数量ハ「ソ」側トノ間ニ約三百萬「ブード」ノ開キヲ生シ居ルヲ以テ右變化セル事態ニ鑑ミ安定問題解決ノ為日「ソ」保有数量ノ對等案ヲ採用スルコトハ我方ノ實力ヲ無視スルノミナラス右對等案實行ノ為ニハ我現有漁区ヲ吐キ出スカ又ハ「ソ」側ヲシテ河口附近等ニ多数ノ新漁区ヲ開設セシムル結果トナルニ付右對等案ノ如キハ我方ニ取リ不利益ト認ムル次第ナリ尚貴電第三四一号ニ付テハ叙上ノ通安定問題及国営ノ留保増加ハ孰モ一九三二年ノ現狀ニ立脚スル以上留保増加ノ四割ハ同年現在ノ總標準高ヲ基礎トスルモノニシテ將來ノ總標準高ノ四割ヲモ意味スルモノト解スヘキニアラサルハ勿論ナリ

205 昭和7年6月4日 齋藤外務大臣より
在ソ連邦広田大使宛（電報）

大綱案に対する修正条項回示

本省 6月4日後3時0分発

第二三一號（至急、極秘）

往電第二三〇号ニ関シ

貴電第三四八号ノ文書ノ形式ハ研究ノ結果其ノ内容ハ孰モ条約第二條第二項ノ適用トシテ条約ノ豫見セルモノヲ条約實施後ノ情況ニ應ジ両国間ニ商議決定シタルモノナリト説明シ得ヘキニ付署名前御裁可ノ手續ヲ要セサルコト、スル筈從テ本件文書ニハ題名トシテ會議録ナル文字ヲ附スルコト、致シタシ尚右貴電ハ往電第二二七号ト入レ違ニ發電セラレタルモノト思考セラルル處我方ノ意嚮ハ右往電ノ通ナルニ依リ先ツ右往電ノ趣旨ニ依リ御措置ノ上先方ニ於テ右貴電（乙）ノ部分ヲモ是非此際一括解決ヲ希望スル場合ハ之ヲ併セ提示セラル、コト差支ナキモ同案第二項ノ留保ハ可成左記ノ順位ニ依ルモノナルコトヲ明記スルコトト致度

一、一九三二年ニ於テ「ソ」聯邦人又ハ其ノ團體（「コ」組合ヲ含ム）ノ経営中ノ漁区

204 昭和7年6月2日 在ソ連邦広田大使より
齋藤外務大臣宛（電報）

漁区ソ側留保につき先方の提示を待つよりも
当方より回答を与える方が得策の旨意見具申

モスクワ 6月2日後発
本省 6月4日前着

第三五一號（至急）

貴電第二二七號ニ關シ

漁區蘇側國營留保ニ關シ縷々御回示ノ次第アリタル處其内ニハ從來ノ御訓令ニ照ラシ甚タ腑ニ落チサル點有ルノミナラス不明ノ廉モ鮮カラス右ニ付テハ篤ト研究スヘキモ御訓令ニ依レハ先ツ我方ノ提案ニ付テノミ取極ヲ爲ス御趣旨ト解セラルル處右ハ到底先方ノ應諾ヲ得サルヘキハ明カナレハ蘇側國營留保ニ付更ニ先方ヨリノ提議ヲ待ツヨリモ此ノ際當方ヨリ進ンテ從來先方提示ノ案ニ對シ本格ナル回答ヲ與フル事交渉上得策ニシテ且問題解決ノ促進ニ應スルモノト思考スルニ付往電第三四八號乙ノ分ニ對スル的確ナル案文貴方ニ於テ御作成ノ上至急御回電アリタシ

二、一九三二年競賣ニ付セラレタル漁区中入札ナキモノ及落札者ナキモノ（但シ邦人入札漁区ニシテ不落トナリタルモノハ可成之ヲ避ケタシ）

三、一九三一年ヲ含メタル年次迄ニ開設セラレタル漁区ニシテ現時經營セラレ居ラサル漁区

四、以上漁区ニテ不足ノ場合ハ新ニ開設セラルル漁区

尚又貴電文書案ニ對スル当方氣附ノ臆左ノ如シ

一、案ノ前文「各自国政府ノ申越ニ基キ」ノ次ニ「条約ノ運用ニ付」ト云フカ如キ文句ヲ加フルコト（右ハ本電冒頭ノ趣旨ヲ明ニスル為ニモ好都合ナルヘシ）

二、（甲）ノ前文中条約實施後ノ經驗ニ徴シ邦人漁区安定ノ必要ヲ認ムル趣旨ヲ明ニスル文句ヲ挿入スルヲ得ハ条約改訂期ニ於ケル我方立場ヲ有力ナラシムルニ便ナルヘシ

三、（乙）ノ二ノ末段ニ最終議定書ノ一ノ乙ノ（三）ヲ明記スルコトト致度（貴電中此ノ個所ニ電文不明ノ臆アルニ付為念）

206 昭和7年6月4日 齋藤外務大臣より
在ソ連邦広田大使宛（電報）

国営の留保増加方法は安定大綱案と一括提案
して差支えない旨訓令

本省 6月4日後9時0分発

第二三二號（至急、極秘）

貴電第三五一号ニ関シ

国営ノ留保増加方法ニ対スル我方見解ハ往電第二二七号ノ通ナル處貴電第三七号ノ二「ソ」側提案ノ精神カ客年貴電第五七九号中「カラハン」カ提示セル安定問題ノ交換条件ニ於ケルト同様「ソ」側漁業ガ日本側ヨリ劣勢ナル間ハ新漁区等ヲ協議ヲモ為サズ無制限ニ取得セムトスル趣旨ナルニ於テハ彼我ノ見解ニ開キアリ之ガ妥結ヲ見ルハ困難ニシテ相當時日ヲ要スヘシト察セラレタルヲ以テ其ノ為安定問題ノ解決ヲ遷延セシムルコトナリテハ面白カラサルニ付一先ヅ主義的同意ニ止メ詳細ノ話合ハ後廻シトスル方得策カト思考シ往電第二二七号ノ通申進シ尚往電第二三一号ニ於テモ此ノ趣旨ヲ加味シ置キタル次第ナリ然レ共貴官ノ御見込ニ依リ此際我方ヨリ進ンテ安定大綱案ト一括提案スルヲ得策ト認メラルルニ於テハ貴見ノ通取計ハレ差支ナク其ノ場合案文ハ差當リ貴電第三四八号乙ニ往電第二三一号ヲ

以テ申進シタル留保順位及其ノ他ノ点ヲ附加セラレタルモノニテ差支無シ

207 昭和7年6月6日 在ソ連邦広田大使より
齋藤外務大臣宛（電報）

大綱案文を手交し漁区安定問題その他細目に
関するカラハンとの交渉について

別電 六月六日発在ソ連邦広田大使より齋藤外務大

臣宛第三五八号

ソ連邦漁業国営企業に関する日本側提案

モスクワ 6月6日後発

本省 6月7日後着

第三五七號（極秘）

漁業問題ニ關シ六日「カラハン」ニ會見客月十八日ノ貴方ノ提議ニ付テハ内閣更迭等ノコトヨリ回答遅延シタルモ今回新内閣ノ方針モ左ノ通決定セリ
安定問題ノ主タル眼目ハ貴我双方漁業ノ持分ヲ安定確保シ競賣ニ附スル數ヲ成ルヘク少クシ以テ種々ノ紛争ノ原因ヲ除クニ在リ而シテ右安定確保ハ現行漁業條約ノ適用ニ過キ

五 日ソ漁業取極問題

スシテ同條約ノ變更ヲ意味スルモノニ非サルヲ以テ右ニ關スル協定ハ八釜シキ形式ヲ取ラストモ可ナルヘク双方ノ合意セル所ヲ何等カノ形式ニ若ハ書物ニセハ充分ナリト思考ス前記ノ如キ建前ナルヲ以テ漁業條約ハ依然現存スルモノニテ同條約ノ效力ニ關スル我方從來ノ主張ハ其儘留保スルモノトス以上ノ趣旨ニテ試ミニ案文ヲ作製セリトテ往電第三四八號前文及（甲）ノ部分ヲ貴電第二三一號ノ趣旨ニ依リテ修正シ且別電第三五八號ヲ（乙）トスル案文ヲ示シ又今回ノ安定問題解決ニ關聯シナルヘク早日ニ決定シ置キタキ事項アルニ付之ヲ一括書面ニ作製セリトテ貴電第二一五號ノ要旨ヲ認メタル覺書ヲ手交スルト共ニ尙將來交渉ヲ繼續スル建前ナル諸問題即客年通二機密公第二四三號貴信漁業問題第一議題中末段ノ諸（項）（漁業用品目表等六項）ヲ個條書トナセルモノヲ渡シ日本政府トシテハ安定問題ニ付ナルヘク早日ニ合意ノ結果ヲ發表シ以テ日露間ニ何等カ誤解アルヤノ恐慌ヲ抱キツツアル輿論ノ平靜ニ資スルコト可ナルヘシト思考シ居レリ
尙案文ニ付テ説明センニ日本政府トシテハ蘇側カ日本ノ希望タル漁區競賣數四十一箇所ニ合意セラレサリシコトニハ

失望ヲ禁シ得サルモ妥協ノ精神ニ基キ六十箇所ヲ競賣ニ附スルコトニ同意ス蘇側國營漁區確保ノ分量ヲ「ブランク」トシタルハ曩ニ貴方ヨリ提示ノ書附ニハ何年ノ漁獲標準高ヲ基礎トシテ四十「パーセント」トスルヤ明記ナカリシ爲ニシテ日本側トシテハ貴下カ曩ニ國營確保高ヲ條約規定ノ二倍トシタキ意味ナリト言ハレタルニ付條約實施ノ年即チ一九二九年ノ漁獲標準ノ四十「パーセント」トスルカ又ハ四百萬「ブード」トスルカカ適當ナリト思考シ居レリト述ヘタルニ「カ」ハ安定大綱案ヲ一讀ノ後日本側ノ安定モ一九三二年ヲ基礎トスルモノナレハ蘇側國營ノ確保高モ勿論同年ノ四十「パーセント」トナササルヘカラスト言ヘリ尙本使ハ日本側持分ハ明瞭ナルモ蘇側持分ノ漁區ハ不明ナルモノ多々アルニ付右「パーセンテイジ」ノ基礎タル總標準高ヲ明カニスル爲蘇側漁區表ヲ明示アリタク又競賣ニ附スヘキ日本側漁區六十箇所ニ付テハ明年度競賣ノ公告前貴方ニ通知スヘキニ付蘇側國營確保ノ爲選定セラルル漁區モ同時ニ通知アリタシト言ヘルニ「カ」ハ貴方ノ案文ハ孰レ關係ノ筋トモ協議研究ノ上ナラテハ回答致シ難キモ日本側ノ分ニ關スル案文ハ句等ニ付意見アルヘキモ趣旨ハ

於テ最モ國營確保ヲ簡單ニナシ得ル方法ヲ貴方ニテ考ヘラレ度シト述ヘタルニ「カ」ハ其ノ通リスヘシト答ヘ本使ヨリ安定問題ニ關スル協定ハ出來ルナラハ日本内閣成立直後ノ今日早目ニ發表スル事輿論關係ヨリ見テ甚タ望マシキ事ナル旨述ヘタルニ「カ」ハ全然同感ナリ日本側ノ案ニ對スル對案ハ何トカ明後日中ニ貴方ニ提示スル事ト致スヘキカ國營確保ノ「パーセンテージ」ハ一九三二年ニ於テノ四十「パーセント」トシ「コンファア」ヲ要セスト爲ス事ニ諒解シ可ナルカト言ヘル處本使ハ四十「パーセント」ノ點訓令ニハ一九二九年ヲ基礎トスヘキ旨(記載)アルモ此ノ點ハ政府ニ貴方ノ意向ヲ傳フヘク「コンファア」ニ關シテハ前ニモ御話シシタル通其ノ形式ハ守ラサルヘカラストテ當方ノ建前ヲ繰返シ述ヘタルニ「カ」ハ「コンファア」ハ口頭ニテ斯々ノ漁區ヨリ留保シタシト謂フカ如キ語句ニ依リ概括の形式ニテモ可ナル次第ニテ斯カル簡單ナル方法モ取り得ヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ「コンファア」ニ付テハ一、條約ニ口頭ニテ可ナリトノ規定モナク二、從來漁區名等書キ物ニテ爲サレ三、條約又ハ大綱案違反ノ有無其ノ他「コンファア」スヘキ事項ノ複雑ナル事等ヲ指摘シ先方ノ

其ノ通りニテ可ナルヘシト思考スル處蘇側ノ分ニ關スル案文ハ第一國營確保高ノ一九三二年ノ數ヲ(脱)トシ(一語不明)漁區ハ日本人關係漁區以外特ニ「コンファア」無シニ選定シ得ルコトトナササルヘカラスト言ヘルニヨリ本使ハ「コンファア」ハ日本政府ニ於テ大ニ(重キ)ヲ置ク點ニテ其點ハ條約規定ノ通ナル場合「コンファア」無シニ選定シ(脱)尤モ決定國營確保ノ範圍内ニ於ケル漁區ナラハ漁區各種類場所標準高漁獲物ノ種類等判明シ法定距離ノ點其他條約及大綱案ノ規定ニ違背ノ點無ケレハ別ニ右選定ニ異議無キ次第ナリト述ヘタル處「カ」ハ異議無シト言ハルナラハ豫メ其通り協定シ置キタシ漁區ノ種類場所標準高等ハ勿論(一語不明)スヘシト言ヘルニ依リ本使ハ國營確保高ノ増加ハ最終議定書第(一語不明)乙ノ規定ニ依リ日本側ノ同意ヲ要スルモノナル處同意セル範圍内ノ漁區ノ選定ニ付テハ同議定書ノ規定スルハ樞密院關係(脱一語)スルコトトナリ居レリ此「コンファア」ヲ行ハサレハ條約違反トナル爲從來履行シ來リタル「コンファア」ノ形式ヲ取ラレタシト述ヘタルニ「カ」ハ條約違反ノ虞ハ無シト思フ今同協議ノ目的カ誤解ヲ防クニ在ル以上此誤解ヲ除ク爲

(欄外記入一)
日本側ノ漁區ヲ安定シ乍ラ絶エス誤解ヲ起シタル「コンファア」問題ヲ其儘ニナシ置クハ不可ナリ斯々ノ漁區ニ付テハ「コンファア」無シニ選定シ得ルコトニ豫メ貴方ノ同意ヲ得ルコトトセハ可ナラスヤト述ヘタルニ依リ本使ハ條約ノ變更トナルコトヲ規定スルハ樞密院關係等モアリ困難アリ條約ノ變更トナラサルニ於テハ最簡單ナル方法ヲトルコト必要ニシテ例ヘハ前述ノ通此際一括

(4)
シテ國營ノ爲確保セントスル漁區全部ニ付協議スル事トセラレテハ如何ト云ヘルニ「カ」ハ國營トシテハ本年或ル漁區ヲ留保シ來年ハ之ヲ放棄シ更ニ他ノ漁區ヲ留保スルノ必要モ起ル事モアルヘキ故ニ其レハ不適當ナリ「コンファア」ハ過去ニ於テ常ニ日本側ノ反對ニ會ヒ幾多ノ誤解ヲ生ミタリ從ツテ漁業問題關係前文ナリト謂ハルルモ樞密院ハ日本側ニ有利ナルモノナラハ條約ノ規定ヲ逸脱スルモ問題トスル事ナキニ非サヤ今回ノ商議ハ漁業問題ニ關スル紛爭ヲ根本的ニ解決セントスルモノナレハ「コンファア」ノ點モ日本側漁區ヲ安定スルモ直チニ誤解ハサレサルヘシ樞密院(脱)明瞭ニセサルヘカラスト謂ヘルニ依リ本使ハ何レノ途條約ノ建前ハ之レヲ守ラサルヘカラスト條約ノ範圍内ニ

(欄外記入三)
主張ニ反對スルト共ニ條約ニハ概括的「コンファア」ナルモノナク漁區ノ國營ニ付テハ認メラレタル「パーセンテージ」ノ範圍内ニ於ケル各漁區ノ選定ニ付テハ其ノ都度「コンファア」スル建前トナリ居レリト述ヘ之レニ對シ「カ」ハ「コンファア」ノ問題ハ明瞭ニナシ置ク必要アリト述ヘ當方案文ニ對スル私案ヲ明日カ明後日中ニ提示スル事ヲ約シテ本日ノ會見ヲ終レリ

(欄外記入一)
各漁區ヲ指定シテハ如何

(欄外記入二)
條約ニハ口頭ニテハ不可トノ規定ナク口頭書面何レニテモ可ト解シ得ヘシ

(欄外記入三)
此解釈ハ正シ

(別電)

モスクワ 6月6日後発
本省 6月8日前着

日本政府ハ漁業國營企業ノ發達ヲ念トスル蘇聯邦政府ノ希望ニ副フ爲左記ニ同意ス

一、一九二八年ノ漁業條約改訂期タル一九三六年迄「ソウイエット」聯邦國營企業ノ爲確保セラレタル鮭鱒漁區ノ漁獲標準高合計ハ（脱）迄増加セラル

二、蘇聯邦國營企業ノ爲確保セラレタル前項記載ノ漁區ハ先ツ一九三二年蘇聯邦人民又ハ「コオペラチウ」組合及其他ノ團體ニ依リテ經營セラルルモノノ中ヨリ若シ必要アラハ一九三二年競賣ニ附セラレタル新開漁區又ハ舊漁區ニシテ落札者又ハ入札者ナカリシモノノ中ヨリ一九二八年ノ漁業條約附屬最終議定書一（二）ノ乙（三）ノ規定ニ準據シ選定セラル但シ一九三二年日本國臣民入札ノ漁區ニシテ不落トナリタルモノハ蘇聯邦國營企業ノ爲選定セラルルモノヨリ成ルヘク除クモノトス

208 昭和7年6月14日 在ソ連邦広田大使より 齋藤外務大臣宛（電報）

ソ連側提出の対案をめぐる論点について

五 日ソ漁業取極問題

法ニ依ルトハ如何ナル意味ナリヤト尋ネタルニ「カ」ハ漁區ノ貸附契約ハ漁業廳ト當業者トノ間ニ取極メラレタル私法的行爲ナリ故ニ今政府間ノ話合ニ依リテ借區期間満了後モ之ヲ据置クモノナレハ當業者ニ於テ漁業廳トノ間ニ右ニ付何等カノ手續ヲ踏マサル可カラスト言ヘリ依テ本使ハ漁業廳トノ間ニ手續ヲ踏ム事トナラハ又復種々ノ困難生スヘク手數料其ノ他ノ問題モ起ルニ非サヤト述ヘタルニ「カ」ハ延長ニ付テハ蘇政府ノ同意アルモノナレハ單ニ私法上必要ナル延長ノ形式ヲ採ル可シトノ意味ニシテ之ニ依リテ日本人ニ困難ヲ及ホス考ナシト言ヘリ日本使ハ日本側トシテハ此ノ「プロトコール」ニ署名スル以外何等ノ手續ヲ經スシテ延長スルコトヲ主張スルモノナリト言ヘルニ「カ」ハ借區契約ハ私法的行爲ナレハ假令政府間ノ合意ニ依リ之ヲ延長スル事トナルモ漁業廳對當業者間ノ權利義務ヲ定メタル借區契約ハ期間満了ト共ニ無効トナルモノナルヲ以テ之⁽²⁾カ延長ニ付前記兩者ノ間ニ手續ヲ執ラサルヘカラス然ラサレハ權利義務ノ關係判明セス例ヘハ當業者カ借區料ヲ支拂ハスト云フカ如キ場合何人カ之ニ對シ責任ヲ採ルヤト述ヘタルニ依リ本使ハ夫ハ日本政府ニ於テ責任ヲ取ルモノナ

別電 六月十三日發在ソ連邦広田大使より齋藤外務大臣宛第三六九號

ソ連側提出漁區に関する協定案

モスクワ 6月14日發
本 省 6月15日着

第三六八號

往電第三五七號ニ關シ

⁽¹⁾約束ノ日ニ「カラハン」ヨリ會見ノ申込ナカリシヲ以テ其後督促シ置キタル處漸ク十三日午後ニ至リ本使ノ來訪ヲ求メ別電第三六九號ノ通蘇側對案ヲ手交シ右ハ「レダクシヨ」ノ點等多少修正ヲ加ヘタルモ大體ニ於テ先日ノ日本側提案ト一致ス貴使ハ此ノ前二ツノ根本問題（國營留保高四割及「コンファア」ノ件ヲ意味ス）ニ付本國政府ニ請訓スヘシト言ハレタルカ回訓ニ接セラレタルヤト述ヘタルニ付本使ハ蘇側對案ヲ一覽ノ後詳細ノ意見ハ篤ト研究ノ上ニ讓ル可キモ日本案ト比較スレハ大ナル相違アリ貴方ノ只今「リマインド」サレタル問題ニ付テハ未タ回訓ニ接セス之ヨリ貴方對案ニ對スル自分ノ氣附ノ點ヲ申スヘシ

蘇側對案第一項ニ付漁業廳ニ於テ借區契約ヲ延長スルノ方

リ借區契約ハ期間満了ト共ニ效力ヲ停止スルモノナルヲ以テ當業者ト漁業廳トノ關係ハ右契約ノ滿期ニ依リテ絶エル次第ナリ、仍テ此ノ瞬間ニ漁業廳トノ關係ヲ離シ漁業條約第二項ニ依リ蘇政府ト日本政府トノ合意ノ取極ニ依リ日本人漁區ヲ其儘安定スルコトトセハ可ナラスヤト述ヘタルニ「カ」ハ蘇政府トシテハ日本人ノ現有漁區ヲ安定スル義務ヲ負フモノナルモ漁區ヲ日本政府ニ與フルコトヲ約スルモノニ非ス、漁業條約ヨリ云フモ漁區ハ個人ニ貸與スヘキモノナリ從テ漁區ヲ日本政府ニ與フルコトトナルカ如キコトニハ到底同意出來ス、蘇政府トシテハ日本人漁業ノ安定ニ同意ヲ與フル以上之ニ依リテ困難ヲ齎ラサントスル考ナシ只法律的觀念ニ合致スル「フォォーミユラー」ヲ發見スルコト必要ナリ何レ尙法律家ノ意見ヲ徵スルコトトスヘシ延長ノ手續問題ハ如何様ニモ妥結シ得ル問題ナリト述ヘタルニ先方對案第二項ニ付本使ヨリ貴案ニハ借區期間満了前ノ漁區モ當業者ノ希望ニ依リ競賣ニ付スルコトトハナリ居ラサルヤト尋ネタルニ「カ」ハ斯ル必要ナカルヘシ蘇側對案ハ漁業條約期間中日本側ニ於テ現有漁區ヨリ六十箇所ヲ競賣ニ出セハ可ナルモノニシテ第一年目ニ六十箇所全部ヲ出

ケ居ラサリシ漁區トハ如何ナル漁區ヲ指サヤトノ問ニ對シテハ一九三二年競賣ニ附セラレタルカ落札者ナカリシ漁區ハ勿論其他今後新ニ開設セラルル漁區ノ意ニシテ要スルニ一九三二年日本人カ借區シ居ル以外ノ漁區全部ヲ含ムモノナリト述ヘタリ依テ本使ハ貴案ニ依レハ國營留保漁區トシテ一、蘇聯人民及團體ノ現在借區シ居ルモノ二、一九三二年日本人ノ借り受ケ居リタル漁區以外ノモノト並ヘアル處右ハ選定ノ順序ヲ示スモノナリヤト尋ネタルニ「カ」ハ然ラスト答フ本使ハ然ラストセハ蘇側カ國營ノ爲新漁區ノミヨリ留保スルモノトセハ日本人カ漁業條約上有スル新漁區開設要求ノ權利ハ將來有名無實トナルニアラスヤ又其ノ結果蘇領沿岸ハ日本人ノ爲安定セル漁區ヲ除キ全部蘇側ノ手ニ歸シ幾百ノ新漁區カ國營ノ爲留保セルルコトトナルニアラスヤ此ノ案ハ日本ニ重大ナル反對アリト述ヘタルニ「カ」ハ假リニ新漁區ノミヨリ國營漁區ヲ留保スルコトトスルモ蘇聯個人漁區等ニハ借區期間ヲ附シアレハ之等モ競賣ニ附セラルルコトナルヘク日本側カ發展ノ餘地ナキコトトナルカ如ク云ハルハ當ラス蘇側ハ新漁區ノミヨリ國營留保ヲナスモノニアラスシテ種々ノモノモ留保スル考ナリ

(欄外記入三)

(欄外記入四)

セト云フニ非ス例ヘハ本年滿期トナル漁區アレハ當業者ハ任意ニ其筋ヨリ競賣ニ出スモノヲ選定シ得ルナリト述ヘタルニ依リ本使ハ然シ當業者ノ見地ヨリスレハ事業整理ノ都合等期限前ニテモ競賣ニ付スルコトヲ希望スル次第ニテ安定ノ爲滿期漁區ノ据置ニ同意セラレタルコトナレハ日本人カ滿期迄利用シ得ル漁區ヲ放棄シテ右期限前ニ競賣ニ付スルコトニハ同意セラレテ可ナルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ當業者ノ不安ヲ除ク爲漁區ノ契約期間到來シタルモノヲ其儘据置クカ安定ノ趣旨ニ非スヤ正當ナル手續ヲ經テ權利義務ノ契約ヲ結ヘル漁區ヲ當業者ニ於テ希望スレハトテ之ヲ競賣ニ出スコトトスルハ私法上ノ契約ヲ勝手ニ破棄スルコトヲ是認スル結果トナリテ面白カラス日本人ハ安定シタル上ニ日本人ニ都合惡シケレハ漁業條約ニ基キ借區契約カ出來同契約ニハ一定ノ期限ヲ附シアルニ拘ラス之ヲ期限前ニ競賣ニ出ストハ餘リニ蟲ノ良キ話ニ非スヤ貴使ノ云ハルルコトハ一ヲ與ヘタルコトナレハ二ヲ與ヘサルヘカラストノ論法ニテ到底同意出來スト述ヘタルニ依リ本使ハ之ヨリハ日本人ノ漁業ハ大部分一ノ會社ノ手ニ集中セラルルコトトナリ從テ漁業合理化ノ必要等ヨリ數ハ左程多カラサラン

但シ第一番ニ蘇聯人及團體ノ借區シ居ルモノヲ取リ次⁽⁵⁾ニ新漁區ヲ取ルト云フカ如キ順位ヲ設クルコトニハ反對ナリ日本側ハ一九三一年度ヲ基礎トスレハ一二割モ安定セラルル次第ナレハ日本人ノ關係無キ所ハ蘇側ニ「フリー、ハンド」ヲ認メラレタシト述ヘタリ之ニ對シ本使ハ日本側ノ安定ハ六〇ヲ除キタル殘部安定スル次第ニテ事態明瞭ナルカ蘇側國營留保ノ規定ニハ不明瞭ナル點多々有リ斯ル白紙モ同様ナルモノニ署名スルハ不可能ナリ又貴方ノ案ハ「コンファア」ヲ要セサル建前ト認メラルル處此前ニモ御話シタル通り樞密院關係等モアリ「コンファア」ノ形式ヲ執ルコト絕對ニ必要ナリ勿論「コンファア」ノ爲「トラブル」ヲ起サヌ方法ヲ考フルコトニハ同感ナルモ條約規定ノ形式丈ケハ之ヲ踏マサルヘカラス以上ノ外貴方對案ニハ四割ノ基礎トナル「ブード」數モ判明シ居ラスト言ヘルニ「カ」ハ右基礎トナル「ブード」數ハ明日ニモ示スヘシ蘇側對案ハ能ク吟味セラルレハ貴使ノ言ハルル如ク懸念ノ必要ナキモノナレハ充分御研究ノ上御提議アラハ明日拜聽スヘシト述ヘ本使ハ要スルニ貴方對案ハ從來貴方ノ取り來レル主張ヲ其儘ニシテ何等當方提案ノ趣旨ヲ考慮ニ入レ居ラ

モ期限前ニ手放スコトヲ欲スルモノアリ得ヘシト述ヘタルニ「カ」ハスルコトハ漁業條約及借區契約ノ違反ナリト云ヒタルニ依リ本使ハ然シ右期限前放棄ハ今回競賣ニ出スコトトナリタル六十箇所ノ内幾箇所ニ限ラルル譯ニテ漁區ハ期限前ト雖之ヲ放棄シ得ル建前トナリ居ルニ非スヤト述ヘタルニ「カ」ハ條約ノ何處ニ斯カル規定アリヤト述ヘタリ先方提案第三項ニ付本使ヨリ四割ハ如何ナル年ヲ基礎トスルヤ蘇側ノ現有漁區ノ「ブード」數等我方ニ判明シ居ラスト述ヘタルニ「カ」ハ夫ハ一九三二年度ヲ基礎トスルモノニシテ蘇側標準高ハ御知ラセスヘシト云ヘリ次ニ本使ハ從來蘇側國營留保漁區ニハ蟹漁區ハ問題トナリタルコトナカリシニ本日ノ貴方提案ニハ蟹モ含メアリト述ヘタルニ

「カ」ハ蘇側専門家ハ蟹漁區モ同時ニ含マシムヘシトノ意見ナルカ夫レニハ反對ナリト云ハルル次第ナリヤト云ヒタルニ依リ本使ハ實ハ蟹ニ付テハ之レ迄貴方ニ於テ問題トセラレス從テ本省ノ意見ヲ問合セタル上ニアラサレハ自分トシテ之ニ付何等意見ヲ述フルコト能ハスト答フ次ニ本使ヨリ蘇側團體ニハ「コ」組合モ含ムモノナリヤト尋ネタルニ「カ」ハ其ノ通りナリト述ヘ又一九三二年日本臣民ノ借受

レサルノミカ日本側安定ノ點ニ付テモ漁業廳ト手續ヲ要スル等改惡ナリスル案ヲ其儘東京ニ報告スルモ政府ニ於テ之ニ同意スル筈無シト述ヘタルニ「カ」ハ貴使ヨリ報告セラルレハ日本政府ニ於テ同意セラルルナルヘシト言ヒタルニ依リ本使ハ貴方ニ於テスル考ヲ有セラルル以上最早議論ノ餘地ナシ本使ノ有スル訓令ト貴對案トノ間ニハ大ナル距離アリ貴方カ從來ノ主張ヲ固持シテ動カサルニ於テハ妥結ヲ見ルコト困難ナリ貴對案ハ日本側安定ノ方ハ改惡ナル外蘇側安定ノ方ハ全然當方案ヲ無視セラレ從來ノ主張ヲ頑張り居ラルル次第ニシテ

第三項ノ如キ貴方ノ意圖カ那邊ニアルヤヲ推知スルタニ困難ナリトテ前述ノ趣旨ヲ繰返シ述ヘ我方六十ヶ所ハ本年漁期ノ末ニ御知ラセスヘキニ付國營ニ於テ留保セントスル漁區全部モ示サレ度シト述ヘタルニ「カ」ハ蘇側對案カ貴使ノ有セラルル訓令ニ相異スレハトテ議論ノ餘地無シト云ハルルカ談判事ハ交渉ノ結果請訓トナリ其ノ結果最初ノ訓令モ變化シ妥結ニ到達スルカ常ナリ蘇側主張ハ實質ニ於テ之ヲ變更スルハ困難ナルモ先程モ申シタル通り我方對案御研究ノ上之ニ對シ新ニ御提案アレハ喜テ審議スヘク安定漁區

コノ奥「ソ」側ノ論正シ

(欄外記入三)

△期限前拋棄セバ保証金返還出来ルヤ本年迄ニ六十ヶ所全部拋棄スルモ可ナラズヤ(今年ノ新漁區ノミニテ拋棄漁區ヲ充當スヘシ)俗受ハ考ヘヌガヨシ

△蟹ハ明瞭ニシオクラ要ス、延長ノ奥ハ變ナシ留保ノ奥ノ

ミ除外ス

(欄外記入四)

現ニ經營シオラヌ漁區ヲ拋棄スル位ノコトハ「ソ」ヲシテ認メシムル理論の根拠アルベシ

(別電)

モスクワ 6月13日後發
本省 6月14日前着

第三六九號

蘇聯邦外務人民委員代理「レフ、ミハイロウイチ、カラハシ」氏及在蘇聯邦日本大使廣田弘毅氏ハ蘇聯邦及日本國ノ間ニ在住スル友好關係ヲ増進スル目的ヲ以テ千九百二十八年ノ漁業條約ノ適用ニ關聯スル種々ノ問題ヲ解決セン事ヲ

ノ契約延長ノ案ハ形式ヲ如何ニスルカ問題ニシテ如何ニモ話ヲ付ケ得ヘク例ヘハ本「プロトコール」署名ノ際同時ニ一括契約延長ノ手續ヲ了スル方法モアルヘシ國營ノ爲留保スル漁區ハ只今之ヲ直ニ御知ラセスルコト不可能ナルカ貴方ニ於テ競賣ニ附スヘキ六十ヶ所ヲ通知シ得ラルル時期ト言ハルル本年漁期ノ終リ頃ニハ御知ラセ出來得ヘシ「コンファア」ハ過去ノ經驗ニ照シ紛爭ヲ後日ニ殘スモノナルヲ以テ日本側ノ漁業モ安定スル以上「コンファア」モ止メサルヘカラス貴使ハ第三項ノ點ニ付杞憂ヲ抱カルル様ナルカスル杞憂ヲ除ク爲ノ案モ考ヘ得ヘク例ヘハ之ハ全クノ私見ナルモ蘇聯人民及團體ノ有スル漁區ヨリ留保スル場合ハ「コンファア」無シトスルトカ新漁區其ノ他ノ場合ハ或ル方法ヲ設クル如キ案モアリ得ヘシ兎ニ角本日ノ對案ヲ篤ト御研究ノ上更ニ意見ヲ交換スルコトト致度シト述フ時ニ會談二時間半ニ上リタルヲ以テ翌日再會ヲ約シ辭去セリ

(欄外記入一)

「原契約同一条件ノ下ニ」トシテオケハ可ナルベシ

(欄外記入二)

希望シ且ツ凡ユル漁業問題ハ漁業條約ノ凡テノ條文及規定ヲ嚴守スル事ヲ基礎トシテ解決調整セラルヘキモノナリトノ見地ニ立脚スル各自國政府ノ訓令ニ依リ前記條約ノ範圍ト基礎ニ於テ友好的意見ヲ交換シタル後左記ノ通り協定セリ

(欄外記入)

一、蘇聯邦政府ハ現ニ日本臣民ノ借受クル漁區カ現存借區契約期間満了スルニ從ヒ漁業廳ニ於テ是ヲ延長スルノ方法ニ依リ漁業條約有効期間タル千九百三十六年迄右日本(編注一)人ノ借受トシテ存續スル事ニ同意ス但下記第二項ニ記載ノ例外ヲ遵守スルモノトス

二、將來競賣ニ依リテ貸附セラルヘキ凡ユル漁區竝ニ現在日本臣民ノ借受漁區中其任意ニ選擇セラルル漁區六十箇所ハ其貸附期間満了スルニ從ヒ競賣ニ附セラレ漁業條約附屬議定書甲第六條記載ノ期間ヲ以テ競賣ニ依リ貸附セラルルモノトス

三、最終議定書第一部一ノ乙(二)ニ準據シ魚類及水產物ノ捕獲又ハ採取ニ當テラレタル國營漁區ノ漁獲標準總高ハ各魚類及水產物ノ捕獲物及採集物ノ總高ノ百分ノ四十迄増加セラルヘシ、兩國政府ハ蘇政府ガ前記標準ノ勘定トシ

テ其國營企業ノ爲現在蘇聯邦人民及團體ノ借受クル漁區
及一九三二年^(遼)日本臣民^(編注二)ノ借受ケ居ラサリシ漁區ヨリ漁區
ヲ選定スル場合ハ凡テ最終議定書第一部一ノ乙(三)ノ規定
ハ本「プロトコール」署名ニ當リ前記漁區ニ付テ既ニ適
用アリタルモノトシテ之ヲ之等漁區ニ及ホササルコトニ
同意ス

四、蘇聯邦國營企業ノ爲ノ確保ニ付發生セル十八漁區、七
漁區其他ノ漁區並ニ蘇聯邦人民「コオペラチブ」組合及
地方農漁民ニ貸附セル漁區ニ關スル日本側ノ要求及反對
ハ凡テ之ヲ解決シタルモノト認ム、但シ兩國政府ニ於テ
一九二八年ノ漁業條約及其附屬文書ノ解釋ニ關スル各自
從來ノ主義的主張ヲ引續キ維持スルコト勿論ナリ

一九三二年ノ……月……日莫斯科ニ於テ日本語及露西亞語
ヲ以テ夫々二通ヲ作成ス署名

(欄外記入)

「プロトコール」ト同時ニ延期契約ヲナサシム期限到来ヲ俟
タズ之ヲ爲ス必要アリ(度々ノ經驗)

編注一 「千九百三十六年迄」と「右日本人」との間に「原

ヘク簡單ナル形式ヲ取り度キ希望ナリト述ヘタルニ
「カ」ハ會議錄トスルニハ如何ナル會議カ說明ヲ付スル
必要アル可ク覺書トスレハ相互ニ取交ス事トナルヘクス
ル場合ニ覺書ハ餘リ慣例無キ様思ハル或ハ互ニ書翰ヲ交
換スル建前(交換公文)ニテハ如何或ハ漁業問題ニ關ス
ル我等兩人ノ意見交換ノ「プロトコール」ト言フカ如キ
ハ如何ナル可キカ此ノ問題ハ自分ノ方トシテ重大ナル問
題ニ非サレハ如何様ニテモ可ナルカ法律專門家ニ相談ス
ヘシト述ヘタリ

二、前文末尾ニ付「左記大綱ヲ決定セリ」トスル事ニハ何
故御異議アリヤト訊ネタルニ「カ」ハ大綱ト言フハ更ニ
何等カ細則ヲ豫想スル様ニ見ユル處今回ノ取極ハ實際的
解決方法ヲ規定スルモノニシテ大綱ト言フハ當ラスト述
ヘタルニ依リ本使ハ今回ノ取極カ主要ナル點ヲ決定スル
モノニシテ是ニ附隨スル事項ハ追テ協議決定スル建前ナ
ル事此ノ會見ニ御話ノ通りニシテ附隨事項ニ就テハ別
ニ書キ物ニ依リ差上ケ置キタリト述ヘタルニ「カ」ハ今
回ノ取極ハ夫自身ニテ完結シ居ルモノニシテ何等附隨事
項アル可キ筋ニ非ス此前附隨事項トシテ示サレタル問題

契約ト同一条件ノ下ニ」の書込みあり。

編注二 「日本臣民借受ケ居ラサリシ漁區ヨリ」の傍に「又
ハ入札シタルコトナキ」との書込みあり。

209 昭和7年6月15日 在ソ連邦広田大使より
齋藤外務大臣宛(電報)

ソ連側対案につき了解に達したので当方より

主張すべき点請訓

モスクワ 6月15日前発
本 省 6月15日後着

第三七〇號
往電第三六八號ニ關シ

十四日午後「カラハン」ニ會見貴方對案ニ關スル政府ノ意
見ハ訓令ニ接シ次第申述フヘキモ尙右ニ付質問シ度キ事ア
リトテ

一、(脱)ハ會議錄トノ表題ヲ付シ置キタルカ貴方提案ニ
ハ之無ク第三項ニ「プロトコール」トアルカ右ハ如何ナ
ル理由ニ依ルヤ會議錄又ハ覺書(「メモランダム」)トナ
ス事ニハ異議アリヤ日本トシテハ樞密院關係等アリ成ル

ニ付テハ別ニ蘇側ノ見解ヲ回答スヘク又安定取極後モ問
題起リ得ヘキカ夫等ハ此ノ取極トハ別箇ニ取計フ可キモ
ノナリト述ヘタリ

三、前文末尾ニ「左ノ通り協定セリ」トアル處對樞密院關
係ヨリ協定トナサス

例⁽²⁾ヘハ「次ノ決定ニ到達セリ」ト言フカ如キ文字ヲ使用
スルコトハ如何ト述ヘタルニ「カ」ハ斯ル取極ニハ協定
セリト言フカ普通ナルモ貴方ノ言ハルル通りノ文字ニナ
スコトニ異議無シト答ヘタリ

四、蘇側提案ニハ日本案甲ノ「蘇聯邦政府ハ蘇連邦ノ水域
ニ於ケル云々ヨリ日本政府ノ意向ニ副フ爲」ノ文句ヲ
削除シアル處右ハ如何ナル理由ニ依ルヤト尋ネタルニ
「カ」ハ今回ノ取極ハ實際的ノ取極ニシテ事實ノミヲ修
飾ナクアツサリト書付クルコトヲ可ト思考シタル次第ニ
シテ蘇側ハ斯々ノ譲歩ヲ爲シ日本側之ニ對シ斯々ノ譲歩
ヲ爲セリト言フカ如キコトハ如何ニモ兩方ノ間ニ掛引カ
行ハレタルコトヲ意味スル様ニ感セラルト述ヘタルニ依
リ本使ハ日本ノ希望ハ斯ル文句ヲ附シ以テ日本人ニ好感
ヲ與ヘントスルニアリテ他意無シ文句ハ如何様ニモ變更

(欄外記入)

シ得ラルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ文句ノ問題ニ非ス又
果シテ日本人ニ好感ヲ與ヘル外他意無シトノ事ナリヤ何
レ政府ニ今一度請訓スヘキモ多分政府ハ反對スヘシト思
ハルト述ヘタリ

五、貴案第一項末段ニ「例外」トアル處貴案第二項中例外
ヲナスハ六十ヶ所ノミニシテ他ハ例外ト言フコトヲ得サ
ルニアラスヤト述ヘタルニ「カ」ハ案文ヲ一覽シタル後
御尤ナリ此ノ點ハ「第二項ニ規定セラルル六十ヶ所ヲ除
ク日本臣民ノ現ニ借受クル漁區」トノ趣旨ニ訂正シ但シ
以下ハ削除スルコトスヘシト言ヘリ

六、貴案第二項ニハ日本案甲ノ第一項末段ノ「貸附期間満
了前ノ競賣ニ關スル規定」ヲ缺如シ居ル處借區契約ニハ
當事者ノ合意アレハ期限前ト雖モ借區ヲ放棄スルコトヲ
認メ居レリ故ニ日本當業者ノ有スル右權利ニ依リ此ノ取
極中ニ斯ル規定ヲ設ケタキ趣旨ナリ此ノ點ハ訓令ニ依リ
主張セサルヲ得スト述ヘタルニ「カ」ハ安定問題ニ付政
府ハ大ナル讓歩ヲ爲シ

日本側ト妥結スヘキ旨訓令ヲ自分ニ與ヘ期限滿了ノモノ
モ之ヲ延長スルコトニ同意シタルニ更ニ日本側ヨリ期限

ト斷リアルニ此ノ方ハ何等ノ斷リナキハ何故ナリヤト述
ヘタルニ「カ」ハ年限ノ制限ハ附セサルナリト云ヘルニ
依リ本使ハ夫ハ大ナル問題ナリ漁業條約ノ有効期間ハ決
定シ居リ且國營ニ關スル交換公文ヲ見レハ右留保カ條約
ノ存續期間ニ限ラルルコトハ明瞭ナリト述ヘタルニ
「カ」ハ漁業條約ノ露文譯ヲ見ナカラ其點ハ色々ニ解釋
シ得ヘシト云ヒタルニ依リ解釋ハ英文ニ依リ議論セサル
ヘカラスト述ヘタルニ「カ」ハ英文ハ玆ニ持合セナケレ
ハ後程調ヘ置クヘシト答ヘタリ

(4)昨日御約束ノ蘇側漁區標準高調ヲ頂キ度シト述ヘタル
ニ「カ」ハ此ノ通り材料ヲ入手シタルモ寫ヲ取ル事間ニ
合ハサリシニ付明日送附ス可シト答ヘタリ

(5)蟹ノ問題ニ付云ヒ掛ケタルニ「カ」ハ遮リ乍ラ蘇側蟹
漁區關係ハ削除スト云ヘリ

(6)現在蘇聯邦人民及團體ノ借受ケ居ル漁區ノ現在ト云フ
意味ハ一九三二年ヲ指サヤト尋ネタルニ其ノ通りナリト
答ヘタリ

(7)次ニ一九三二年日本臣民ノ借受ケ居ラサリシ漁區トハ
如何ナル漁區ナリヤト尋ネタルニ新漁區及一九三二年ヲ

滿了前ノ漁區迄其ノ希望ニ依リ放棄シ得ルコトトナス様
要求アリタリト政府ニ報告スルコトハ甚タ具合惡シト述
ヘタルニ依リ本使ハ今回日本人漁區ハ殆ト一會社ノ手ニ
收メラレ事業合理化等ノ爲ニ期限前放棄ヲ要スルモノア
ルヘク前記日本側ノ希望ハ是非容レラレ度右放棄シ得ヘ
キ漁區ノ數モ六十ヶ所ノ中ノ幾何カニ限ラルル次第ナル
ヘシト述ヘタルニ「カ」ハ極ク少數ナラハ尙更ノコトナ
リ此ノ點餘リ主張セサランコトヲ望ム若シ漁業廳トノ借
區契約中ニ當事者間ノ合意アレハ放棄シ得ル規定アリト
セハ其ノ規定ニ依リ當事者ヨリ漁業廳ニ交渉スレハ可ナ
ラスヤト述ヘタルニ依リ本使ハ右漁業廳ノ同意ノ代リニ
今回ノ取極ニ依リ蘇政府ニ於テ豫メ同意ヲ與フルコトト
セハ可ナラスヤ貴方ノ建前ハ東京ニ報告スヘキモ貴方ニ
於テモ日本側ノ希望ニ付充分考慮セラレタシト述ヘタリ

七、貴案第三項ニ付テハ日本案乙ノ一及二ヲ主張スルノ外
ナシ只政府ニ報告ノ爲貴方對案ニ付二三質問シ度キコト
アリ

(1)漁區ノ國營留保ハ條約存續期間丈ケナルコトハ疑ノ餘
地ナキ所ナルカ日本側漁區ノ安定ニ付テハ一九三六年迄

含ム以前ノ年度ニ於ケル不落漁區ナリ現ニ借區人無キモ
ノヲ意味スト答ヘタリ、次ニ本使ヨリ貴案第三項兩國政
府以下ヲ讀メハ國營留保ノ際「コンファア」ヲ爲ス漁區
他ニアルヤニ思ハルル處其點ニ關スル説明ヲ承リ度シト
述ヘタルニ「カ」ハ日本人カ競賣ニ出ス六十個所カ國營
ニ留保セラルル時ハ「コンファア」ヲ爲ス趣旨ナリト云
ヒタルニヨリ本使ハ然シ貴案第二項ニハ六十個所ハ競賣
ニ附セラレ、議定書甲ニ依ル期間ヲ以テ競賣ニ依リテ貸
附ケラルルモノト規定シアルニ非サヤト述ヘタルニ
「カ」ハ國營新漁區ヲ取得スル方法トシテ、條約第二條
ノ但書ヲ引用シ右六十個所ト云フモ競賣ニ附セラルル部
類ニ屬スル以上他ノ漁區ニ異ナル特權ヲ有スルモノニア
ラス只前記六十個所ヨリ國營留保ヲ爲ス場合ハ「コンフ
ア」ヲ要スル趣旨ナリ、蘇側對案第二項ノ文案ニ於テ
此點ニ付誤解ヲ招ク次第ナラハ誤解ヲ生セサル様改案ス
可シト述ヘ更ニ本使ヨリ其レ以前ニハ「コンファア」ス
ルモノ無キヤト問ヒタルニ「カ」ハ其レ丈ケナリト答ヘ
タリ

八、貴案第四項ノ前段ヲ十八漁區、七漁區其他ノ漁區ニ付

210

昭和7年6月28日

齋藤外務大臣より
在ソ連邦広田大使宛(電報)

(欄外記入) 「代ルコトヲ空トボケルハ改ムベシ」
編注 「外」の書込みあり。

ハ此ノ點關係方面ト相談シタルニ形式上面白カラストノ事ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ斯クテハ毎年延長ノ手續ヲ執ルノ厄介生ス可シ折角ノ安定モ種々面倒力起ル事トナルト述ヘタルニ「カ」ハ浦潮ニハ當業者代表常駐シ居ル事ナレハ此ノ位ノ事ハ我慢セラレ度シ其ノ代リ當業者ニ安心ヲ與フル爲蘇側對案第一項ニ「漁業者ニ於テ」ト「之ヲ」トノ間ニ「同一條件ヲ以テ」ヲ挿入スル事トスヘシト述ヘ本日ハ他ニ約束ノ時間迫リタル趣ニテ明日再會シタシトノ事ナリシモ以上「カ」ノ説明ニ依リ蘇側對案ノ趣旨モ明瞭トナリタルニ依リ右蘇側對案ニ對スル政府ノ御意嚮判明シタル上會見スルヲ有利ト認メ何分ノ御回訓ヲ俟テ先方ト會見スヘキ旨ヲ告ケテ辭去セリ

就テハ尙我方ヨリ主張スヘキ點至急御回訓ヲ請フ

蘇聯邦國營企業ノ爲ノ確保ニ關聯シ、發生セル⁽⁵⁾日本側要求及反對並蘇聯邦人民「コオペラチウ」組合及地方農漁民ニ貸付セル漁區ニ關スル日本側ノ要求及反對ハ總テ云々ト改ムルコトトシ

右ニテ質問ヲ終リタルカ「カ」ハ日本側ノ懸念ヲ除ク爲蘇側案第三項中「及一九三二年日本臣民ノ借受ケ居ラサリシ漁區」ヲ除キ一九三二年蘇聯邦人民及團體ノ借受クル漁區ヨリ留保ノ場合ハ國營ハ「コンファア」ノ手續ヲ要セサルコトトシ新開漁區及一九三二年ヲ含ム從前ノ年度ニ於テ不落トナリシ漁區即チ從來存在セシ漁區ニシテ現ニ借區人無キ漁區ニ付テハ日本側ヲ安心セシムル爲特別ノ取極ヲ爲スコトトスルニ同意シ得ヘシ例ヘハ之ハ全ク自分一己ノ考ナルカ新漁區ヲ國營カ留保スル場合ハ其ノ半分迄ハ無競賣無協議ニテ留保シ得ルモ夫レ以上ニ及フトキハ協議ヲ要スルコトトスルモ一案ナリト述ヘタリ依テ本使ハ國營カ新漁區等ノミヨリ留保スル場合ハ日本人力競賣ニ於テ漁區ヲ取得スル可能性少クナルヲ以テ日本トシテハ國營カ新漁區等ヨリ如何程留保スヘキヤヲ惧ルト述ヘ手ヲ替ヘ品ヲ替ヘ先方カ如何ナル方面ヨリ漁區ヲ國營ノ爲ニ留保スルヤヲ尋ネタ

ルニ「カ」ハ國營ハ大部分蘇聯邦人民及團體ノ漁區ヨリ留保スヘク左スレハ新漁區等ノ方ヨリハ少數留保セラルルニ過キサルヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ此ノ點東京ニ報告シテ可ナルヤト念ヲ押シタルニ「カ」ハ報告セラレ差支無シト答ヘ尙本使ヨリ國營留保高ヲ四割迄増加スルトセハ之ヨリ現ニ國營ノ經營シ居ル約二割ヲ差引キ殘リノ二割ヲ蘇聯邦人民及團體ノ漁區並新漁區ヨリ留保スルコトトナル次第ナルカ只今貴方ノ言ハレタル様先ツ蘇聯邦人民及團體ノ漁區ヨリ大部分ヲ留保シ次ニ新漁區ヨリ留保スル趣旨ヲ取極中ニ明記スルコトセラレ度シト述ヘタルニ「カ」ハ夫レハ國營ノ事業カ日本政府ト打合スルカ如キ形トナリ工合惡シト述ヘタルニ依リ本使ハ右ハ數字ニ就キテ細カク國營ノ留保ヲ條件附ケルモノニ非スシテ唯留保ノ順序ヲ示スニ過キサレハ差支無カルヘシト言ヒタルニ「カ」ハ政府ニ相談スヘキモ夫レハ工合惡シト言ヘリ

⁽⁶⁾「カ」ヨリ蘇側案一項ニ付テハ當方ニ於テ同意ト認メ差支ナキヤト尋ネタルニ付本使ハ漁業廳トノ間ニ手續ヲ踏ム點ハ此ノ前反對シ置キタル通りナルカ安定漁區ヲ一括延長スル事トセハ手續モ簡單ニナル次第ナリト云ヒタルニ「カ」

ソ連側對案に対する意見回示並びに措置方訓令

本省 6月28日後11時30分発

第二五七號(至急)

貴電第三七〇號ニ關シ

貴電第三六九號「ソ」側對案ニ對スル當方意見左ノ通ナル

ニ付右ニ依リ御措置アリタシ

一、「ソ」側案第一項ニ關シテハ貴官ノ主張セラレタル通り漁業廳トノ間ニ借區契約延長ノ手續ヲ執ルヲ要セサルコトトナスヲ得ハ好都合ナルモ(此ノ場合ニ於テモ借區契約ハ期間滿了ト共ニ效力ヲ停止スルモノニハアラスシテ本件取極ノ効果ニ依リ當然期間力延長セラルルモノト解スヘク從テ現在ノ借區期間經過後ト雖契約上ノ責任ヲ負フ者ハ依然當業者タルヘキモノト思考ス)「ソ」側ニ於テ右漁業廳トノ手續ヲ固執ストセハ已ムヲ得サルニ付之ニ同意シ差支ナキモ其ノ場合ニモ借區期間延長ニ對シ「ソ」側力確定的ニ同意ヲ與フルモノナルコトヲ明カニスル爲「ソ」側案第一項中「現存借區契約」以下「漁業條約」迄ヲ「現存借區契約期間滿了後モ引續キ原契約ト同一條件ヲ以テ漁業條約」云々ト修正シ且同項ノ但書ト

シテ「但シ前記漁區ノ借受繼續ニ付關係日本臣民ハ借區契約期間満了ヲ俟タス何時ニテモ極東漁業廳ト借區契約延長ノ手續ヲ爲スヲ得ヘク漁業廳ハ右ニ對シ直ニ手續ヲ完了スヘキハ勿論ナルガ萬一契約期間満了スルモ右手續完了セシテ漁期到來セル場合ニハ關係日本臣民ハ右完了前ト雖モ漁業ノ經營ニ着手スルコトヲ得ルモノトストノ意味ノコトヲ挿入シ置キ以テ實際上ハ本取極成立後六十ヶ所ノ漁區ヲ決定通知シタル上速ニ安定漁區全部ノ契約延長手續ヲ一括完了スルコトスト共ニ萬一ノ場合ニモ問題ヲ起ササラシムル様致度

二、「ソ」側案第二項ニ關シ我方六十ヶ所中ノ漁區ヲ貸付期間満了前ニ競賣ニ付シ得ルコトヲ主張スルハ邦人ノ實際上ノ便益ヲ考慮シタルニ依ルハ勿論ナルモ右ニ依リ邦人借區者ニ於テ不要トナリタル漁區ヲ期間満了迄放任シ置クコトナク速ニ競賣ニ附シ以テ「ソ」側力之ヲ經營シ得ヘキ機會ヲ造ルモノナルヲ以テ漁區利用ノ見地ヨリスルモ適當ナリト思考スル次第ナルカ「ソ」側力強イテ反對スルニ於テハ我方トシテモ當業者ノ一方の意思ニ依リ解約シ得ルコトヲ主張スル迄ノ必要ナキニ付解約ハ借

四、「ソ」側案第三項前段百分ノ四十ナル割合ハ一九三二年現在ノ總標準高ヲ基準トスルモノナルコトヲ明カニシ置ク要アルヘキ處(往電第二二七號末段參照)現行最終議定書ノ規定ハ何等誤解ノ餘地ナキニ拘ラス問題ヲ起シタル過去ノ經驗ニ徴スレハ右ノ如ク割合ヲ以テ取極メ置クトキハ又々後日紛議ヲ生スル虞アルニ付割合ヲ記載スルコトヲ止メ貴官原案通り右割合ヲ以テ算出シタル「ブード」數ヲ記載スルコトト致度尙「カラハン」ハ蟹漁區ヲ除外スルコトニ同意シタル次第ナレハ此ノ趣旨ニテ文句ヲ修正シ本項ハ鮭鱒漁區ニ限ルモノナルコトヲ明カニシ置カレタシ(右蟹漁區除外ハ國營留保ノミニ關スルモノニテ邦人漁區安定ハ蟹ヲ含ム全部ノ内六十ヶ所ヲ除ク他ノ漁區ノ安定ナルベキコト勿論ナリ、貴電第三七三號ニ全然蟹漁區ヲ含ミ居ラザル等ヨリ見テ疑ナキニモアラサルヲ以テ為念)

五、「ソ」側案第三項前段ニ國營留保増加ノ期限トシテ「國營漁區ノ漁獲標準總高ハ」ノ次ニ「條約改訂期タル一九三六年迄」ヲ挿入スル様主張セラレタシ右期限ハ最終議定書ニ所謂「條約ノ存續期間中」ト必スシモ一致セ

區契約ノ規定ニ從ヒ漁業廳ノ同意ヲ得テ之ヲ行フコトトシ差支ナシ尤モ本件六十ヶ所中ノ漁區ヲ此ノ方法ニ依リ解約シテ競賣ニ付シタル場合ニモ之ヲ六十ヶ所ノ内トシテ競賣ニ付シタルモノト認ムルコトヲ明確ニシ置カレ度(之カ爲ニハ「ソ」側案中「貸付期間満了スルニ從ヒ」ヲ「貸付期間満了スルカ或ハ契約ノ規定ニ從ヒ解約セラ

三、「ソ」側案第二項冒頭ニ「將來競賣ニ依リテ貸付セラ

サルヘク即チ條約ハ一九三六年以後モ改訂ヲ經又ハ無改訂ニテ存續スルコトナルヘキ筈ニテ最終議定書ノ規定モ改正ナキ限り其ノ儘效力ヲ有スヘキモ今回ノ取極ニ依ル四割迄ノ留保増加ハ其ノ場合ニモ一九三六年迄ニテ效力ヲ失ヒ其ノ後ニ對シテハ其ノ際改メテ取極メヲ要スルコトナシ(取極成ラサレハ現在ノ最終議定書ノ規定タル二割ニ復歸スルモノトス)恰モ邦人漁區安定カ一九三六年迄ナルト同様ナラシメムトスル趣旨ナリ今次取極ハ畢竟邦人側ニ對シテハ借區延長ニヨリ又「ソ」側ニ對シテハ國營留保増加ニ依リ各々漁業安定ヲ計ラムトスルモノナルヲ以テ双方共同様ニ三六年迄ノ期限トスルコト公平ナルヘク若シ國營ニ付期限ヲ附セストセハ邦人借區延長ニ付テモ期限ノ撤廢ヲ要求セサルヲ得サルコトナルヘシ

六、新タニ増加セラルヘキ國營留保漁區ノ選定ニ付テハ「ソ」側ハ現在ノ「ソ」側保有漁區ノミナラス新開漁區及日本人ノ關係アル漁區(例ヘハ六十ヶ所ノ如シ尙今後ノ競賣ニ於テ邦人カ競落スルコトアルヘキ漁區ニシテ其ノ期間満了スル場合モ同様ナルヘシ)ヨリモ留保スル意

嚮ナル模様ナル處我方トシテハ日本人ノ關係アル漁區ヲ直接ニ國營ニ留保シ得シムルコトニハ同意シ難ク又今後新ニ開カルヘキ漁區ニ付テハ「カラハン」ハ少數留保セラルルニ過キサルヘシト稱シ居ルモ少數ニ過キサルコトニ付明確ナル保障ナキ以上我方トシテ同意シ難ク「カ」ハ留保スヘキ新漁區ノ半數ニ付協議ヲ行フヘシトノ案ヲ述ヘ居ルモ假令全部ニ付協議ストスルモ協議ノミニ依リ國營留保ヲ有效ニ調節スルコト至難ナルハ從來ノ經驗ノ示ス所ナルニ依リ我方トシテハ協議ノミニテ満足シ得ス依テ此ノ際ハ今一應貴官原案ノ趣旨ニ依リ「ソ」側案第三項中ニ「右増加ニ依リ新タニ國營企業ノ為ニ留保セラハヘキ漁區ハ其ノ大部分ヲ一九三二年「ソ」聯邦ノ人民又ハ「コオペラチヴ」組合若クハ其ノ他ノ團體ノ借受ケ居ル漁區中ヨリ選定シ爾餘ノ分ハ一九三二年競賣ニ付セラレタル新開漁區又ハ舊漁區ニシテ落札者又ハ入札者ナカリシモノノ中ヨリ選定スヘキモノトス」トノ規定ヲ挿入スル様主張スルコトト致度右ハ貴官原案ニ比シ「其ノ大部分ヲ」ナル文句ヲ入レタル點ニ於テ留保順序ヲ幾分緩和シタル次第ナルカ新開漁區トシテハ本年競賣ニ付セ

數トノ割合ニ準スヘキモノトス」ト云フカ如キ文句ヲ挿入シ得レハ一層好都合ト思考ス右ハ我方原案ニ存セサル事項ナルモ貴官ノ御見込ニ依リ主張相成度

七、「ソ」側案第三項後段ニ關シ留保手續トシテ別ニ協議ヲ要スルコトハ條約ノ規定スル所ナルヲ以テ我方トシテ此ノ手續ヲ省略スルコトニ同意シ難キハ恰モ前記一ニ於ケル貸付契約延長ニ關スル漁業廳ノ手續ヲ省略スルコトヲ「ソ」側ニ於テ同意シ得サルト同様ナリ殊ニ「ソ」側案ノ如ク新開漁區ヲモ留保シ得トスル場合ニハ今後如何ナル漁區カ開カルヤ全然未知數ナルニ拘ラス之ニ對シ假令一部ナリトモ本取極ニ依リ協議濟ミタルモノトナスカ如キハ不合理ニシテ到底我方ノ同意シ得サル所ナリ若シ又前記六ノ通り妥結ヲ見テ此ノ範圍ニ於テ留保セムトスルモノナルニ於テハ協議ハ實際上形式的ノモノニ過キサルヘク之ニ關聯シ紛議ヲ生スルカ如キコトハ殆トナカルヘシト思考スルニ付前記一ノ借區期間延長手續ト對應セシムル趣旨ニ於テモ形式タケハ一應協議ノ手續ヲ經ルコトト致度尤モ「ソ」側カ現ニ保有スル漁區ヨリ留保スル場合タケハ或ハ本取極ニヨリ協議濟ミタルモノト解ス

ラレタルモ借受人ヲ得サリシモノヲ包含スルノミニテ今後開カルヘキ漁區ハ全然除外セラレ居ルヲ以テ此ノ點ニ付何等カ緩和スルニアラサレハ「ソ」側ノ同意ヲ得ルコト困難ナランカトハ思考スルモ抑々今次ノ話合ニ於テハ邦人漁區安定ヲ現有漁區ニ限リタルト同様「ソ」側漁區ニ付テモソノ現有漁區ヲ國營ニ留保スルヲ主眼トスル趣旨ト解スルコト公平ナルベク然カモ我方案ニ依レハ「ソ」側現有漁區ノ外「ソ」側ノ保有シ居ラサル漁區モ本年競賣ニ付セラレ落札者又ハ入札者ナカリシモノ（約百萬「ブード」アリ）ノ留保ヲ認メ其ノ内邦人ノ入札シタル三漁區ノ除外モ必スシモ固執スル要ナシト思考シ居ル次第ナルヲ以テ今後新ニ開カルヘキ漁區ハ國營留保ヨリ除外シ競賣ニ依リ日「ソ」人双方ニ取得セシムルコトトスルヲ妥當ト思考ス

尙新タニ留保セラルヘキ漁區個々ノ漁獲標準高ヲ「ソ」側ニ於テ不當ニ少キモノトナシ之ニ依リ留保漁區ノ數ヲ増加スル虞ナキニアラサルニ付之ヲ防止スル爲「増加セラレタル漁獲標準高ノ範圍内ニ於テ選定セラルヘキ漁區ノ數ハ大体從來國營企業カ留保シ居ル漁獲標準高ト漁區

ルコトトシ實際上支障ナキカトモ思考シ居レルカ右ハ樞府關係モアルコトナレハ萬已ムヲ得サル場合ノコトトシ此ノ際ハスヘテ一應協議ヲ要ストノ建前ニテ進ムコトト致シタシ

八、我方カ先ツ大綱ヲ決定シ細目ハ追テ協議スルノ建前ヲトラムトシタルハ取極事項ノ細目及之ニ關聯セル事項ヲ一々詳細討議シ居リテハ急速妥結困難ナルヘシト思考シタルニ依ルモノナルカ取極事項ニ付キテハ既ニ相當細目ニ亘リテ討議シ居ルヲ以テ他ノ關聯事項ニ付本件取極成立後モ引續キ協議ヲ行ヒ得ル餘地ヲ留保シ置カルレハ今次取極ソノモノニ付テハ特ニ大綱ナル旨ヲ記載スル必要モナカルヘシト思考ス

九、本件取極ノ形式ヲ會議録トスルカ又ハ他ノ形式トスルカハ樞府關係上研究ヲ要スル所ナルガ右ニ付テハ取極ノ内容ニ關スル意見一致ヲ見タル上其ノ内容ヲモ考慮シテ意見ヲ決定スルコト、致度依テ本電ニ於テハ取極ノ内容ニ付テノ意見ヲ申進スル次第ナルニ付御含置アリタシ

211 昭和7年6月29日 齋藤外務大臣より
在ソ連邦広田大使宛(電報)

ソ連側より完全なる漁区表提出配慮方訓令

本省 6月29日午後9時30分発

第二五八號

貴電第三七三三號ニ関シ

「ソ」側提出表カ貴電ノ通地方別漁区数及標準高合計ニ止
マルトセハ我方要求ノ趣旨ニ合致セス我方トシテハ往電第
二一五号一及三ノ通各漁区ニ付其ノ名称、番号、位置、標
準高及借区者名ノ通知ヲ受ケ「ソ」側經營漁区ヲ明確ニシ
テ後日ニ誤解ヲ残ササルコトシタキ趣旨ナルニ付「ソ」
側ヨリ右ノ如キ完全ナル漁区表ヲ提出セシメラルル様此ノ
上共御配慮アリタシ貴電ノ表ニ付テモ当方ニテ研究中ナル
ヲ以テ追テ更ニ申進スルコトアルベキモ右不取敢

212 昭和7年7月2日 在ソ連邦広田大使より
齋藤外務大臣宛(電報)

当方案文の提示説明並びにカラハンとの質疑

応答内容報告

五 日ソ漁業取極問題

経験ノ結果最良ノ方法ナリト豫斷スル結果トナル然ルニ安
定ノ方法ハ今後ノ経験ニ俟タサレハ果シテ如何ナル結果ヲ
見ルヤ豫想シ難シト述ヘタルニ依リ本使ハ此ノ點ハ此ノ前
モ申シタル通り日本臣民ニ對シ好感ヲ與フル趣旨ニシテ漁
業權尊重云々ハ當然ノ事ニテ漁業條約締結當時ノ會議錄ニ
モ認メアル事ナレハ何等異議アル可キ筈無シ字句ノ點ナラ
ハ貴方ノ修正御意見ヲ喜ンテ伺フ可シト述ヘタルニ「カ」
ハ會議錄ニモ認メアレハ充分ニテ此處ニ又々繰返ス必要無
カル可ク蘇側ノ讓歩ハ事實ノ證明スル處ナルヲ以テ斯ル修
飾ヲ俟タスシテ判明スヘシトテ當方ノ主張ニ同意ヲ肯セス
次ニ一ノ後段ニ就キ「カ」ハ漁業廳トノ間ニ手續ヲ踏ム必
要アル事ハ此ノ前申シ上ケタル通りナリ本日ノ貴方案ハ此
ノ點日本側從來ノ主張通りナリト述ヘタルニ依リ本使ハ此
ノ案ハ當業者ニ於テ建前上借繼キノ手續ヲナス趣旨ニ於テ
只最モ簡便ナル方法ヲ選ヒタル迄ナリ貴方ニ於テ飽ク迄反
對セラルルニ於テハ斯ノ如キ案ナラハ如何ト別電乙第三九
二號ヲ示シ我方トシテハ競賣ニ付スヘキ漁區ヲ蘇側ニ通報
シタル後安定漁區ノ借受繼續ノ手續ヲ完了シ度キ考ナリト
述ヘタルニ「カ」ハ之ヲ一讀シタル後二ニ移リ

別電一 七月一日発在ソ連邦広田大使より齋藤外務大
臣宛第三九一号

漁区安定問題に関する日本側修正案(甲)

二 七月一日発在ソ連邦広田大使より齋藤外務大

臣宛第三九二号

右修正案(乙)

モスクワ 7月2日前発
本省 7月2日後着

第三九〇號

貴電第二五七號ニ關シ

一日「カラハン」ニ會見取極ノ形式等ニ就テハ研究ノ上追
訓ノ管ニテ差當リ内容ニ付回訓ニ接セリトテ別電甲第三九
一號案文ヲ示シ當方ノ建前及必要ナル箇所ニ付説明シタル
ニ「カ」ハ之ヲ通讀シタル後何レ専門家ト協議ノ上意見申
述フヘキモ此處ニ氣付キノ點ヲ述フヘシトテ
一、ノ漁業權尊重云々ハ此ノ前モ反對ノ意味ヲ申上ケ置キ
タルニ又々記入セラレアルカ態々斯ル事ヲ此處ニ殊更明記
スルハ是迄蘇聯ニ於テ日本人ノ權益ヲ尊重セサリシカ如キ
印象ヲ與ヘ又過去ノ經驗ニ徴シト言フカ如キハ漁區安定カ

解約云々ノ點ニ付説明ヲ求メタルニ依リ本使ハ此ノ前説明
ノ通當業者トシテ事業整理ノ關係等ヨリ契約期間満了前競
賣ニ附シ度キモノアルヘク本案ハ此ノ前貴方ノ主張ヲ考慮
シ當業者ト漁業廳トノ間ニ契約ノ規定ニ從ヒ解約スル建前
トシ解約ヲ見タルモノハ之ヲ競賣ニ付スル趣旨ナルカ日本
側トシテハ當業者ヨリ右解約ニ付漁業廳ニ申出ツル場合ハ
漁業廳ニ於テ之ニ應スル様豫メ了解ヲ希望スルモノナリト
述ヘタルニ「カ」ハ何日斯ル了解ヲ與フルモノナリヤト尋
ネタルニ付本使ハ六十ヶ所ノ漁區ヲ貴方ニ通知スル際當業
者ニ於テ解約セントスルモノヲ通知スヘシト述ヘタリ
三ニ付「カ」ハ貴方ノ新案ハ從來ノ立場ト異ラス國營ノ爲
増加スル分量ハ「パーセント」ニ依ラス「ブード」數ニテ
表ハスコトナリ居レルカ蘇政府トシテハ「パーセンテイ
ジ」ヲ主張スルモノニシテ四十「パーセント」以下ニハ同
意出來スト述ヘタルニ依リ本使ハ「パーセンテイジ」ニテ
ハ誤解ヲ生スル惧レアルニ付之ヲ避クル爲「ブード」數ニ
テ示シ其ノ數ハ漁業條約實施當初ノ協定ニ倍スル標準高即
チ四百萬「ブード」トスルコトヲ妥當ト考フルモノナリ貴
方カ「パーセント」ヲ主張セラルル理由ハ何處ニ存スルヤ

ナカリシ

(4) 一九三二年競賣漁區云々ノ點ニ付將來ノ新開漁區ハ一切國營ニ於テ留保出來スト言フカ如キハ條約上國營ノ有スル權利ヲ拘束スルモノニシテ之ニハ到底同意出來ススル有様ニテハ容易ニ話モ付カサルヘシ自分トシテハ日本側ノ希望ヲ容レ一九三一年度ノ日本側現有漁區全部ノ外ニ更ニ多數ノ漁區ヲ安定スルコトニ同意スルモノナレハ日本側ニ於テモ其當業者ニ關係無キ方ハ些々タルコトニ一々文句ヲ言ハレサルモノト考ヘ居リタルニ貴方ハ案外種々難題ヲ申サルルニハ失望セリ御互大國間ノコトナレハ細カキ駈引ハ拔キニシ度シ只貴方カ我方ノ四十「パーセント」ニ對シ三十「パーセント」ヲ主張セラレ將來ノ新漁區ニ付テハ一漁區モ國營ニ留保ヲ認メスト言フカ如キ理ニテハ政府ニハ報告スヘキモ成行悲觀セサルヲ得スト述ヘタルニ依リ本使ハ日本側モ何等ノ代償無ク國營ヲ縛ラントスルモノニ非ス國營ノ留保高ヲ増加スルコトニ同意ノ條件トシテ其新漁區經營ヲ拘束スルモノナリ國營ノ留保高ニ付若シ四百萬「ブード」ニテ不足ナラハ我方トシテハ國營カ其現ニ有スル「ブード」數ヲ二倍ニスルコトニハ同意スルモ可ナル意嚮ナリ貴方モ

ト述ヘタルニ「カ」ハ漁業ニ於ケル國營ノ分野ト然ラサル分野トノ對立關係明瞭トナリ國營カ漁業上如何ナル役割ヲ演スルカ一目瞭然トナリ便利ナルノミナラス將來漁區多數開設セラレ標準總高増加シタル場合「パーセンテイジ」ト爲シ置ケハ國營留保ヲ増加スルコトモ出來得ヘク又國營ノ留保高ニ付テハ從來日蘇兩方ニ議論アリ日本側ハ二百萬「ブード」蘇側ハ二割ヲ主張シ居ルコト御承知ノ通ニシテ今「ブード」數ニテ留保高ヲ表ハスコトスレハ從來ノ建前ヲ變更スルコトナルヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ今回安定協定ハ從來ノ紛爭ヲ一掃セントスルモノナルニ斯クテハ今後モ紛爭絶ヘサル次第ニ非スヤ

(3) 日本側ノ安定モ實數ニテ六十個所ヲ競賣ニ付スル事トシタル以上蘇側モ絕對數ニテ表ハス事能ハサル理由ナキニ非ラヌヤ又貴方ハ將來漁區ノ數増加シ標準高モ増加シタル場合「パーセンテイジ」ト爲シ置ケハ國營留保ノ高ヲ増加スル事ヲ得ルヤニ考ヘラルルカ如キモ此ノ前貴方ノ回答通り右「パーセンテイジ」カ一九三二年度ノ標準高ヲ基礎トスルモノナリトセハ右割合ニ依ル實數ハ動カサルヘク當方主張ノ四百萬「ブード」ハ「パーセント」ニスレハ一九三二年

ノ三十「パーセント」ニ相當スルモノナリト述ヘタルニ「カ」ハ爭ヒヲ後日ニ殘スハ決シテ望ム處ニ非サルモ貴方ノ如ク「ブード」數トセハ日本側ノ有利ニ解決シタル事トナルニ非スヤ日本側當業者ノ關スル限リ十二分ニ希望達シタル次第ナレハ日本側ニ關係ナキ方面ニ於テハ蘇側ニ満足ヲ與ヘラレ度シ取極ニハ四十「パーセント」ト爲シ取極署名ノ際右四十「パーセント」カ實數ノ幾「ブード」ニ相當スルヤヲ明瞭ニ爲シ置ケハ可ナラスヤ蘇側トシテハ四十「パーセント」以下ニテハ到底同意出來スト述ヘタルニ依リ本使ハ夫レニテハ蘇側此レ迄ノ主張ヲ一步モ譲ラサル理ナラスヤ日本ハ三十「パーセント」ヲ主張スト述ヘタル次ニ「カ」ハ此ノ前蘇側ノ現有漁區ニ付テハ「コンファア」ヲ要セサル事トナル様提議シ置キタルニ此レニ關スル日本政府ノ意向如何ト尋ネタルニ依リ本使ハ右ニ付我方トシテ事實上ハ反對セサルモ協議ノ形式ハ整フル必要アリ例ヘハ右漁區ヲ國營ニ於テ留保セントスル場合ハ必要ナル事項ヲ日本側ニ通知スル事トナルカ如シト云ヘルニ「カ」ハ右ニ付何等カ書キ物例ヘハ「エードメモアル」式ノモノヲ一札戴ク事叶ハサルヤト述ヘ次ニ三ノ我方案落札者又ハ入札者

右ニテ満足セラレ然ル可シト思考スト述ヘタルニ「カラハ
ン」ハ四十「パーセント」ノ點蘇側持分ヨリ國營ニ留保ス
ル場合ノ「コンファア」省略問題夫レ以外ノ既開漁區及新
漁區ヲ留保スル場合ノ「コンファア」問題ニ付日本政府ノ
回訓ヲ待ツテ更ニ協議スルコトト致シ度ク自分ノ方モ専門
家ト研究スヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ蘇側ノ主張スル
「パーセント」ニ當ル實數ヲ取極ニ際シ明瞭ニスルト言ハ
レタルハ書キ物ニスル趣旨ナルヘシト尋ネタルニ「カ」ハ
當方ヨリ此前漁區表ヲ差上ケアレハ一九三二年ノ何「パー
セント」ト言ヘハ其實數ハ直ク解ル理ニテ別ニ書キ物ニス
ル趣旨ニ非スト述ヘ取極署名ノ際口頭ニテ右「パーセン
ト」ニ相當スル實數幾何ナルヤヲ明瞭ニスレハ可ナルヘシ
ト述ヘタリ依テ本使ハ貴電第二五八號ノ次第モアリ先方ヨ
リ貰ヒ受ケタル表タケニテハ當方ノ調ト照合調査不便ナル
旨ヲ述ヘ當方最初ノ申出通り漁區名稱番號位置標準高倍區
者等ノ明示ヲ求メ置ケリ就テハ右ニ對シ何分ノ御意見折返
シ御回電アリタシ

(欄外記入一)

一九三二ヲ基準トス(ル)以上將來増額ハ考ヘラレズ
(欄外記入二)

之ヲ譲リテ新漁区ヲモ認ムルコトシ30%又ハ「ブード」
数トシテハ如何

編 注 「カラハン」ハ四十「パーセント」ノ桌」の箇所

を(1)、「蘇側持分ヨリ」：「コンファ」省略問題」
までを(2)、それ以下を(3)とし、次のように欄外に記
入している。

- (1)ハ譲ラズ (2) aide memo 付ニテ同意
(3)新漁区モ順位附ニテ認メ confer ヲ譲ラズ

(別電一)

モスクワ 7月1日後発
本 省 7月3日前着

第三九一號

別電(甲)

一、「ソ」聯邦政府ハ「ソ」聯邦ノ水域ニ於ケル日本國臣
民ノ漁業上ノ權益ヲ尊重スルモノニシテ漁業條約實施ノ
經驗ニ徴シ日本國臣民ノ現ニ借受居ル漁區ヲ安定スルコ

三六年迄ヲ期間トシテ國營企業ニ貸付ケラルルモノトス
右限度内ニ於テ「ソ」聯邦國營企業ニ貸付ケラルル漁區
ノ大部分ハ一九三二年「ソ」聯邦人民又ハ「コ」組合若
シクハ其他ノ團體ノ借受ケ居ルモノノ内ヨリ又爾餘ノ分
ハ一九三二年競賣ニ付セラレタル漁區ニシテ落札者又ハ
入札者ナカリシモノノ内ヨリ選定セラルルモノトス而シ
テ以上ノ場合ハ凡テ漁業條約附屬最終議定書第一部一ノ
乙(三)ノ規定ヲ適用スルモノトス

(別電二)

モスクワ 7月1日後発
本 省 7月3日前着

第三九二號

別電乙ハ關係日本國臣民ハ當該漁區ノ借受期間完了前ノ事
トテ極東漁業廳ニ其借受ノ續行手續ヲ爲ス事ヲ得ヘク極東
漁業廳ハ日本國臣民ノ爲何等ノ出費ヲ要スル事ナク直ニ右
手續ヲ完了スヘシ萬一極東漁業廳ニ於テ借受期間滿了前ニ
右手續ヲ完了セシテ漁期到來ノ場合ハ右關係日本國臣民
ハ手續完了前ト雖モ當該漁區ヲ經營シ得ルモノトス

トヲ必要ナリトスル日本國政府ノ意嚮ニ副フ爲左記ニ同
意ス

現ニ日本國臣民ノ借受ケ居ル漁區ハ魚類ノ捕獲又ハ水産
物ノ採取ニ當テラレタルトヲ問ハス「プロトコール」第
二項ニ記載ノ六十ヶ所ヲ除ク外凡テ其貸付契約期間滿了
後モ引續キ同契約ニ記載ノ同一條件ヲ以テ一九三六年迄
右日本國臣民ノ借受トシテ存續セラルルモノトス
而シテ右漁區ノ借受繼續ノ手續ハ本「プロトコール」ノ
署名ニ從ヒ凡テ完了セラレタルモノトス

二、現ニ日本國臣民ノ借受ケ居ル漁區中ヨリ其ノ任意ニ選
擇セラルル六十個所ハ其借受期間滿了スルカ或ハ貸付契
約ノ規定ニヨリ解約セラルルニ從ヒ競賣ニ付セラレ漁業
條約附屬議定書甲第六條記載ノ期間ヲ以テ競賣ニヨリ貸
付ケラルルモノトス

三、日本國政府ハ漁業國營企業ノ發達ヲ念トスル「ソ」聯
邦政府ノ希望ニ副フ爲漁業條約附屬最終議定書第一部ノ
一ノ乙(二)ニ準據シ左記ニ同意ス

「ソ」聯邦國營企業ニ貸付ノ爲定メラレタル鮭鱒漁區標
準總高ハ……迄増加スルコトヲ得而シテ之等漁區ハ一九

213

昭和7年7月9日 内田外務大臣より
在ソ連邦広田大使宛(電報)

國營留保數量その他重點問題に對する我が方
の基本方針について

本 省 7月9日後11時 分發

第二七五號(至急)

貴電第三九〇號ニ関シ

目下折衝ノ中心ヲ為スハ國營留保問題ニシテ其ノ論桌ハ留
保増加數量、「ソ」側保有漁區留保手續及其ノ他ノ漁區就
中新漁區ノ留保ノ三桌ニ歸着スト認メラル、處

(一) 國營留保數量ニ付テハ已ムヲ得サル最後ノ場合ニハ目
下貴官ヨリ「ソ」側ニ要求中ノ漁區表ヲ提出セシメ之ト
我方ノ調ベトヲ對照シ本年現在貸付總標準高ヲ計算シテ
其ノ四割ニ相當スル「ブード」數ヲ算出シ之ヲ取極中ニ
記載スルコトスル程度迄ハ讓歩スル外ナカランカト思
考セラル、モ「ソ」側ノ意嚮ガ「カラハン」ノ洩ラセル
如ク將來總高増加ニ從ヒ國營留保ヲモ其ノ四割迄増加セ
ムトスルニ在リトセバ右ハ到底我方ノ同意シ得サル所ニ
シテ「ブード」數ノミノ記載ヲ主張スルハ斯クノ如キ解

釋ヲ避ケムガ為ニ外ナラズ然レトモ「ソ」側ガ飽ク迄「バーセンテージ」ノ記入ヲ主張シテ譲ラサル場合ニ於テハ右ノ如キ誤リタル解釋ヲ為サザル了解ヲ取付ケタル上現行最終議定書ニ於ケルガ如ク「ブード」数算出ノ基礎ノ説明トシテ「ブード」数ト共ニ割合ヲ併記スルコトニ同意スルモ已ムヲ得サルベシ

(二) 「ソ」側個人又ハ團體ノ現在保有スル漁区ヲ國營ニ留保スル場合ノ協議手續ニ付テハ我方ノ意嚮往電第二五七號ノ七末段ノ通ナルニ付留保希望漁区ノ番號位置及漁獲標準高ヲ「ソ」聯邦政府ヨリ日本政府ニ通知スルコトニ依リ協議完了シタルモノト看做スベキ趣旨ノ一札ヲ本件取極成立ノ際貴官ヨリ「ソ」側ニ交付セラル、コト、シ差支ナシ

(三) 其ノ他ノ漁区ノ留保ニ付テハ今後開設セラルベキ新漁区モ幾分ハ國營ノ留保ヲ認ムルコト已ムヲ得サルベシトハ思考シ居ルモ我方トシテハ國營留保ノ範圍ニ制限ヲ付セサルニ於テハ今後ノ新開漁区ノ大部分少クモ其ノ優良漁区ノ殆ド全部ガ國營ニ留保セラレ將來新タナル邦人發展ノ餘地無キニ至ルコト及邦人ノ關係アル漁区(邦人現

ハ例ノ六十ヶ所ノ漁区中ヨリモ留保セムトスルガ如キ意嚮ヲ洩ラシ居ルモ元來茲ニ所謂邦人關係ノ漁区ハ大部分最終議定書ニ所謂邦人ノ合理的希望ニ包含セラレ得ベキモノニテ唯從來ノ經驗ニ徴シ此ノ趣旨ヲ幾分廣メ且明確ナラシメ置ク方適當ナラムト思考スル次第ナリ尚(イ)ニ付テハ協議ノ必要ナルコト往電第二五七號ノ七ノ通ニシテ殊ニ右(イ)及(ロ)ノ趣旨ヲ確實ニ遵守セシムル為ニモ完全ナル協議ヲ絕對條件トナササルベカラサルナリ

以上(一)(二)(三)ハ各個ノ問題ニ付當方ノ最後の意嚮ヲ示シタル次第ナルガ今後ノ御交渉ニ際シテハ此等三問題ヲ互ニ相關聯セシメテ折衝セラル、コト可然其場合ハ(二)ハ先方希望通り讓歩スル次第ナルノミナラス新漁区ノ留保ヲモ或程度迄容認スルモノナルヲ以テ(一)及(三)ニ付テハ猶折衝ノ余地存スベシ即チ留保数量トシテハ貴官ノ主張セラレタル四百万「ブード」又ハ國營現有標準高ノ倍額程度ヲ限度トシ又新開漁区ノ留保ヲ成ルベク少クスル為留保ニ付テハ大体往電第二三一號ノ順位ニ依ルベキコト、シテ全体ノ妥結ヲ見ル様極力御配慮アリタシ尚國營問題以外ノ事項ニ付テハ既ニ是迄ノ往電ニテ大体當方ノ意嚮ヲ盡シ居レリト認メラル、

有漁区中ノ六十ヶ所、今後ノ競賣ニテ邦人ノ競落セル漁区ニシテ期限満了スルモノ、邦人ヨリ開設ヲ出願セル新開漁区ノ如シ)ヲ自由ニ留保セラレ為ニ又々紛議ヲ生スルニ至ルコトヲ恐レ居ル次第ナルニ付「ソ」側ニシテ左ノ三案ヲ容認スルニ於テハ我方トシテモ今後開設セラルベキ漁区ノ國營留保ニ同意シ差支ナシ

(イ) 今次増加ノ範圍ニ於テ國營ニ留保セラル、漁区ハ其ノ大部分ヲ一九三二年「ソ」側個人又ハ團體ノ借受中ノ漁区ヨリ選定スベク其ノ他ノ漁区(今後開設セラルベキ新漁区ヲ含ム)ヨリ留保スル場合ニハ少数ニ止ムベキコトヲ明カニシ置クコト

(ロ) 邦人ノ關係アル漁区ハ之ヲ留保セサルコト
(ハ) 「ソ」側現有漁区ヨリ留保スル場合ニハ前記(イ)ノ通り通知ダケニテ差支ナキモ右以外ノ漁区ヨリ留保スル場合ニハ最終議定書(三)ノ規定ニ從ヒ完全ナル協議ヲ必要トスルコト

右ノ中(イ)ハ「カラハン」自身貴官ニ對シ同様ノ意嚮ヲ述ヘ居ルニ付(貴電第三七〇號)此ノ趣旨ヲ明確ナラシメ置カムトスルモノニ外ナラズ又(ロ)ニ付テハ「カラハン」

ニ付以上ノ趣旨ニテ適宜御折衝ノ上「カラハン」トノ間ニ不取敢取極ノ内容ニ關スル妥結案ヲ作成セラル、様至急御尽力ヲ希望ス

214 昭和7年7月14日 在ソ連邦広田大使より
内田外務大臣宛(電報)

國營留保標準高等の問題点に關するカラハ

ンとの会談につき報告

別 電 七月十四日發在ソ連邦広田大使より内田外務

大臣宛第四一三三號

漁区に關する規定内容

モスクワ 7月14日前發
本 省 7月14日前着

第四一二號

往電第三九〇號ニ關シ

十二日ハ蘇側ノ休日ナル爲十三日「カラハン」ニ會見今回日本政府ヨリ最後の讓歩ノ回訓ニ接シタルカ之ニ依レハ國營留保ニ付蘇側現有漁區ヲ留保スル場合ハ其ノ漁區番號、位置、漁獲標準高ヲ留保ノ都度蘇政府ヨリ日本政府ニ通知

セラルレハ協議ヲ了シタルモノト認ムル旨ノ一札ヲ入ルルコトニ同意シテ可ナリトノコトナリ其ノ代リ蘇側現有以外ノ漁區ヲ留保セントスル場合ハ凡テ完全ナル協議ヲ要スル趣旨ナリトテ往電第三九一號(別電甲)ノ第三項「右限度内ニ於テ」以下ヲ別電第四一三號ノ通りト爲シタル案文ヲ手交シ次ニ蘇側國營留保總標準高ニ付日本政府トシテハ之レヲ「パーセント」ニテ現ハス時ハ其ノ年々ノ標準總高ノ幾%ナリヤノ問題起リ厄介ナルヘキニ依リ誤解ヲ避クル爲實數ニテ現ハスヘシトノ強キ意見ナリ而シテ其ノ數字ハ國營ノ現在有スル標準總高ノ二倍即四百五十萬布度ト四百六十萬布度トノ間ノ數ヲ明瞭ニ書キ現ハスヘシトノ意見ナリ尙日本政府ハ將來ノ「トラブル」ヲ避クル爲此ノ前モ申入レ置キタル通り明細ナル漁區表ヲ承知シ置キ度考ヘナリト述ヘタルニ「カ」ハ本使ノ手交セル案文ヲ閱讀シ乍ラ之ニ關シテハ何レ専門家ト協議ノ上何分ノ意見申スヘキカ案毎ニ餘リ微細ノ點迄規定サルル様ナ嫌アリ協議ニ付テハ蘇側現有漁區ヲ國營ニ留保スル間ハ番號、位置、標準高ヲ蘇政府ヨリ通知スレハ協議成立セリト看做スモノナル旨ヲ日本政府ニ於テ聲明セラルル趣旨ト解スヘキヤト述ヘタルニ依

リ本使ハ表面ノ形式ハ凡テ協議ヲ爲ス建前トシ其實ハ貴見ノ通りナルモ右聲明ハ之ヲ發表セサルモノナリト言ヘルニ「カ」ハ勿論夫レニテ結構ナリト言ヘリ次ニ「カ」ハ國營留保總標準高ニ付日本側ニ於テ「パーセンテージ」ニ同意セラレサルハ關係官廳ト協議上甚タ困難ナリ結局ハ一九三二年度ノ四割ニテモ差支ヘナキニ付四割ニ同意セラレンコトヲ希望スト述ヘタルニ依リ

(2) 本使ハ日本側トシテハ一九三二年度ヲ基礎トスルコトニハ同意ナルモ其四割ニテハ多過キルトノ意見ナリ現在ノ國營持分ヲ二倍スレハ充分ナラスヤト言ヘルニ「カ」ハ日本側ノ漁區ハ之ヲ安定スルコトナレハ其ニ關係無キ漁區ナレハ四割ニテモ差支無キ筈ナラスヤト言ヘルニ依リ本使ハ條約締結當時ニ於テ二百萬「ブード」ヲ國營ノ爲留保スルコトカ如何ニ困難ナル問題ナリシカハ能ク御承知ナラン從テ其後急ニ二倍以上ト爲スコトナレハ貴方ニ於テ満足セラルヘキ筈ナリ漁區カ國營以外ノ手ニ在ル間ハ借區期間滿了ト共ニ競賣ニ附セラレ日本人モ之ニ參加スルノ可能(性)アレト一旦國營ニ留保セラルレハ一九三六年迄ハ全然日本人ノ活動範圍ヲ脫スルコトナル又國營カ蘇側ノ個人「コウペ

ラタイプ」等ノ現有漁區(ヲ)留保セハ之等ノ個人及團體ハ更ニ漁區ヲ取得スル爲競賣ニ於テ盛ニ日本人ト競争スル餘地ヲ得ヘク國營ノ留保高ヲ急ニ一九三二年ノ四割迄増加スルハ到底困難ナリ政府モ問題ノ速ナル解決ヲ希望シ本使再三ノ請訓ニ基キ蘇側現有漁區ノ國營留保ニ際シ爲サルヘキ協議ノ點及國營留保總高ヲ其現有標準高ノ二倍迄増加スル點ニ同意シ來リタルモノナレハ此邊ニテ速ニ妥結ヲ希望スト述ヘタルニ「カ」ハ協議ノ點ハ以前ヨリ實質的ニ御異議無シトノコトナリシニ非スヤ左スレハ實質的ニサシタル讓歩トモ思ハレス問題ノ急速解決ハ當方モ望ム所ナレハ至急關係ノ方面ト協議ヲ遂ケ明日ニモ御回答シタク存スルモ國營留保ノ標準總高ニ關スル貴方提議ニテハ困難アルヘシト述ヘ漁區明細表ニ付テハ既ニ手許ニ達シ居リ目下標準合計等正確ナルヤ否ヤヲ調ヘ居ルニ付右濟ミ次第差上クヘシト述ヘタリ

(別電)

モスクワ 7月14日前發
本省 7月14日前着

第四一三號

右限度内ニ於テ「ソ」聯邦國營企業ニ貸附ケラルル漁區ノ大部分ハ一九三二年「ソ」聯邦人民及又ハ「ソ」組合及其ノ他ノ團體ニ於テ借受ケ居ルモノノ内ヨリ選定シ其餘ノ分ハ左記漁區ヨリ次ノ順位ニ依リ補充スルモノトス

一、一九三二年競賣ニ附セラレタルモ落札者又ハ入札者無カリシモノ

二、一九三二年ヲ含ム以前ノ年次ニ開設セラレタルモ現ニ借受人無キモノ

三、以上(一)及(二)記載ノ漁區ニテ尙不足ノ場合ハ新ニ開設セラルルモノ本項漁區ノ選定ニ當リテハ漁業條約附屬最終議定書第一部ノ一ノ乙(三)ノ規定ヲ適用スルコト勿論ナリ日本國臣民ニ關係アル漁區例ヘハ本「プロトコール」第二項ニ記載ノ六十箇所、今後競賣ニ於テ日本國臣民ノ借受クル漁區ニシテ借受期限滿了シ更ニ競賣ニ附セラルルモノ及日本國臣民ノ出願ニ依リ開設セラルル新開漁區ノ如キハ之ヲ國營企業ニ貸付クル漁區ヨリ除外セラルルモノトス

215 昭和7年7月19日

在ソ連邦広田大使より
内田外務大臣宛(電報)

国営漁区借受け期間問題に關し回電方請訓

モスクワ 7月19日後発

本省 7月20日後着

第四二七號

貴電第二七一號及第二八四號ニ關シ

貴電第二五七號ノ(五)ト並讀スレハ國營漁區中現條約ニ依リ留保セラレタル部分(總額ノ二割)ハ條約ノ規定カ何等變更ナク更新セラルル場合ニハ其ノ儘引續キ貸附ケラルルモ今次ノ取極ニ依リ増加セラルル部分ハ條約カ其ノ儘更新セラルル場合ト雖本邦人安定漁區同様一九三六年限りニテ期間満了シ其後此レヲ如何ニスヘキヤハ其ノ際改メテ取極メヲ爲ス事ヲ必要トスル御趣旨ト解セラレ又所謂今回ノ本邦人漁區ノ安定ハ現行條約満了後モ引續キ此レヲ維持シ度キ御腹案ナルヤニ認メラル從テ只今右貴電ノ如キ説明ヲ先方ニ爲シ置カハ條約更新ノ際若シ蘇側ニ於テ右本邦人漁區安定ノ繼續ヲ肯セサル場合ハ少クトモ現條約ニ依リ國營留保漁區(即チ總額ノ二割)ハ殘存スルモ本邦人漁區ノ安定ハ

維持シ得サル事ト成ルヘキ處右現條約ニ依リ國營漁區ノ貸付ハ最終議定書第一部一乙ノ(一)及交換公文第二號ニ依レハ現條約ノ存續期間中ニ限ル事ナリ居リ其ノ借受け期間ハ現條約ノ效力満了ト共ニ終了スルモノト(假令條約カ其ノ儘更新セラルル場合モ右國營漁區借受け期間カ當然繼續セラルルモノニ非スシテ其ノ借受け期間ハ一般條約ノ期間到來ト共ニ終了スルモ條約ノ更新ニ依リテ更ニ借受け期間ヲ更新セラルルモノトシ議定書第七條ノ規定ハ國營ニハ適用ナキモノト解ス)解シ得ヘク從テ日本側トシテハ右現條約ニ依リ國營留保漁區モ將又今回ノ増加漁區モ一樣ニ條約有效期間タル一九三六年ヲ限リトスルモノトシ條約期間満了ノ際ニ於ケル前記腹案ノ交渉上幾分ニテモ我カ地歩ヲ有利ナラシムル事得策カト思考ス就テハ今回取極中ニ在ル國營漁區ノ期限ニ付先方ヨリ問題ヲ起シタル場合ハ右ノ趣旨ニテ説明シ置ク方然ル可キカト存スル處政府ニ於テハ特ニ貴電第二七一號ノ趣旨ニ依リ先方ニ説明スルヲ可ナリトセラルル次第ナリヤ何分ノ儀御回電アリ度シ

216 昭和7年7月21日

内田外務大臣より
在ソ連邦広田大使宛(電報)

国営漁区借受け期間問題につき回訓

本省 7月21日後7時 分発

第二九三號(至急)

貴電第四二七號ニ関シ

往電第二五七號ノ(五)及第二七一號ハ要スルニ國營留保増加ニ一九三六年ナル期限ヲ付シ置クコト後日ノ為我方ニ有利ト思考セラル、當方ノ見解ヲ述ベタルモノナルガ此ノ際之ヲ其ノ儘「ソ」側ニ説明スルノ得策ナラサルベキハ貴見ノ通ニテ往電第二七一號末尾ニ申添ヘタル所モ此ノ趣意ニ外ナラサルニ付「ソ」側ニ対スル期限挿入ノ説明トシテハ御裁量ニ依リ貴電末段ノ趣旨又ハ他ノ適當ト認メラル、趣旨ヲ以テ必要ニ應シ可然御説明相成度

217 昭和7年7月27日

在ソ連邦広田大使より
内田外務大臣宛(電報)

国営留保標準高等に關する問題点につきカラ
ハンとの応酬振りについて

第四四二號
往電第四一二號ニ關シ
「カラハン」不快ノ爲廿六日漸ク會見シタルニ「カ」ハ豫テ約束ノ漁區明細表ヲ手交シタル後前回考量ヲ約シタル二點即チ國營留保ノ漁獲標準總高及國營留保漁區ノ選定ニ付關係當局ト協議ヲ重ネタルカ國營ノ漁獲標準高ヲ現在ノ二倍トシ之ヲ「ブード」數ニテ表ス事ニハ反對ニシテ何所迄モ一九三二年ノ四割ト爲スコシトノ主張ナリ又國營留保漁區選定方法ニ關シテハ蘇側從來ノ主張通りト爲スコシトノ意見ナリ日本側ノ安定ハ十二分ニ爲シタル事ナレハ蘇側國營ニモ十分ノ保障ヲ與ヘラレ度シ此ノ點ニ付貴使ノ御盡力ヲ期待シ度シト述ヘタルニ依リ本使ハ協定ノ速ニ成立スル事ハ自分ノ希望スル所ナルモ只今ノ御話ニテハ貴方ニ於テ少シモ接近セラレス
斯テハ話ノ進ミ様無シ國營留保標準高ノ點ハ何レ日本政府ニ於テ本日頂戴セル漁區明細表ヲ研究シタル上ナラテハ確答ヲ與フル事能ハサル可シ國營漁區ノ選定方法ハ日本當業

者ニ於テ心配ノ點アル爲此ノ不定ヲ除ク案文ヲ貴方ニ示シタル次第ニテ右ニ關スル貴方ノ意見判明セサレハ國營標準總高ニ關スル日本政府ノ意向モ決定シ兼ヌヘシト述ヘタルニ「カ」ハ國營漁區選定ニ關スル日本側案文ハ日本側ニ何等ノ利益無キト同時ニ蘇側ニ對シ非常ノ拘束ヲ加フルモノナリ蘇側トシテハ蘇側持分ヨリ國營漁區ヲ留保スル限リ「コンファア」ノ要無ク其ノ他ノ漁區ヨリ選定スル場合ハ從來通り「コンファア」ス可シトノ建前ヲ執ルモノナリ貴方案ノ如ク國營ニ漁業條約以上ノ拘束ヲ加フルモノニハ到底同意出來スト述ヘタリ依テ本使ハ漁業條約締結當時國營ニ二百萬「ブード」ヲ留保スル事ト爲シタル時ニ於テサヘ日本人關係ノ漁區ニ付テハ國營漁區留保ニ際シ考量ヲ加フル旨約シタル程ナレハ今回ノ如ク其ノ二倍以上モ留保ヲ増加スル場合斯ル點ニ付十分日本人ノ安心シ得ル様規定スルヲ至當トス可シト述ヘタルニ「カ」ハ日本人ノ合理的希望ヲ考量ス可シト謂フ事ト日本人關係漁區ヲ國營ノ爲留保ヲ禁スル事トハ非常ノ相違ナリ

條約上漁區選定ニ付國營ハ「コンファア」以上何等ノ制限ヲ受ク可キ筋ニ非ス條約ノ規定以上ノ制限ヲ受クルコトニ

ノ如キ書方ニテハ具合惡シトノコトナラハ同様ノ了解ニ付一札頂載スレハ夫ニテモ可ナラント思考スル旨私見トシテ述ヘタルニ「カ」ハ自分モ對策ヲ練ル可キカ國營ヲ制限スルコトナル趣旨ニハ同意不可能ナレハ自分ノ案ニハ貴方案最後ノ部分ヲ除ク可キニ付右ニ御含ミヲ請フト言ヒタルニ依リ本使ハ斯クテハ營業者ノ不安ヲ除クコト能ハサルヘシトテ前記敘述ノ趣旨ヲ敷衍シ當方ノ主張ヲ説明シ今回漁區ノ安定ニ依リ紛議ノ原因ヲ除クト共ニ條約上ノ解釋問題トシテ度々論争ノ原因ヲ爲シタル「コンファア」問題ヲ解決スルコトノ望マシキコトヲ繰返シ述ヘテ會見ヲ終リタルカ「カラハン」ハ本日ノ會談ヲ基礎トシ近ク對案ヲ作成シ本使ニ示スコトヲ約シタリ

尙前記漁區明細表ハ長文ニ付郵送ス右内容ニ付テハ當方ニ於テ一應取調ノ上必要ノ點追電スヘシ

118 昭和7年7月27日 在ソ連邦広田大使より
内田外務大臣宛(電報)

漁區明細書に関する相違点につき報告

ハ同意困難ナリ十三日貴使ノ示サレタル案文ハ以前ニハ無カリシコトヲモ含ミ居リ殊ニ後段「日本國臣民ノ出願ニ依リ開設セラルル新開漁區」ト言フカ如キ文句ハ非常ニ目障リナリト述ヘタルニ依リ本使ハ本案文ノ目的ハ將來協議ノ際何等双方ノ誤解ヲ生セサシムル爲ノモノニテ貴方ニ於テ同一目的ヲ達シ得ル考案ヲ爲サルニ於テハ右ニ付日本政府ニ「サジエスト」スヘシト述ヘ更ニ「カ」ハ蘇側持分ヨリ國營漁區ヲ留保スル場合ハ全然自由トシ其他ノ漁區ヨリ國營ノ爲留保スル場合ハ最終議定書第一部ノ一ノ乙(三)ヲ適用スルコトナサハ可ナラスヤト述ヘタルニ付本使ハ蘇側持分ヨリ留保ノ場合ハ我方ヨリ一札入ルコトト爲シアレハ國營漁區選定ノ建前ハ此前差上ケタル案文通りニテ可ナラスヤ然ラサレハ「コンファア」ノ度毎ニ從來ノ紛議ヲ繰返スコトナルヘク國營留保額二百萬「ブード」時代ニサヘ紛議絶ヘサリシコトナレハ今回之ヲ從來ノ二倍以上ニ増加スルニ於テハ紛議益々多クナルヘシ日本側モ其持分ヲ安定シタルニ止マルモノナレハ蘇側ニ於テモ其持分ヲ國營ノ爲自由ニ留保スルコトニ満足セラレ新開漁區ニハ觸レサルコトト致シ度シ蘇側ニ於テ最後ニ差上ケタル我方案

第四四八號

往電第四四二號末段ニ關シ

モスクワ 7月27日後發
本省 7月28日前着

漁區明細書ニハ往電第三七三號ノ五「日本人ノ部」ヲ除ク蘇側經營漁區全部ノ番號、名稱、標準高ヲ掲ケ居ル處右ノ内

(一)漁區數ハ貴電第二八五號ノ通ナリ

(二)標準高ハ本年七月露水組合印刷「昭和七年度租借漁區表」所載ノ數字ト殆ント一致シ居ルモ相異ノ點左ノ如シ

(イ)國營ノ部

二一頁ノ七一四(一四八ア)號二、四五七「ツェント」

二六頁二行目七七〇號ノ次ニ左ノ通挿入ノ事

八七八號三〇〇〇「ツェント」

八七九號三〇〇〇「ツェント」

三〇頁八一九(一九八ウエ)號一一、〇五六五「ツェント」

三七頁九八三(二四一)號九〇〇九「ツェント」

四頁ノ末行ニ左ノ通挿入ノ事

- 一二〇(五六) 九一七「ツェント」
 (ロ)「コ」組合ノ部相異ナシ
 (ハ)個人企業ノ部
 五一頁ノ一、二四二(三二二ア) 號三、五〇〇「ツェント」
 五三頁漁區番號一二七四(三二二ベ) 號ハ一二七一(三二二ベ) 號ト訂正ノ事
 一一頁ノ四二八(一〇六ベ) 號二、二〇〇「ツェント」
 四三二號二、二〇〇「ツェント」
 (ニ)農漁民ノ部相異ナシ
 右不取敢

219 昭和7年7月30日 在ソ連邦広田大使より
 内田外務大臣宛(電報)

漁業問題を完了し一時帰朝の意向先方に表明
 について

第四五一號

モスクワ 7月30日後発
 本省 7月31日前着

貴電第三〇六號ニ關シ
 廿九日「カラハン」ニ會見曩ニ御話シタル事モアル通り本使ヨリ一時休暇歸朝ノ希望ヲ稟申シ置キタル處今回一時歸朝ノ命ニ接シタルカ之ニ依レハ政府ハ漁業問題ハ大体眼鼻付キタル事ニモアリ未了ノ交渉ハ天羽ニ任せ至急出發セヨトノ事ナリ自分ノ氣持ヨリセハ折角結末ニ近附キタル事ナレハ之ヲ完了シテ歸ル事兩國ノ關係上ニモ好都合ト思考スル旨述ヘタルニ「カ」ハ其ノ點ハ自分モ全然同感ナリ本件解決ノ蘇側對案ハ大体出來上リ居レハ取急キ御届ス可キニ付御研究アリ度シト述ヘタリ尙本使ヨリ今回歸朝ノ上ハ何レ政府ニ對シ諸般ノ報告ヲ爲ス可ク就テハ貴方ニ於テ日本政府ニ傳達ヲ希望セラルル事アラハ出發前承リ度シト述ヘタルニ「カ」ハ右ニ付是非御出發前腹藏無キ意見ヲ交換シ度シト答ヘタリ
 越ヘテ三十日別電甲及乙ノ案文ヲ送附シ越セリ右ニ對シ左記ノ諸點ヲ申入ルル事然ル可シト思考スル處尙何等御氣附ノ點アラハ折返シ御回電アリ度シ又此ノ際取極署名ヲ見ルトセハ形式等ノ點如何ス可キカ至急御來示方御取計請フ
 蘇側案第一項ニ付テハ

- (イ)「現ニ日本國臣民ノ借受ケ居ル漁區」ノ次ニ「魚類ノ捕獲又ハ水產物ノ採取ニ當テラレタルトヲ問ハス」ヲ挿入スル事
 (ロ)「六十箇所ヲ除キ總テ」ノ次ノ「極東漁業廳ニ於ケル」ヲ削除スル事
 (ハ)「而シテ關係日本國臣民」以下ヲ削リ別電乙ヲ採用シ其ノ後段「極東漁業廳ハ」ノ次ニ「日本國臣民ノ爲何等ノ出費ヲ要スル事無ク」ヲ挿入スル事
 蘇側案第二項ニ付テハ

「今後競賣ニ依リテ貸附ケラルル總テノ區」ヲ存置シタル理由ヲ聞質ス事

- 蘇側案第四項ニ付テハ
 (イ)百分ノ四十ノ點ニ付政府ノ回訓ヲ俟テ更ニ申入ルル事
 (ロ)末段トシテ左ノ通挿入スル事

「右限度内ニ於テ蘇聯邦國營企業ニ貸附ケラルル漁區ノ大部分ハ一九三二年蘇聯邦人民又ハ「コ」組合若ハ其他ノ團體ノ借受ケ居ルモノノ内ヨリ選定セララルルモノトス」

尙右文句ヲ先方ニ於テ取極正文中ニ挿入スル事ヲ肯セサ

ル場合ハ次ノ(ハ)ノ事項ト一括シテ蘇側ヨリ一札ヲ入レシムルコト
 (ハ)國營留保順位及日本國臣民關係漁區除外ノ點ハ正文ニスレズ別ニ一札入レシムル事

220 昭和7年8月2日 在ソ連邦広田大使宛(電報)

ソ連側對案については取極に同意の上出發前に署名を終るよう訓令

本省 8月2日後8時10分発

第三〇八號(大至急)
 貴電第四五一號ニ關シ

「ソ」側對案ニ付テハ貴電御申越ノ諸点ヲ申入レラレ其ノ趣旨大体貫徹スルニ於テハ本件取極ニ同意ノ上成ルヘク貴官御出發前ニ署名ヲ了セラレタシ尙「ソ」側案第四項國營留保標準高ノ百分ノ四十トナスコトニ實質上異存ナク唯記載方法トシテハ往電第二七五號(ハ)ノ通御取計アリタキモ若シ「ソ」側ニ於テ「ブード」数併記ニモ反対ナル場合ニハ本取極ニハ割合ノミヲ記載シ置キ別ニ取極ト同時ニ又ハ

取極後直ニ貴大使館ト「ソ」側トノ間ニ於テ右割合ニ相当スル「ブード」數ヲ算定スルコトニ打合せ置カレ度尚標準高ニ関スル「ソ」側ノ計算ニハ我方トシテ異議アルコト往電第二八四号ノ通ナルニ付四割ノ基礎タルベキ総標準高ハ双方協議ニ依リ定ムベキモノナルコトヲ豫メ篤ト先方ニ申入レ置カレタシ又「ソ」側案第二項「今後競賣ニ依リテ貸付ケラル、總テノ区」ニ付テハ其ノ理由ヲ質サレタル上「ソ」側ニ何等特別ノ底意アルニアラズト認メラル、ニ於テハ強テ右文句ノ削除ヲ固執スル要モナカルベシト思考ス尚又取極ノ形式ニ付テハ当方トシテハ往電第二三一號ノ通り今次協定ノ事項ハ何レモ漁区ノ取得ニ関スルモノニシテ漁業条約第二條第二項ノ適用ニ依リ兩國政府間ノ合意ヲ以テ取極メ得ルモノナルガ故ニ新タナル國際約束トシテ秘密院御諮詢ヲ奏請スル必要ナキコト、ナス考ナルニ付大体「ソ」側案ノ形式ニテ差支ナシト思考スルモ後日正式ノ國際約束ナリトノ言懸リヲ生スルガ如キ文句例ヘバ「ソ」側案第一項中ノ「本プロトコル」ナル文字及末尾ノ「日本語及露西語ヲ以テ夫々二通ヲ作成ス」ノ如ク正式議定書ヲシキ文句ハ削除セシメラレ度(尤モ實際上日露兩語ヲ以

テ夫々二通ヲ作成スルコトハ実行セラレタシ)尚取極文ノ「レダクシヨ」ニ就テハ御參考迄ニ追電ノ答

~~~~~

221 昭和7年8月5日 在ソ連邦広田大使より  
内田外務大臣宛(電報)

当方の提案に対し先方より細目にわたり疑義表明並びに意見交換について

別電 八月五日発在ソ連邦広田大使より内田外務大臣宛第四六一号

日本側提出の協定案文

モスクワ 8月5日前発  
本省 8月5日後着

第四六〇號

貴電第三〇八號ニ關シ

四日「カラハン」ニ會見、七月二十九日ノ蘇側對案ニ往電第四五一號及貴電第三〇九號ノ修正ヲ加ヘタル露語案文ニ別電第四六一號ノ日本文ヲ添ヘ提示シ右ハ今回政府ノ最後の訓令ニ基キ作成セルモノナリトテ夫々適宜説明ヲ加ヘタルニ「カ」ハ前文及第一項ニ付同意ヲ表シタルモ第一項後

段「無料ニテ」ノ點ニ付普通契約締結ノ際徴収セラルル印紙税、手数料ト云フカ如キモノアラハ夫ハ何レ微細ノモノナルヘケレハ之ハ日本當業者ニ於テ支拂フコトト爲サレ度シト言ヘルニ依リ本使ハ日本當業者トシテハスル契約ノ締結ニ際シ種々ノ費用ヲ負擔セシメルコトヲ懸念シ居ルモノナレハ是非無料ナル文字ヲ存置セサルヘカラスト述ヘタルニ「カ」ハ契約ニ際シ如何ナル出費ヲ要スルヤ實際ヲ究メスシテ議論スルモ無駄ナレハ實際如何ニナリ居ルヤ關係官廳ニ照會ノ上御相談スルコトトスヘシト述ヘタリ第二項ハ往電第四一三號末段ノ意味ヲ含マシムル意味ニテ新ニ起案提出セルモノナルカ之ニ付「カ」ハ「新ニ開設セラルル漁區」ノ前ニ「日本國臣民ノ申請ニ依リ」ナル字句ヲ挿入スルコトヲ提議シ本使之ニ同意セリ

次ニ「國營企業ニ貸付ケラルコト無ク」ニ付右ハ非常ニ耳觸リナル處本項ニハ斯々ノ漁區ハ競賣ニ付セラレ競賣ニ依リテ貸付ケラルヘシトアリテ國營ニ貸付ケラルコト無キ建前ハ明瞭ニシテ實質ニハ變リ無キモノ之ヲ除クコトトシ度ク其ノ代リトシテ「必ス」ナル文字ヲ「競賣ニ付セラルヘク」ナル文句ノ前ニ挿入スルコトヲ提議シ本使之ニ同意

セリ

尙本使ヨリ借區契約ノ條件ニ基キ貸付停止セラルル場合ニ付日本當業者ヨリ申請アル場合ハ之ヲ許可スヘキ旨ノ訓令ヲ極東漁業廳ニ發セラレ度シト言ヒタルニ「カ」ハスカル場合好意的ニ考量スヘキ旨漁業廳ニ訓令スヘシト答ヘタリ第二項前段ノ追加文句ハ國營企業ニ貸付ケラルヘキ漁區ノ標準高ニ付將來何等誤解無キ様起案シタルモノナリ國營漁區ノ増加數量ニ付本使ハ之ヲ歩合ニテ示スコトハ日本政府トシテ大ナル論難アリ其理由ハ貴方ヨリ送付ノ國營現有「ブード」數ト日本側調ニ依ル國營現有「ブード」數トハ一致セス約三十四萬「ブード」ノ相違アリ從テ國營留保ノ増加ヲ歩合ニテ現ハストセハ双方ノ調ニ付長キ時間ヲ費シ何レノ材料力正確ナルヤ否ヤヲ決定セサル可カラス斯クテハ又復面倒ナル交渉ヲ爲ササル可カラサルニ付此際國營留保ヲ五百萬「ブード」迄増加スルコトニ同意スヘシ從來日本トシテハ此前申シタル通四百五十萬「ブード」ヲ以テ限度トスヘキ訓令ナリシモ本使ノ請訓ニ依リ五百萬「ブード」ニ同意シ來リタル次第ナレハ右ニテ満足セラレ度シト述ヘタルニ「カ」ハ歩合ノ點ニ付テハ四割ト云フハ當方最

初ヨリノ主張ニシテ又日本側漁區ノ安定ニ付大ナル讓歩ヲ爲シタルコトト關聯セシメアリタルモノニテ日本側ヨリ長キ間右ニ付反對無カリシコトニモアリ政府ニ於テハ日本側ニ於テ異議無キモノト思込ミ居ルコトナルヘク之ヲ變更スルコトハ自分ニ採リ非常ノ苦痛ナリ貴方ハ日蘇双方調ニ相當ノ開アルヤニ言ハルルカ貴方ノ調ニ依レハ漁區全部ノ標準高及國營ノ標準高ハ幾何トナルヤト言ヒタルニ付

本使<sup>(3)</sup>ハ前者ハ一三、九四一、二三〇「ブード」後者ハ二、六三〇、〇〇〇「ブード」ナリト答ヘタルニ「カ」ハ蘇側調ニ依ル漁區全部ノ標準高ハ一三、五一五、五三三ナルヲ以テ其ノ四割ハ五百四十萬「ブード」又日本側調ニ依ル漁區全部ノ標準高ノ四割ハ五百六十萬「ブード」ナレハ其中間ヲ採リ國營留保高ハ一九三二年度ノ漁獲總標準高ノ四割即チ約五百五十萬「ブード」迄増加セラルト期待セハ可ナラスヤト述ヘタルニ付、本使ハ政府ノ訓令ニ依レハ五百萬「ブード」以上ニ讓歩スルコト能ハス五百萬「ブード」ヲ貴方ニ於テ強ヒテ全標準高ノ四割ニ相當セシメントセハ夫ハ貴方ノ勝手ナルモ、五百萬「ブード」以上ト爲スコトニハ同意出來ス貴下ハ我方調ニ依ル數字ヲ基礎トシ四割ヲ計算セ

ス結果トナルニ付本使トシテハ特ニ貴方ノ調通リニ國營現有標準高ヲ二百二十八萬八千「ブード」ト認ムヘキニ付其ノ留保高ヲ五百萬「ブード」迄増加スル丈ケニテ満足セラレ將來ハ紛議ヲ繰返ササルコト爲スコト最良ノ方法ナルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ再三日本政府ニ四割ニ同意方請訓セラレ度シト述ヘタルモ本使ハ今回ノ訓令ハ最後のニシテ政府ニ請訓スルコト能ハスト述ヘタルニ「カ」ハ然ラハ明日關係ノ方面ト篤ト協議ノ上更ニ會談スルコトトスヘシト述ヘタリ次ニ本使ヨリ第三項末段ニ付往電第四一三號一、二、三選定順位ノ點ハ貴方ニ於テ取極ノ正文中ニ挿入スルコトヲ好マレサルニ依リ右ノ點ニ付貴方ヨリ一札ヲ入ルルコトト爲スヘキ旨訓令アリタリト答ヘタルニ「カ」ハ今回ハ貴方ノ案ヲ容レ國營留保ノ大部分ハ蘇側持分ヨリ選定スルコト（協議ノ點ニ付日本側ヨリ一札ヲ要ス）又六十ヶ所其ノ他日本人關係ノ漁區ハ必ス競賣ニ附セラレ從テ國營ニハ留保セラレサルコトナリ居リ日本當業者ノ不安ハ全然無キコトトナルニ付更ニ一札ヲ入ルル必要無シト強ク反對セリ依テ本使ハ國營留保高ニ付蘇側ニ於テ日本案ニ同意セラルレハ此ノ點固執セサル様請訓スヘシト述ヘ置ケリ

ラレ乍ラ國營ノ現在留保高ハ蘇側調ノ通り二百二十八萬八千「ブード」ナリト言ハルルハ甚タ得手勝手ナリト言ヘルニ「カ」ハ然ラハ四割即チ五百四十萬「ブード」ニテハ如何ト述ヘタルニ依リ本使ハ夫レニモ同意出來スト言ヘルニ「カ」ハ日蘇双方ノ調ニ「ブード」數ノ開アルハ如何ナル爲ナリヤト尋ネタルニ依リ本使ハ標準高ニ付テハ國營留保問題ノ起ル度ニ議論トナリタルモノナルカ蘇側ハ一九二七年ノ國營留保ニ際シ一九二七年ノ標準高ヲ採リ「ブード」數ヲ算出シタルカ同年標準高ハ國營留保ノ漁區ノミニ付一九二四年乃至一九二六年ノ標準高ヨリ著シク減セラレ居レリ是レ國營カ多數ノ漁區ヲ留保セントセル爲ナラント述ヘタルニ

「カ」ハ標準高ハ條約ニ依リ明カナルカ如ク專ラ蘇側官憲ノ決定ニ俟ツモノニシテ之ニ付テハ可否ヲ議論スヘキ問題ニ非ス一九二七年ニ定メラレタル標準高ハ當時ノ事情ヨリ漁業廳ニ於テ至當ト認メ決定セルモノニシテ貴使ノ言ハルルカ如キ魂膽ノ結果ニ非スト述ヘタルニ依リ本使ハ兎ニ角標準高ニ付テハ絶ヘス議論アルニ付國營留保ノ歩合ヲ以テ決定スルコトハ折角漁區安定ニ付協定スルモ後ニ紛爭ヲ殘

第四項ニ付先方異議無シ  
以上ノ次第ナルニ付尙何等御氣付ノ點アラハ折返シ御回電アリタシ

（別電）

モスクワ 8月5日前発  
本省 8月5日前着

第四六一號

<sup>(1)</sup>在蘇聯邦日本國大使廣田弘毅氏及蘇聯邦外務人民委員代理「レフ、ミハイロウイチ、カラハン」氏ハ日本國及蘇聯邦間ニ存在スル友好關係ヲ増進スル目的ヲ以テ一九二八年ノ漁業條約ノ適用ニ關聯スル種々ノ問題ヲ該條約ノ解釋ニ基キ解決センコトヲ希望シ且凡ユル漁業問題ハ漁業條約ノ凡テノ條文及規定ヲ嚴守スルコトヲ基礎トシテ解決調停セラレヘキモノナリトノ見地ニ立脚スル各自國政府ノ訓令ニ依リ前記條約ノ範圍ト基礎トニ於テ友好的ニ意見ヲ交換シタル後左記ニ同意セリ

一、現ニ日本國臣民ノ借受ケ居ル漁區ハ漁類ノ捕獲ニ當テラレタルト水産物ノ採集ニ當テラレタルトヲ問ハス次項ニ

記載ノ漁區六十箇所ヲ除キ凡テ當該借區契約ヲ同一條件ヲ以テ延長スルノ方法ニ依リ一九三六年度迄關係日本國臣民ノ借受トシテ存續セラルヘシ

而シテ右日本國臣民ハ當該漁區ノ貸付期間満了前何時ニテモ極東漁業廳ト其貸付延長ニ付必要ナル手續ヲ爲スコトヲ得ヘク同廳ハ貸付期間満了前無料ニテ遲滞無ク其延長ノ手續ヲ完了スヘシ

二、新タニ開設セラルル漁區、其他今後競賣ニ依リテ貸付ケラルル凡テノ漁區並ニ現在日本國臣民ノ借受ケ居ルモノノ中ヨリ其ノ任意選定スル漁區六十箇所ハ其ノ貸付期間ノ満了スルニ從ヒ又ハ其借區契約ノ條件ニ基キ貸付停止セラルル場合ハ國營企業ニ貸付ケラルルコト無ク競賣ニ附セラレヘク且漁業條約附屬議定書甲第六條ニ記載ノ期間ヲ以テ競賣ニ依リテ貸付ケラルヘシ

三、<sup>(2)</sup>漁業條約最終議定書第一部一ノ乙ニ準據シ國營企業ニ貸付ケラルヘキ鮭鱒族ノ捕獲ニ當テラレタル漁區ノ漁獲標準高ハ現ニ國營企業ニ貸付ラレ居ル凡テノ漁區ノ漁獲標準高ト合シテ、トナル迄増加スルコトヲ得而シテ之等ノ漁區ハ最終議定書第一部一ノ乙ニ規定ニ依リ選定セラ

#### 案文につき適当に字句を修正して可なる旨回訓

本省 8月6日午後6時10分発

第三一三號(大至急)

貴電第四六〇號ニ関シ

貴電第四六一号ノ案貴官「カラハン」御会談ノ結果ノ通採用サル、ニ於テハ我方ノ趣旨大体貫徹スルヤニ認メラル、ニ付国営留保漁區選定順位ニ付強ヒテ別ニ一札ヲ入レシムル必要ナカルヘシ又貴案第一項「無料」ナル文句ニ付テハ当方ニテモ取調中ナルニ付貴電末段五日「カラハン」トノ御會談ノ結果ヲ俟テ併セ電報スヘシ

尙貴案第二項中「其ノ貸付期間ノ満了スルニ從ヒ云々」ノ文句ハ冒頭ノ「新タニ開設セラレタル漁區」ニモカ、ル様解セラル、処右新開漁區ハ開設ノ際競賣ニ付スヘキコトヲ約スルモノト認メラルルニ付其ノ趣旨ナラバ適當字句ヲ修正相成度(六日)

222 昭和7年8月13日

在ソ連邦広田大使より  
内田外務大臣宛(電報)

カラハンと最終的に会談協議し調印の運びに

ルヘク且一九三六年度迄ノ期間ヲ以テ國營企業ニ貸付ケラルヘシ

前記ノ限度内ニ於テ國營企業ニ貸付ケラルル漁區ノ大部分ハ一九三二年蘇聯邦人民「コーペラテイウ」組合及其他ノ團體ニ於テ借受ケ居ルモノノ中ヨリ選定セラルヘシ

四、十八漁區、七漁區其他ノ漁區ニ付蘇聯邦國營企業ノ爲ノ確保ニ關聯シ發生セル凡テノ日本側ノ要求及反對並ニ蘇聯邦人民「コーペラテイウ」組合及地方農漁民ニ貸附ケラレタル漁區ニ關スル要求及反對ハ之ヲ解決シタルモノト認ム

但シ兩國政府ニ於テ一九二八年ノ漁業條約及其附屬文書ノ解釋ニ關スル各自從來ノ主義上ノ主張ヲ引續キ維持スルコト勿論ナリ

一九三二年、月、日莫斯科ニ於テ

署名

署名

222 昭和7年8月6日

内田外務大臣より  
在ソ連邦広田大使宛(電報)

#### 至った経過報告

モスクワ 8月13日後発

本省 8月14日前着

第四七二號

<sup>(1)</sup>貴電第三一九號ニ關シ

十三日午後零時半ヨリ「カラハン」ニ會見本使ヨリ

第一項

「無料」ニ關シテハ浦潮ヨリハ何等料金ヲ要セサル旨ノ報告アリ貴方ニ於テハ議定書甲第九條(七)及(九)ヲ除ク以外ノモノ例ヘハ印紙税、公證人、手数料等ノモノハ支拂フ必要アリト言ハレ事實如何ナルコトニ爲リ居ルヤ更ニ取調方ヲ電報シ置キタリト述ヘタルニ「カ」ハ條約ニ規定スル以外ノモノヲ徴收セントスル次第ニ非サレハ何等懸念サルル必要無シト述ヘタルニ依リ本使ハ蘇側ニ於テ條約ノ規定以外何等徴收セストノ建前ニテ又浦潮ニテハ現ニ何等支拂居ラストノ事ナルカ要スルニ是迄ノ實行方法維持サルル御諒解ナラハ「無料」ナル文句ヲ削除シテ差支無シト述ヘタルニ「カ」ハ勿論其諒解ナリト答ヘタリ

第二項

日本政府ニ於テハ貴方修正ノ趣旨ニシテ日本國臣民ハ條約ニ依リ新漁區開設ヲ申請シ其貸付ヲ受クル權利有リ蘇側ハ同條約ニ基キ新漁區ヲ開設スルモノナリトノ意味ナラハ之ニ同意シ差支無シトノコトナリト述ヘタルニ「カ」ハ其通ナリト答ヘタリ

## 第三項ニ付

本使ハ貴方ヨリ國營ノ現有標準高ヲ大使館宛ニテ通知サルル文案中ニ一九三二年蘇側ノ經營セル漁區全部ノ明細表ヲ添付スルノ點如何ト尋ネタルニ「カ」ハ漁區明細表ヲ添付スルコトハ蘇側ノ經營漁區ニ付日本側ニ通知スルノ義務ヲ負ヒ居ルカ如キ形ト爲ルヲ以テ不可ナリトノ意見アリト述ヘタルニ依リ

本使ハ然ラハ日本側トシテハ「コンファア」ニ關スル貴下宛書翰中ニ右明細表ノコトヲ書添ヘルコトトシタシト述ヘタルニ「カ」之ニ異議無ク貴電第三一八號ニ基キ「國營企業ニ貸附ケラルヘキ漁區ヲ」ノ次ニ「漁業交渉中七月二十六日貴下ヨリ手交アリタル表ノ通」ヲ挿入スルコトトセリ尙先方ヨリ國營留保ノ現有標準總高ヲ通知スル文案ハ別電第四七三號<sup>(省略)</sup>ノ通ニシテ當方ヨリハ別電第四七四號<sup>(省略)</sup>ノ通

同意スヘシト述ヘ種々數字ニ當リ計算ヲ爲シタル後實ハ此點ハ自分トシテモ一應協議ヲ要スルニ付後刻電話ヲ以テ右ニテ差支ナケレハ今晚十時頃ニテモ署名スルコトニスヘク然ラサレハ貴使ヨリ「約」ナル字ヲ附加スル點ニ付日本ニ請訓セラルルコトト致シタシト述ヘタルニ依リ本使ハ三十七%即五百萬「ブード」ニテ今晚署名スルコトヲ希望スト述ヘ置キタリ尙第三公文案ノ前段ハ先方ニテ「約」ナル字ヲ除クコトニ同意シタル場合左ノ通トナル

「漁業條約附屬最終議定書第一部一ノ乙(二)ニ遵據シ國營企業ニ貸附ケラルヘキ鮭鱒族ノ魚類ノ捕獲ニ當テラレタル漁區ノ漁獲標準總高ハ現ニ國營企業ニ貸附ケラレ居ル總ヘテノ鮭鱒漁區ノ漁獲標準總高ヲ含ミ一九三二年貸附ケラレ居ル總ヘテノ鮭鱒漁區ノ漁獲標準總高ノ百分ノ三十七即五百萬「ブード」迄増加セラル而シテ是等ノ漁區ハ最終議定書第一部一ノ乙(三)ノ規定ニ依リ選定セラルヘク且一九三六年度迄ノ期間ヲ以テ國營企業ニ貸附ケラルヘシ」

以上ニテ會見ヲ終リタルカ午後五時過先方ヨリ今晚署名シ得ルコトナレル旨電話アリ依テ右ノ通取運フ積リナリ

書翰ヲ以テ之ヲ了承スルコトトセリ

次ニ本使ヨリ今回政府ヨリ更ニ是非五百萬「ブード」ニテ解決スル様努力スヘキ旨ノ訓令ニ接シタリト述ヘタルニ「カ」ハ暫ク沈黙ノ後三十七%即約五百萬「ブード」迄増加セラルト爲スヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ約五百萬「ブード」ニテハ又復誤解ヲ將來ニ殘ス虞アレハ五百萬「ブード」ハ動カサルモノトシ五百萬「ブード」即チ約三十七%ト爲サレタシト述ヘタルニ「カ」ハ是非三十七%ヲ先ニセラレタク「約」ナル文字ヲ好マサレハ三十七%ニ相當スル五百萬七百四十七「ブード」ト右%ニ相當スル實數ヲ記入スルコトトセハ可ナラント云ヘルニ依リ本使ハ五百萬「ブード」カ日本政府ノ同意シ得ヘキ限度ナレハ(脱)ニ就テハ更ニ訓令ヲ請ハサルヘカラスト述ヘタルニ

「カ」ハ東京ニ請訓トナラハ又復餘計ナ時日ヲ經過スヘク自分トシテハ之迄折角漕附ケタルモノヲ貴使ノ請訓中ニ邪魔カ這入ルコトヲ惧ルル次第ナルカ貴使ハ此點ニ付妥結ヲ見レハ日本ニ請訓ヲ要セスシテ署名シ得ルヤ又今晚遅クトモ差支ナキヤト問ヒタルニ依リ本使ハ然リト答ヘタルニ「カ」ハ然ラハ三十七%即五百萬「ブード」ト爲スコトニ

224

昭和7年8月13日

在ソ連邦広田大使より  
内田外務大臣宛(電報)

漁業問題解決に関する文書調印交換を終了の

旨報告

別電一

八月十四日発在ソ連邦広田大使より内田外務大臣宛第四七六号

大臣宛第四七六号

「漁業問題解決ニ關スル文書」

二 八月十四日発在ソ連邦広田大使より内田外務大臣宛第四七七号

大臣宛第四七七号

「國營留保ノ再協議ニ關スル機密交換公文」

三 八月十四日発在ソ連邦広田大使より内田外務大臣宛第四七八号

大臣宛第四七八号

「國營現有漁區ノ標準總高通報ニ關スル交換公文」

公文

モスクワ 8月13日後発

本省 8月14日前着

第四七五號

十三日午後九時半本使ハ「カラハン」ト共ニ左記文書ノ調

印及交換ヲ了セリ

(一) 漁業問題解決ニ關スル文書（日本語及露西亞語ヲ以テシ日本語ハ別電第四七六號ノ通露西亞語寫ハ郵送ス）  
 (二) 國營留保ノ再協議ニ關スル機密交換公文（別電第四七七號）

(三) 國營現有漁區ノ標準總高通報ニ關スル交換公文（別電第四七八號）

尙本件發表方ニ付「カ」ハ蘇側トシテハ事専門ニ亘ルヲ以テ全文ヲ公表セス單ニ今回ノ取極ニ依リ漁業條約ノ適用ニ關聯シ從來發生セル諸問題ノ解決ヲ見タル次第ヲ發表スル意嚮ナルカ日本側ニ於テ之カ公表振ヲ如何ニ取扱フカニ付テハ全ク御隨意ナリト語レリ

尙本使ヨリ此上ハ附隨事項ノ協議ヲ爲ス必要アル次第ヲ述ヘタルニ「カ」ハ右ニ付テハ近々何分ノ回答ヲ差上クル考ナリト云ヘリ

（別電一）

モスクワ 8月14日前発

本省 8月14日前着

第四七六號

他今後競賣ニ依リテ貸附ケラルル總ヘテノ漁區並現在日本國臣民ノ借受ケ居ルモノノ内ヨリ其任意ニ選定スル六十漁區ハ條約ニ基キ開設セラルル毎ニ又ハ其貸附期間ノ滿了スルニ從ヒ又ハ其借區契約ノ條件ニ基キ貸附停止セラルル場合必ス競賣ニ附セラルヘク且漁業條約附屬議定書甲第七條ニ規定ノ期間ヲ以テ競賣ニ依リテ貸附ケラルヘシ  
 三、漁業條約附屬最終議定書第一部一ノ乙(二)ニ遵據シ國營企業ニ貸附ケラルヘキ鮭鱒族ノ魚類ノ捕獲ニ當テラレタル漁區ノ漁獲標準總高ハ現ニ國營企業ニ貸附ケラレ居ル總ヘテノ鮭鱒漁區ノ漁獲標準總高ヲ含メ一九三二年貸附ケラレ居ル總ヘテノ鮭鱒漁區ノ漁獲標準總高ノ百分ノ三十七即五百萬「ブード」迄増加セラル而シテ是等ノ漁區ハ最終議定書第一部一ノ乙(三)ノ規定ニ依リ選定セラルヘク且一九三六年度迄ノ期間ヲ以テ國營企業ニ貸附ケラルヘシ  
 前記ノ限度ヲ以テ國營企業ニ貸附ケラルル漁區ノ大部分ハ一九三二年蘇聯邦人民「コーペラティブ」組合及其他團體ニ於テ借受ケ居ルモノノ内ヨリ選定セラルヘシ  
 四、十八漁區、七漁區及其他ノ漁區ニ付國營企業ノ爲メノ確保ニ關聯シ發生セル總ヘテノ日本側ノ要求及反對並蘇聯

在蘇聯邦日本國大使廣田弘毅氏及蘇聯邦外務人民委員代理「レフ、ミハイロウイチ、カラハン」氏ハ日本國及蘇聯邦間ニ存在スル友好關係ヲ増進スル目的ヲ以テ一九二八年ノ漁業條約ノ適用ニ關聯スル種々ノ問題ヲ該條約ノ解釋ニ基キ解決センコトヲ希望シ且總ヘテノ漁業問題ハ漁業條約ノ總ヘテノ條文及規定ヲ嚴守スルコトヲ基礎トシテ解決調整セラルヘキモノナリトノ見地ニ立脚スル各自國政府ノ訓令ニ依リ前記條約ノ範圍ト基礎トニ於テ友好的ニ意見ヲ交換シタル後左記ニ同意セリ

一、現ニ日本國臣民ノ借受ケ居ル漁區ニシテ一九三六年ヨリ以前ノ年度ニ於テ貸附期間滿了スルモノハ魚類ノ捕獲ニ當テラレタルト水產物ノ採取ニ充テラレタルトヲ問ハス次項ニ規定ノ六十漁區ヲ除キ總ヘテ當該借區契約ヲ同一條件ヲ以テ延長スルノ方法ニ依リ一九三六年度迄關係日本國臣民ノ借受トシテ存續セラルヘシ而シテ右日本國臣民ハ當該漁區ノ貸附期間滿了前何時ニテモ極東漁業廳ト其貸附延長ニ付必要ナル手續ヲ爲スコトヲ得ヘク同廳ハ貸附期間滿了前遲滞無ク右延長ノ手續ヲ完了スヘシ

二、日本國臣民ノ申請ニ基キ開設セラルル總ヘテノ漁區其

邦人民「コーペラチブ」組合及地方農漁民ニ貸附ケラレタル漁區ニ關スル要求及反對ハ之ヲ解決シタルモノト認ム但シ兩國政府ハ漁業條約及其ノ附屬文書ノ解釋ニ關スル各自從來ノ主義上ノ主張ヲ引續キ維持ス

一九三二年八月十三日 莫斯科ニ於テ

廣田 弘毅（調印）

カラハン（調印）

（別電二）

モスクワ 8月14日前発

本省 8月14日前着

第四七七號

（甲）（往翰）機密

一九二八年ノ漁業條約ノ適用ニ關シ發生セル問題ノ解決ニ付本日署名ヲ見タル文書第三項ニ關シ日本大使館ハ左ノ通日本國政府ノ名ニ於テ聲明スルノ光榮ヲ有ス

前記文書第三項ニ依リテ定メラレタル限度ヲ以テ蘇聯邦國營企業ニ貸附ケラル可キ漁區ヲ漁業交渉中七月二十六日外務人民委員代理「カラハン」氏ヨリ日本大使廣田氏ヘ手交

アリタル表ノ通一九三二年蘇聯邦人民、「コーベラティヴ」組合及其ノ他ノ団体ニ於テ借受ケ居ルモノノ内ヨリ選定スル場合ハ最終議定書第一部一ノ乙(三)ニ規定ノ「協議」ハ蘇聯邦政府ヨリ日本國政府ニ對スル當該漁區番號、名稱、位置及漁獲標準高ノ通知ヲ以テ完了シタルモノト見做サルヘシ

一九三二年八月十三日

在莫斯科日本大使館

蘇聯邦外務人民委員部御中

(乙)(來翰邦譯文)

機密第二 Voya ノ一〇二號

外務人民委員部ハ本年八月十三日附在莫斯科日本大使館機密書翰ヲ受領シ同書翰ノ内容ヲ了承セル旨玆ニ通知スルノ光榮ヲ有ス

一九三二年八月十三日

外務人民委員部

在莫斯科日本大使館御中

(別電三)

モスクワ 8月14日前発  
本省 8月14日前着

第四七八號

甲(來翰邦譯文)

第二 Voya 一〇二號

蘇聯邦太平洋水域ニ於ケル漁業問題ニ關スル外務人民委員代理「カラハン」氏及在莫斯科日本大使廣田氏間ノ交渉ニ關聯シ外務人民委員部ハ在莫斯科日本大使館ニ對シ通報ノ爲本年七月二十六日手交ノ蘇聯邦國營企業ニ貸附ケラルル漁區表ニ明示ノ通前記企業ノ鮭鱒漁區ノ漁獲標準總高ハ現在三七五、二〇七、二「ツェントネール」即チ二、二八八、七六三、九二「ブード」ニ相當スルコトヲ通知スルノ光榮ヲ有ス

一九三二年八月十三日

外務人民委員部

在莫斯科日本大使館御中

乙)往翰

本年八月十三日附貴翰第二 Voya 一〇二號ヲ受領シ同書翰ノ内容ヲ了承セル旨玆ニ通知スルノ光榮ヲ有ス

一九三二年八月十三日

在莫斯科日本大使館

蘇聯邦外務人民委員部 御中

225

昭和7年8月15日

内田外務大臣より  
在ソ連邦広田大使宛(電報)

取極文書要領の新聞記者への談話について

付記 日付不明

通商局作成「漁区安定ニ關スル昭和七年八月十三日日『ソ』間取極要旨」

本省 8月15日後7時 分發

第三二一號

貴電第四七五号ニ關シ

當方ニ於テモ本件取極文書ヲ其ノ儘公表スルコトハ差控ヘ貴電第四七六号取極ノ要領ヲ十五日新聞記者ニ談話シ置ケ

リ  
尚貴電第四七五号及其ノ別電三通並本電ヲ浦潮ヘ轉電シ「ハバロフスク」ヘ畧送セシメタリ

(欄外記入)

(別紙)

漁区安定ニ關スル昭和七年八月十三日  
日「ソ」間取極要旨

一、日本人ノ現有漁區三百九十二箇所中六十漁區ヲ除キ他ハ全部同一條件ニテ昭和十一年迄借區契約ヲ延長スルコト尙右六十漁區ハ日本側ニ於テ任意ニ選定シ得ルコト  
二、國營留保鮭鱒漁區ハ昭和十一年迄五百萬「ブード」即全漁獲標準高ノ三割七分迄條約ノ規定ニ遵ヒ増加シ得ルコト但シ増加スル漁區ノ大部分ハ「ソ」側個人「コーベラチブ」組合及其他ノ団体ノ借受中ノモノノ内ヨリ選定セラルルコト  
三、十八漁區七漁區等ノ懸案漁區ニ關スル日本側ノ具体的

要求及反對ハ之ヲ解決シタルモノト認ムルモ條約及附屬文書ノ解釋ニ關スル從來ノ主義上ノ主張ハ引續キ之ヲ維持スルコト

(欄外記入)

八月十三日ノ漁業取極ニ付テハ取極文書ヲ其ノ儘發表スルコトハ差控ヘ通商水産兩局長協議ノ結果該取極ノ内容トシテ八月十五日下記ノ通新聞記者ニ談話シ置キタリ

226

昭和7年8月18日 在ソ連邦広田大使より  
内田外務大臣宛

漁業問題に關する交渉經過概要送付

機密公第三一一號

(9月12日接受)

昭和七年八月十八日

在「ソヴィエト」聯邦

特命全權大使 廣田 弘毅〔印〕

外務大臣子爵 内田 康哉殿

漁業問題ニ關スル交渉經過概要送付ノ件

本月十五日附機密公第三〇七號拙信ニ關シ交渉經過概要參

考ノ爲管内各領事及在歐米各大使宛送付シ置キタルニ付右寫一部別紙ノ通送付ス

(別紙)

日「ソ」漁業問題ニ關スル交渉經過概要

一九二八年締結セラレタル日「ソ」漁業條約(一九二九年ヨリ發効セリ)<sup>(編註二)</sup>ハ或ハ其條文ニ關シ或ハ條約ノ精神ニ關シ日「ソ」間ニ解釋又ハ見解ノ相異ヲ來シ毎年紛爭ヲ繰リ返ヘシタルカ其ノ中最モ重大ナリシハ漁業權行使ノ根據ヲナス漁區ニ關スル問題ニシテ漁業條約ニ依レハ「ソ」聯邦國營企業ハ漁區取得ノ方法タル競賣ニ參加セサルコトヲ條件トシ日本側ト協議ノ上鮭鱒漁區ニアリテハ條約實施當時ノ漁獲標準總高ノ約百分ノ二十ニ相當スル總計二百萬布度ヲ限度トシ貸付ヲ認メラレ(ソレ以外ノ魚類及水産物ノ場合モ此ノ率ニ準ス)國營以外ノ「ソ」側漁業經營者ハ日本人ト同一條件ヲ以テ競賣ニ依リ漁區ヲ取得スル建前ニシテ條約締結當時ニ於ケル「ソ」側代表ノ聲明ニ依レハ社會主義ヲ國是トスル「ソ」聯邦ニ於ケル個人ノ活動ハ言フニ足ラストノコトナリシ處條約實施後三年間ノ經驗ニ徴スレハ

五 日ソ漁業取極問題

「ソ」側ハ國營ノ特權ヲ利用シテ無競爭ニテ漁區ヲ取得スル外多數個人企業ノ活躍ニヨリ競賣激烈トナリ日本側ノ優良漁區モ毎年「ソ」側ノ手ニ移ラントスル傾向トナリ而モ「ソ」側漁區取得ノ方法中ニハ條約違反ト認メラルモノ少カラサリシ爲我營業者ハ「ソ」側力計畫的ニ本邦人ノ漁業ヲ壓迫シ事實上之レヲ「ソ」領水域ヨリ驅逐セントスルモノナリトナシ此ノ現狀ニ對スル不滿ハ日ニ深刻ヲ加ヘ殊ニ前記漁業權ハ日本國民力國運ヲ賭シテ獲得シタル戰勝ノ結果ナル爲政治季節毎ニ政治問題ト化シ日「ソ」間ノ國民感情ヲ刺激スルコト少カラサリキ茲ニ於テ帝國政府ハ漁業ニ關スル係爭ノ根本的解決ヲ圖リ兩國々交ノ圓滿ヲ期スル爲「ソ」聯邦政府ト商議ヲ開始シ

(一)條約ノ規定及精神ニ關スル双方ノ解釋及見解ヲ一致セ

シメ紛爭ノ原因ヲ一掃スルト共ニ更ニ進ンテ

(二)何等カ日「ソ」漁業ノ安定ニ關スル具体的方策ヲ講シ

以テ我營業者ノ不安ヲ除クコト

ヲ必要且時宜ニ適シタル措置ト認メ本使ニ對シ現行條約ノ範圍内ニ於テ本件ノ實際的解決ヲ圖ル可キ旨訓令セリ依テ本使ハ右訓令ノ趣旨ヲ体シ客年六月二十五日外務人民委員

代理「カラハン」氏ニ會見右帝國政府ノ意嚮ヲ傳達シタル處同年八月十八日同氏ヨリ右商議開始ニ同意ナル旨ノ「ソ」政府回答ヲ得タリ

然ルニ前記(一)ニ屬スル問題ハ主トシテ主義上ノ爭ヒニ屬シ若シ本問題ヨリ討議ヲ始メンカ議論多岐ニ且リ徒ラニ日子ヲ要スルノミナラス商議最終ノ目的タル漁業安定問題ニシテ成立センカ或問題ハ自然解決ニ歸スルモノ少カラサルニ鑑ミ先ツ(二)ノ安定問題ヨリ開談スルノ方針ヲ以テ十一月二十六日本使ヨリ「カラハン」氏ニ對シ日「ソ」漁業安定ノ方法トシテ双方カ現ニ經營シ居ル漁區ヲ夫レ々々其ノ儘漁業條約期間滿了迄即一九三六年迄テ即チ五年間据エ置クコトトシ(借區期間十ヶ年トナリ居ル日本人經營ノ確詰工場漁區ハ此ノ限りニ非ラス)現ニ未經營ノモノ又ハ新開漁區ニ付テハ日「ソ」双方折半スルノ方法ニ依リ公平ニ分配スルコトヲ提議シタル處「カラハン」氏ハ右ハ漁業條約ノ根本ヲナス競賣制度ヲ無視スル結果トナルヲ以テ現有漁區全部ノ安定案ニハ同意困難ナリト十二月八日日本側現有漁區ノ七割迄テヲ安定シ其ノ他ノ分ヲ競賣ニ附スル案ヲ提議シ來ルト共ニ之ニ對スル交換條件トシテ次ノ三項ヲ提示セ

百分ノ三十七ニ相當スル旨並記スルコトヲ認メ即日「カラハン」氏トノ間ニ別添取極及交換公文<sup>（省略）</sup>ノ調印及交換ヲ了セリ

尙若シ國營留保ノ増加ヲ新開漁區ノミニ依ルコトトセハ「ソ」側個人及「コーペラテイヴ」組合其ノ他ノ團體ノ持分ト合ハセ「ソ」側ノ總勢力カ日本側ノ現勢力ヲ凌駕スルコトトナルヲ以テ右國營増加ノ大部分ハ之ヲ一九三二年「ソ」側個人及「コーペラテイヴ」組合其ノ他ノ團體ノ借受漁區中ヨリ選定セシムルコトトシ此ノ危險ヲ防止セリ又日本人關係ノ漁區例ヘハ上述ノ六十箇所、日本人ノ申請ニ基キ開設セラルル新漁區、國營留保以外ノ「ソ」側漁區等ハ必ス競賣ニ附スルコトトシ將來日本人ノ活動ヲ保障スルコトトセリ

尙國營留保漁區ノ選定ニ當リテハ「ソ」政府ニ於テ日本政府ト協議ヲ要スル條約ノ規定ナル處協議ノ解釋ニ付双方ノ意見相異シ爲ニ其ノ都度紛議ヲ議シ所謂十八漁區、七漁區等ノ問題ヲ發生シタル次第ナルカ今回我方ニ於テハ一九三二年ノ「ソ」側持分ヨリ國營漁區ヲ選定スル場合ハ單ニ當該漁區番號、名稱、位置及漁獲標準高ヲ「ソ」政府ヨリ通

リ

一、「ソ」側漁業カ日本側漁業ヨリ劣勢ナル間ハ國營ニ對シ無競賣無協議ニテ「ソ」側個人漁區、新漁區、不經營漁區ヨリ其ノ漁區ヲ取得經營シ得ルノ權利ヲ認ムルコト（其後此ノ點ヲ國營ノ留保總高ヲ漁獲標準總高ノ四割迄増加スルコトニ變更セリ）

二、十二哩領海ニ關スル取極ノ締結

三、國營留保ニ關聯シテ發生セル十八漁區、七漁區等ニ關スル日本側反對ヲ撤回スルコト

然ルニ安定交渉ハ未タ妥結ニ至ラスシテ一九三二年ノ競賣期到來シ「ソ」側ハ條約通り競賣ヲ施行シタルヲ以テ本邦營業者モ之ニ參加セリ其ノ結果日本側ハ前年度ノ現有漁區中間満了セルモノ十五箇所ヲ競賣ニ附スルコトトナリタルモ中二箇所ヲ露人ニ競落セラレタル外ハ全部再ヒ之ヲ競落シタルノミナラス前年度ニ於テ「ソ」側ノ經營セル漁區十四箇所其ノ他合シテ百壹箇所ヲ競落セリ

玆ニ於テ乎我方ハ前記一九三二年ノ競賣後ニ於ケル有利ナル新事態ヲ利用シ漁區安定ノ基礎ヲ此ノ新事態ニ置クコトヲ主張シ其ノ代リ日本人現有漁區全部ノ安定ナル從來ノ主

張ヲ固執セス一九三二年ノ競賣ニヨリ日本人ノ持分増加セル其ノ半數即四十一箇所ヲ競賣ニ附スルノ案ヲ立テ本年五月十四日本使ヨリ「カラハン」氏ニ申入レタル處超エテ同月十八日前記日本案ニ對シ六十箇所ヲ競賣ニ附スルコトトシ其ノ外ハ全部條約期間中從來ト同一條件ヲ以テ安定スルコトニ同意ナル旨回答アリ尙最初「ソ」側カ安定ノ交換條件トシテ強硬ニ主張セル領海問題ノ取極ハ之ヲ固執セスシテ終レリ

右「ソ」側ノ讓歩ニヨリ交渉ノ最大難關タル日本側持分ノ安定問題ハ突破セラレ爾來交渉ハ國營留保高増加問題ニ集中セラルルコトトナリタルカ「ソ」側ハ當初ヨリノ主張タル日「ソ」双方經營ノ漁區全部ノ漁獲標準總高ノ四割迄増加方ヲ固執シ我方ハ歩合ニテ右増加高ヲ示ス時ハ右歩合算出ノ基礎トナル數字ニ付双方ノ意見相異スル爲將來又誤解ヲ生スル恐アルヲ以テ實數ヲ以テ表ハサンコトヲ求メ且國營ニ對スル貸付期間モ一九三六年ニ限ルコトトシ其ノ留保高ノ限度ヲ五百萬布度迄トナスコトヲ提議シタル處「ソ」側ハ八月十三日遂ニ右留保限度ニ關スル我方ノ主張ヲ容レタルヲ以テ我方モ右實數カ一九三二年度ノ漁獲標準總高ノ

知スルノミニテ右協議ヲ完了シタルモノト看做スヘキ旨ノ諒解ヲ與ヘタルヲ以テ今後此ノ種紛議ノ發生ヲ幾分尠カラシムヘシ

最後ニ從來「ソ」側經營ノ漁區ニ付テハ我方ニ正確ナル材料ナカリシカ今回ノ安定交渉中右ニ付「カラハン」氏ヨリ明細表ヲ提出セシメタリ之ニヨレハ一九三二年ニ於ケル國營漁區ハ二、二八八、七六三布度百分ノ九二ナルヲ以テ一九三六年迄ノ期間國營カ經營シ得ル漁區ノ増加量ハ二、七一一、二三六布度百分ノ八ナリ而シテ此ノ取極ニヨリ日「ソ」ノ漁區數及標準高ヲ表示セハ左ノ如シ

一九三二年度現在漁區及漁獲標準高表

| （一）日本側                                               |                                  |
|------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 漁區數                                                  | 鮭 鱒 三〇、三三三                       |
| 標準高                                                  | 鮭 鱒 八、三九六、六三三布度<br>蟹 二五、五〇〇函     |
| 此内ニハ特別契約ヲテ所及元<br>三三六年度期限満了漁區ハケ所ヲ含ム<br>此内六十ヲ任意選擇競賣ニ付ス |                                  |
| （二）ソ側                                                |                                  |
| 漁區數                                                  | 鮭 鱒 二五七                          |
| 標準高                                                  | 鮭 鱒 五、七〇〇、〇六六布度<br>蟹 取極外 三三、〇〇〇函 |
| 此内ニハ特別契約ヲテ所及元<br>三三六年度期限満了漁區ハケ所ヲ含ム<br>此内六十ヲ任意選擇競賣ニ付ス |                                  |

國營ノ現有高二、二八八、七六三、九二布度ヲ五、〇〇〇、〇〇〇布度（總漁獲標準高ノ約三割七步）ニ増加ス  
 (三)日「ソ」鮭鱒漁獲總高一三、五四九、七二一・四布度  
 註 本表ニハ「ソ」聯地方農漁民借受漁区ヲ含マス

編注一 (一九二九年ヨリ發効セリ)の部分に見消あり。

編注二 七との書込みあり。

227 昭和7年8月23日 在ソ連邦広田大使より  
 内田外務大臣宛(電報)

日ソ間の漁業取極めに関するタス通信記事大

要報告

モスクワ 8月23日後発  
 本 省 8月24日前着

第四九一號

往電第四七九號ニ關シ

八月二十二日ノ諸新聞ハ更ニ「タス」通信トシテ大要左ノ  
 通發表セリ

今日日蘇間ノ取極ハ漁業條約ノ實際的適用ニ當リ發生セル

本取極ハ兩國ノ漁業企業ヲ相互ニ満足セシムル前記ノ事情  
 ヲ確定セル簡單ナル四ヶ條ヨリ成ル

諸問題ヲ該條約ノ規定ヲ嚴守スルコトヲ基礎トシテ解決ス  
 ルモノナリ其ノ根本問題ハ蘇聯邦太平洋水域ニ於ケル漁區  
 借受問題ナリトス條約ニ依レハ漁區ハ凡テ競賣ニ依リ取得  
 セラルルヲ原則トスルカ國營ハ其ノ例外トシテ競賣ニ依ラ  
 スシテ漁區ヲ取得シ得然レト國營ノ取得シ得ルハ二百萬布  
 度若ハ全漁區漁獲標準總高ノ百分ノ二十ヲ超ユルヲ得サリ  
 シカ今回ノ取極ニ依リ五百萬布度迄引上ケラレ從テ其ノ經  
 營漁區數ハ著シク増加セラルルコトナリタリ  
 他方現在日本人借受漁區ハ漁業條約ノ期間滿了期即チ一九  
 三六年迄競賣ニ附セラレサルコトニ定メラレタルカ其ノ内  
 六十箇所ハ右決定ノ例外トシテ競賣ニ附セラルルコトナ  
 レリ故ニ本取極ニ依リ毎年競賣ニ附セラルヘキモノハ新漁  
 區(新ニ開設セラルルモノ)現ニ日本人借受ノ六十箇所及  
 蘇側ノ個人及國營以外ノ他ノ企業ノ借受漁區ナリトス  
 又本取極調印ト共ニ從來蘇聯邦ノ國營及他ノ企業ノ漁區借  
 受ニ關聯シ日蘇間ニ發生セル一切ノ係爭解決シタルモノト  
 認メラル右漁區貸付ノ手續及條件ハ日本側ノ意見ニ依レハ  
 日本當業者ノ一般的利益ヲ充分考慮セサリシモノト看做サ  
 レタルモノナリ